

**福井大学大学院医学系研究科
修士課程
看護学専攻**

授 業 要 項
2022

目 次

1. [修士課程] カリキュラム・ポリシー/ディプロマ・ポリシー	3
2. [修士課程] 2022年度 行事予定表	5
3. [修士課程] 2022年度 看護学専攻授業時間割表	6
4. 履修について	
2022年度 授業科目一覧表	10
看護学専攻履修の手引き	11
福井大学大学院医学系研究科規程	12
福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施要項	15
専門看護師教育課程履修の手引き	17
福井大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻における 専門看護師教育課程の履修規程	18
専門看護師教育課程における「課題研究」の審査基準等に関する申合せ	21
5. 授業科目について	
共通科目	
看護研究	23
看護倫理	25
看護理論	27
看護教育論	30
看護管理論	32
看護政策論	34
コンサルテーション論	36
ヘルスアセスメント	38
病態生理学	41
臨床薬理学	43
専門科目	
《基礎看護学》	
基礎看護学特論	47
基礎看護学演習	50
基礎看護学特別研究	52
《成人看護学》	
成人看護学特論	54
成人看護学演習	56
成人看護学特別研究	58
《災害看護学》	
災害看護学特論	60
災害看護学演習	62
災害看護学特別研究	64
《地域看護学》	
地域看護学特論	66
地域看護学演習	69
地域看護学特別研究	71

《老年看護学》	
老年看護学特論	73
老年看護学演習	75
老年看護学特別研究	77
《母子看護学》	
母子看護学特論	79
母子看護学演習	81
母子看護学特別研究	83
専門看護師教育課程（CNS）	
（がん看護）	
がん看護学特論Ⅰ	87
がん看護学特論Ⅱ	89
がん看護学特論Ⅲ	91
がん看護学特論Ⅳ	93
がん看護学特論Ⅴ	96
がん看護学演習Ⅰ	98
がん看護学演習Ⅱ	101
がん看護学実習Ⅰ	103
がん看護学実習Ⅱ	105
がん看護学実習Ⅲ	107
がん看護学実習Ⅳ	109
がん看護学課題研究	111
（災害看護）	
災害看護学特論Ⅰ	113
災害看護学特論Ⅱ	115
災害看護学特論Ⅲ	117
災害看護学特論Ⅳ	119
災害看護学演習Ⅰ	121
災害看護学演習Ⅱ	123
災害看護学演習Ⅲ	125
災害看護学実習Ⅰ	127
災害看護学実習Ⅱ	129
災害看護学実習Ⅲ	131
災害看護学実習Ⅳ	133
災害看護学課題研究	135
（老年看護）	
老年看護学特論Ⅰ	137
老年看護学特論Ⅱ	140
老年看護学特論Ⅲ	143
老年看護学特論Ⅳ	146
老年看護学特論Ⅴ	148
老年看護学演習Ⅰ	150
老年看護学演習Ⅱ	153
老年看護学実習Ⅰ	156
老年看護学実習Ⅱ	159
老年看護学実習Ⅲ	162
老年看護学課題研究	166

[修士課程] カリキュラム・ポリシー / ディプロマ・ポリシー

教育課程の構成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

福井大学大学院医学系研究科修士課程では、学位授与の方針で示す能力を確実に修得させるため、以下の方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

1. 体系的な教育課程（教育課程の編成の方針）

豊かな人間性と高い倫理観，幅広い知識と理論に基づく根拠のある技術力を有し，高度専門的看護ケア実践能力を備えた看護職のリーダーとなる人材を育成し，地域保健医療福祉に貢献できる看護職および看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者を養成するため「看護学専攻」に科目を編成します。

- (1) 論文課程では，基礎看護学，成人看護学，災害看護学，地域看護学，老年看護学および母子看護学の科目を設け，講義，演習および学位論文等の作成に必要な特別研究科目を配置します。
- (2) 専門看護師教育課程では，講義および演習により，各専門分野に必要な基礎的な知識・技術を修得させ，演習および実習により，エビデンスに基づく的確な判断，卓越したケア技術とキョアの知識を修得できるよう科目を配置します。

2. 効果的な教育方法（教育課程における教育・学習方法に関する方針）

- (1) 社会人大学院生に対して教育方法の特例を適用した柔軟な授業形態や履修指導を行い，学外非常勤講師による講義を活用し，教育目標を達成するための教育指導を行います。
- (2) 研究の進捗状況等を発表する中間研究報告会を義務付け，研究内容や手法について，指導教員以外や学生同士での助言や検討の場を設けます。また，修士学位申請時に，学位審査を兼ねた修士論文公開発表会を行います。
- (3) 大学院生ごとに指導教員を置き，必要に応じて副指導教員を配置します。
- (4) 共通および専門の各授業科目に教科主任となる科目担当責任教員を置き，授業内容に応じて複数の担当教員により実施される授業の一貫性を担保します。

3. 厳格な学修評価（学習成果の評価の方針）

- (1) 科目の成績評価は，「福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」に沿って行います。
- (2) 研究成果や研究遂行に求められる能力については，修士論文審査実施要項に定められた論文内容の信頼性及び発展性等の観点から評価します。

4. 改善のための教育評価

修士課程で実施する教育をより良いものとしていくため，カリキュラムや授業科目について，成果やアンケート等に基づき，随時，評価と検証を行い，継続的な改善に努めます。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

福井大学大学院医学系研究科修士課程では、本学大学院の学位授与方針及び修了後の進路等社会のニーズを踏まえ、所定の年限在籍し、体系的な教育課程により学業を修め、高度専門職業人として備えるべき以下の能力を修得した者に対し、修士（看護）の学位を授与します。

- (1) 高度な看護専門能力に裏打ちされた実践力と研究遂行力
- (2) 看護専門分野における実践的で高度な言語運用能力を備えたコミュニケーション力
- (3) 地域医療から世界までを視野に入れ、自ら看護課題を見つけて行動できる人間力
- (4) 論文課程では、専門性の高い高度な看護ケアを実践する能力、自らの知識と技術を磨く自己研鑽能力、科学的・理論的に判断し説明する能力、医学・看護学の発展のために研究を計画・実行し、その成果を公表する能力
- (5) 専門看護師教育課程では、個人、家族および集団に対して、キュアとケアの融合による高度な看護学の知識・技術を活用して対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる能力、高度な実践、教育、相談、研究、調整、倫理の6つの能力を駆使し、看護活動を創意工夫して変革できる能力

修士課程看護学専攻 2022年度行事予定表

月	日	曜日	行 事 等	備 考
4	6	金	入学式・新入生オリエンテーション	
	11	月	前期授業開始	前期授業4月11日～8月5日
	15	金	履修届提出期限	
5	6	金	定期健康診断	
	18	水	中間研究報告会	2年次生対象
6	10	金	修士論文提出締切日	9月修了予定者
	22	水	修士論文公開発表会	9月修了予定者
7	29	金	最終試験	9月修了予定者
8	5	金	前期授業終了	
9	30	金	学位記授与式	9月修了者
10	1	土	開学記念日	
	3	月	後期授業開始	後期授業10月1日～2月7日
11	24	木	中間研究報告会	翌年度9月修了予定者等
1	5	月	後期授業再開	～2月7日
	10	火	修士論文提出締切日	3月修了予定者
	26	木	修士論文公開発表会	3月修了予定者
2	7	火	後期授業終了	
3	1	水	最終試験	3月修了予定者
	23	木	学位記授与式	3月修了者
	31	金	学年終了	

※専門看護師教育課程(CNS) 課題研究に係る中間報告会, 最終報告会の日程は、別途お知らせします。

【修士課程】令和4年度 大学院医学系研究科修士課程（看護学専攻）授業時間割表
1年次生前期

時限 曜日	1	2	3	4	5	6	7
	8:45～10:15	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:00～19:30	19:40～21:10
月			看護管理論 (長谷川智 ^a)	看護研究 (長谷川智 ^a)		※看護管理論 (長谷川智 ^a)	※看護研究 (長谷川智 ^a)
火			基礎看護学特論 (長谷川智 ^a)	成人看護学特論 (繁田 ^a) がん看護学特論Ⅰ (磯見 ^a) 老年看護学特論Ⅱ (四谷 ^a)		※基礎看護学特論 (長谷川智 ^a)	※成人看護学特論 (繁田 ^a) ※がん看護学特論Ⅰ (磯見 ^a) ※老年看護学特論Ⅱ (四谷 ^a)
水			病態生理学 (磯見 ^a)	地域看護学特論 (長谷川美 ^a) がん看護学特論Ⅱ (磯見 ^a) 老年看護学特論Ⅲ (四谷 ^a)		※病態生理学 (磯見 ^a)	※地域看護学特論 (長谷川美 ^a) ※がん看護学特論Ⅱ (磯見 ^a) ※老年看護学特論Ⅲ (四谷 ^a)
木			コンサルテーション論 (長谷川智 ^a)	老年看護学特論 (四谷 ^a) 老年看護学特論Ⅰ (四谷 ^a) がん看護学特論Ⅲ (繁田 ^a)		※コンサルテーション論 (長谷川智 ^a)	※老年看護学特論 (四谷 ^a) ※老年看護学特論Ⅰ (四谷 ^a) ※がん看護学特論Ⅲ (繁田 ^a)
金			母子看護学特論 (波崎 ^a)	看護理論 (上原 ^a)		※母子看護学特論 (波崎 ^a)	※看護理論 (上原 ^a)

注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。
2 講義の開講場所は、3階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く）

【修士課程】令和4年度 大学院医学系研究科修士課程（看護学専攻）授業時間割表（案）
1年次生後期

時限 曜日	1	2	3	4	5	6	7
	8:45～10:15	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:00～19:30	19:40～21:10
月			看護政策論 (長谷川智 ^a)	災害看護学特論Ⅰ (未定) がん看護学特論Ⅳ (磯見 ^a) 老年看護学特論Ⅳ (四谷 ^a)		※看護政策論 (長谷川智 ^a)	災害看護学特論Ⅰ (未定) ※がん看護学特論Ⅳ (磯見 ^a) ※老年看護学特論Ⅳ (四谷 ^a)
火			災害看護学特論Ⅱ (未定) がん看護学特論Ⅴ (繁田 ^a) 老年看護学特論Ⅴ (四谷 ^a)	ヘルスアセスメント (長谷川智 ^a)		※災害看護学特論Ⅱ (未定) ※がん看護学特論Ⅴ (繁田 ^a) ※老年看護学特論Ⅴ (四谷 ^a)	※ヘルスアセスメント (長谷川智 ^a)
水	専門科目の演習 (担当教員)		看護倫理 (長谷川美 ^a)	看護教育論 (繁田 ^a)		※看護倫理 (長谷川美 ^a)	※看護教育論 (繁田 ^a)
木			専門科目の演習 (担当教員) がん看護学演習 (担当教員) 老年看護学演習Ⅰ (長谷川智 ^a)	専門科目の演習 (担当教員)		専門科目の演習 (担当教員) ※がん看護学演習 (担当教員) ※老年看護学演習Ⅰ (長谷川智 ^a)	※領域演習 (担当教員)
金			災害看護学特論Ⅲ (未定) がん看護学演習 (担当教員) 老年看護学演習Ⅱ (四谷 ^a)	臨床薬理学 (四谷 ^a)		災害看護学特論Ⅲ (未定) ※がん看護学演習 (担当教員) ※老年看護学演習Ⅱ (四谷 ^a)	※臨床薬理学 (四谷 ^a)

注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。
2 領域演習は、領域毎に担当教員の指導により4単位（120時間）の授業を行うものとする。
3 老年看護学の実習は、別途連絡します。
4 講義の開講場所は、3階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く）

【修士課程】令和4年度 大学院医学系研究科修士課程（看護学専攻）授業時間割表（案）
2 年次生前期

時限 曜日	1	2	3	4	5	6	7
	8:45～10:15	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:00～19:30	19:40～21:10
月	特別研究・課題研究（担当教員） ----- 専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習（担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員） ※専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習（担当教員）	
火	特別研究・課題研究（担当教員） ----- 専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習（担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員） ※専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習（担当教員）	
水	特別研究・課題研究（担当教員） ----- 専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習（担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員） ※災害看護学特論Ⅳ（未定） ※専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習（担当教員）	
木	特別研究・課題研究（担当教員） ----- 専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習（担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員） ※専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習（担当教員）	
金	特別研究・課題研究（担当教員） ----- 専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習（担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員） ※専門看護師教育課程（CNS）の演習及び実習（担当教員）	

- 注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。
 2 特別研究は、領域毎に担当教員の指導により12単位（360時間）の授業を行うものとする。
 3 災害看護学・がん看護学・老年看護学の課題研究は、担当教員の指導により2単位（60時間）の授業を行うものとする。
 4 災害看護学・がん看護学・老年看護学の実習等は、別途連絡します。
 5 講義の開講場所は、3階大学院講義室（特に教員が指定する場合を除く）

【修士課程】令和4年度 大学院医学系研究科修士課程（看護学専攻）授業時間割表（案）
2 年次生後期

時限 曜日	1	2	3	4	5	6	7
	8:45～10:15	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:00～19:30	19:40～21:10
月							
火							
水	特別研究・課題研究（担当教員） ----- 専門看護師教育課程（CNS）の実習（担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員） ※専門看護師教育課程（CNS）の実習（担当教員）	
木							
金							

- 注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。
 2 特別研究は、領域毎に担当教員の指導により12単位（360時間）の授業を行うものとする。
 3 災害看護学・がん看護学・老年看護学の課題研究は、担当教員の指導により2単位（60時間）の授業を行うものとする。
 4 災害看護学・がん看護学・老年看護学の実習は、別途連絡します。

履修について

2022年度 授業科目一覧表

教育 区分 研究	授 業 科 目	配 当 年 次	開 設 単 位	履 修 時 間 数	学生の所属教育研究区分						CNS学生			単 位 修 得	
					講 義	演 習	実 習	基 礎	成 人	災 害	地 域	老 年	母 子		が ん
共通科目	看護研究	1	2	30		●	●	●	●	●	●	△	△	△	指導教員の指導により下記のとおり修得しなければならない。 ●科目は必修 △科目から10単位以上選択 ☆どちらか一方、または両方を選択
	看護倫理	1	2	30		△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	看護理論	1	2	30		△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	看護教育論	1	2	30		△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	看護管理論	1	2	30		△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	看護政策論	1	2	30		△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	コンサルテーション論	1	2	30		△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	ヘルスアセスメント	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●	●	●	
	病態生理学	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●	●	●	
臨床薬理学	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●	●	●		
専門科目	看護学 基礎学	基礎看護学特論	1	2	30		●	△	△	△	△	△			基礎看護学を専門とする学生 ●看護研究2単位 ●基礎看護学の3科目18単位 △共通科目又は他の特論科目から10単位以上 計30単位以上を修得
		基礎看護学演習	1	4	120		●								
		基礎看護学特別研究	2	12	360		●								
	看護学 成人学	成人看護学特論	1	2	30		△	●	△	△	△	△			
		成人看護学演習	1	4	120			●							
		成人看護学特別研究	2	12	360			●				☆			
	看護学 災害学	災害看護学特論	1	2	30		△	△	●	△	△	△			
		災害看護学演習	1	4	120				●						
		災害看護学特別研究	2	12	360				●			☆			
	看護学 地域学	地域看護学特論	1	2	30		△	△	△	●	△	△			
		地域看護学演習	1	4	120					●					
		地域看護学特別研究	2	12	360					●					
	看護学 老年学	老年看護学特論	1	2	30		△	△	△	△	●	△			
		老年看護学演習	1	4	120						●				
		老年看護学特別研究	2	12	360						●	☆			
	看護学 母子学	母子看護学特論	1	2	30		△	△	△	△	△	●			
		母子看護学演習	1	4	120							●			
		母子看護学特別研究	2	12	360							●			
専門看護師教育課程（CNS）	がん看護	がん看護学特論Ⅰ	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●		地域看護学を専門とする学生 ●看護研究2単位 ●地域看護学の3科目18単位 △共通科目又は他の特論科目から10単位以上 計30単位以上を修得
		がん看護学特論Ⅱ	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●		
		がん看護学特論Ⅲ	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●		
		がん看護学特論Ⅳ	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●		
		がん看護学特論Ⅴ	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●		
		がん看護学演習Ⅰ	1	2	60							●			
		がん看護学演習Ⅱ	1	2	60							●			
		がん看護学実習Ⅰ	2	2	90							●			
		がん看護学実習Ⅱ	2	2	90							●			
	災害看護	がん看護学実習Ⅲ	2	4	180							●			
		がん看護学実習Ⅳ	2	2	90							●			
		がん看護学課題研究	1・2	2	60							☆			
		災害看護学特論Ⅰ	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●		
		災害看護学特論Ⅱ	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●		
		災害看護学特論Ⅲ	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●		
		災害看護学特論Ⅳ	2	2	30		△	△	△	△	△	△	●		
		災害看護学演習Ⅰ	1	2	60							●			
		災害看護学演習Ⅱ	2	2	60							●			
	老年看護	災害看護学演習Ⅲ	2	2	60							●			
		災害看護学実習Ⅰ	2	2	90							●			
		災害看護学実習Ⅱ	2	3	135							●			
		災害看護学実習Ⅲ	2	2	90							●			
		災害看護学実習Ⅳ	2	3	135							●			
		災害看護学課題研究	1・2	2	60							☆			
老年看護学特論Ⅰ		1	2	30		△	△	△	△	△	△	●			
老年看護学特論Ⅱ		1	2	30		△	△	△	△	△	△	●			
老年看護学特論Ⅲ		1	2	30		△	△	△	△	△	△	●			
老年看護学特論Ⅳ	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●				
老年看護学特論Ⅴ	1	2	30		△	△	△	△	△	△	●				
老年看護学演習Ⅰ	1	2	60							●					
老年看護学演習Ⅱ	1	2	60							●					
老年看護学実習Ⅰ	1	2	90							●					
老年看護学実習Ⅱ	2	4	180							●					
老年看護学実習Ⅲ	2	4	180							●					
老年看護学課題研究	1・2	2	60							☆					

※CNS学生は専門看護師教育課程のこと。

看護学専攻履修の手引き

1. 履修届の提出

所定の履修届を4月18日(月)までに提出してください。届出のない授業科目については、履修できません。なお、履修科目を変更するときは、提出した履修届を取りに来ていただき、修正のうえ担当教員の許可を得て、学務課教務担当へ再提出してください。

2. 提出先 福井大学学務部松岡キャンパス学務課 教務担当

電話 0776-61-8247 (直通) 0776-61-3111 (代表) 内線 2141

FAX 0776-61-8162

E-mail: m-kyomu@ml.u-fukui.ac.jp

3. 修了要件

修士課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学(休学期間は除く。)し、所定の授業科目について30単位以上*1を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文*2の審査及び最終試験に合格する必要があります。

修得単位については、授業科目一覧表(1頁)の「単位修得」欄をよく読んでください。

なお、在学期間に関して、優れた研究業績を上げたものについては、当該課程に1年以上在学すればよいこととなっています。

また、職業を有している等の事情により、標準修業年限(2年)を超えて一定の期間(4年以下)にわたり、計画的に教育課程を履修(「長期履修」という。)することを希望する場合は、学務課大学院担当へお問い合わせください。

※1 専門看護師の資格を取得しようとする学生は、40単位以上

※2 専門看護師の資格を取得しようとする学生は、課題研究の論文

4. その他

(1) 大学院学則により、修士課程における在学期間は、標準修業年限(2年)の2倍(4年)の年数(「長期履修」の場合は5年)を超えることができないことになっています。

また、休学期間は、通算して2年を超えることができないことになっています。

このため、入学してから在籍できる期間は、休学期間を含め最長6年間(「長期履修」の場合は7年間)となります。

(2) 医療並びに医学関連分野で活躍されている社会人の方々に、高度な医学研究能力を身に付けていただく機会を与えるために、授業科目によっては夜間にも開講しています。

(3) 諸事情により、授業時間割表と実際の開講時間が異なる場合がありますので、履修届の提出にあたっては、事前に担当教員に確認してください。

(趣旨)

第 1 条 福井大学大学院医学系研究科（以下「本研究科」という。）に関する事項は、福井大学大学院学則（平成 16 年福大則第 2 号。以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(教育研究上の目的)

第 2 条 大学院学則第 4 条第 2 項に規定する、本研究科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、次のとおりである。

医学系研究科

高度な医学及び看護学の知識を修得し、高い水準の医学研究を遂行できる研究能力や先端的で高度専門的な臨床技術を提供できる実践能力を身につけ、高い倫理観と豊かな人間性のもと、人類の健康福祉と社会福祉に貢献できる医療人を育成することを目的とする。

博士課程

統合先進医学専攻

医科学および生命科学領域において、高度な知識および科学的・論理的思考に基づき、独創性・創造性に優れた研究を遂行し、国際的にも活躍できる自立した研究者の養成、各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を備え、高い倫理観と研究マインドを持った臨床医高度専門医療人の養成、並びに地域に貢献ができる臨床研究能力や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・E R 救急医・家庭医を養成することを目的とする。

修士課程

看護学専攻

豊かな人間性と幅広く高度な看護理論・技術を有し、高度専門的看護ケア実践能力を備え、地域保健医療福祉に貢献できる看護職及び看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者を養成することを目的とする。

(研究科長)

第 3 条 医学系研究科に研究科長を置く。

2 研究科長に関し必要な事項は、別に定める。

(教育課程)

第 4 条 開設する授業科目、履修単位数及び履修年次等は、博士課程にあっては、別表 1、修士課程にあっては、別表 2 のとおりとする。

(修得単位)

第 5 条 博士課程の学生は、別表 1 に定める授業科目を指導教員の指導により、同表の修得単位欄に定めるとおり 30 単位以上を修得しなければならない。

2 修士課程の学生は、別表 2 に定める授業科目を指導教員の指導により、同表の修得単位欄に定めるとおり 30 単位以上を修得しなければならない。また、修士課程に専門看護師教育課程を置き、専門看護師の資格取得に係る履修科目、修得単位等について、別に定める。

3 指導教員が必要と認めた場合は、医学系研究科委員会の議を経て、他の課程又は本学大学院の他の研究科の授業科目を履修させ、これを当該課程で修得した単位とすることができる。ただし、当該修得単位は、修了要件の単位には算入しないものとする。

4 博士課程授業科目早期履修制度を利用する者は、医学系研究科委員会の議を経て、大学院の授業科目を履修することができ、博士課程入学後に単位を認定することがある。

(履修の届出)

第 5 条の 2 学生は、別表 1、2 より選択した授業科目を、当該授業科目担当教員及び指導教員の承認を経て、指定する期日までに所定の履修届により届け出なければならない。

2 学生は、前項の履修届の提出後に授業科目の変更をしようとするときは、指定する期日までに所定の手続を行わなければならない。

(単位の計算方法)

第5条の3 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

(単位修得の認定)

第5条の4 授業科目の単位修得の認定については、試験その他の審査により授業科目担当教員が行う。

(試験)

第6条 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

2 定期試験は、年1回行う。

3 追試験は、学生が、病気、災害等やむを得ない理由により定期試験を受験できなかったときに、願い出により行う。この場合において、当該願い出は、当該授業科目担当教員の承認を得て行わなければならない。

4 再試験は、定期試験又は追試験を受験し不合格となった学生に対して、願い出により行うことがある。

5 試験において不正行為を行った学生に対しては、当該試験を無効とし、大学院学則第43条の規定により懲戒する。

(成績の評価)

第7条 試験その他の審査による成績の評価については、評価点又は評価をもって表し、可否の認定は、次の表に掲げる基準により行う。ただし、再試験による評価は、60点以下とする。

評価点	評価	評価基準	認定
100点～90点	秀	目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果を挙げている	合格
89点～80点	優	目標を十分に達成している	
79点～70点	良	目標を概ね達成している	
69点～60点	可	目標を最低限達成している	
59点～0点	不可	目標を達成していない	不合格

(雑則)

第8条 大学院学則及びこの規程に定めるもののほか、本研究科に関する必要な事項は、医学系研究科長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年2月15日福大院医規程第1号)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成20年2月7日福大院医規程第1号)

1 この規程は、平成20年4月1日施行する。

2 平成20年3月31日以前に入学した者は、この規程第2条、別表1及び別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、看護学専攻の学生が、CNS(がん看護学)科目を履修希望する場合は、選考の上認めることがある。

附 則 (平成21年3月12日福大院医規程第1号)

この規程は、平成21年4月1日から施行し、この規程による改正後の福井大学大学院医学系研究科規程は、平成20年10月1日から適用する。

附 則 (平成22年6月17日福大院医規程第6号)

この規程は、平成22年10月1日から施行する。

附 則 (平成24年2月16日福大院医規程第1号)

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 24 年 3 月 15 日福大院医規程第 2 号）

- 1 この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 24 年 3 月 31 日以前に入学した学生は、この規程にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 25 年 1 月 17 日福大院医規程第 1 号）

- 1 この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 25 年 3 月 31 日以前に入学した学生は、この規程にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 25 年 3 月 19 日福大院医規程第 2 号）

- 1 この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 25 年 3 月 31 日以前に入学した者は、この規程第 2 条、別表 2 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 25 年 6 月 20 日福大院医規程第 3 号）

この規程は、平成 25 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 2 月 13 日福大院医規程第 1 号）

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 6 月 19 日福大院医規程第 2 号）

この規程は、平成 26 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 27 年 3 月 19 日福大院医規程第 1 号）

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 28 年 3 月 17 日福大院医規程第 1 号）

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 3 月 7 日福大規程第 31 号）

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 9 月 25 日福大規程第 71 号）

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 31 年 3 月 29 日福大規程第 23 号）

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（令和 2 年 3 月 2 日福大規程第 39 号）

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施要項

平成 30 年 1 月 23 日
医学系研究科長裁定

(趣旨)

第 1 条 この要項は、福井大学学位規程（平成 16 年福大規程第 30 号。以下「規程」という。）第 31 条の規定に基づき、修士の学位に係る学位論文（以下「修士論文」という。）審査の実施及び学位記授与に関する取扱いについて必要な事項を定める。

(出願者の資格及び提出期限)

第 2 条 規程第 3 条第 2 項の規定による修士論文の審査を願い出ることができる者は、福井大学大学院医学系研究科修士課程の最終学年（福井大学大学院学則（平成 16 年福大規程第 2 号）第 36 条ただし書の規定に該当する場合を含む。）に在学し、所定の単位を修得した者で、かつ、必要な研究指導を受けた者とする。

2 規程第 4 条の提出期限は、原則、次のとおりとする。

- (1) 3 月修了予定者 1 月 10 日
- (2) 9 月修了予定者 6 月 10 日

3 前項に定める日が土曜日、日曜日及び祝日のときは翌履修日を提出期限とする。

(出願のための提出書類等)

第 3 条 規程第 4 条に規定する提出書類の様式及び部数は、次の各号に掲げるとおりとし、提出する際には、指導教員の承認を得て学務部松岡キャンパス学務課に提出する。

- (1) 修士論文審査願（別紙様式第 1 号） 1 部
- (2) 論文目録（別紙様式第 2 号） 4 部
- (3) 修士論文 4 部
- (4) 論文内容要旨（別紙様式第 3 号） 4 部
- (5) 履歴書（別紙様式第 4 号） 1 部

必要に応じて以下を提出

- (6) 参考論文 4 部
(修士論文)

第 4 条 規程第 4 条の規定により提出する修士論文は、単著とする。

2 専門看護師の資格を取得しようとする学生は、課題研究の論文をもって修士論文に代えることができるものとし、その審査については別に定める。

3 論文提出後から最終試験までの間に、論文名に変更が生じた場合には、学位論文題目変更願（別紙様式第 5 号）により速やかに変更を届け出るものとする。

(修士論文の受理)

第 5 条 医学系研究科長は、修士論文の審査の出願があったときは、医学系研究科修士課程委員会（以下「修士課程委員会」という。）の議を経て修士論文を受理する。

(審査委員会の構成)

第 6 条 規程第 7 条第 1 項に規定する審査委員会委員は、3 名で構成する。

2 前項に規定する審査委員会は、修士課程委員会で協議のうえ選出した大学院担当教授 2 名及び指導教員 1 名で構成する。

3 前項の修士課程委員会で選出される 2 名の委員のうち 1 名は、提出論文の内容に応じた関連分野の准教授をもって代えることができる。

4 審査委員会は、修士課程委員会で選出された 2 名の委員のうち委員の互選により 1 名を主査とし、他の 2 名を副査とする。

(審査基準)

第 7 条 審査委員会は、論文内容の信頼性及び発展性等の観点から修士の学位にふさわしいものであるかを審査する。

(公開発表会)

第 8 条 審査委員会は、修士論文の審査の過程において、修士論文についての公開発表会を開催するものとする。

(最終試験)

第9条 審査委員会は、規程第8条に規定する最終試験を行うものとする。

(修士論文審査等の結果の報告)

第10条 審査委員会は、論文審査等の結果を、修士論文審査結果報告書(別紙様式第6号)により、修士課程委員会に報告するものとする。

(学位授与予定者の決定)

第11条 修士課程委員会は、規程第11条の規定により、前条の審査委員会による報告に基づき、学位を授与すべきか否かを審議し、単記無記名投票により議決するものとする。

2 研究科長は、規程第12条の規定により、前項で議決された者を学位授与予定者として学長へ報告する。

(修士論文の最終提出)

第12条 学位授与決定の通知を受けた者は、修士論文に表紙をつけて製本したもの2部を学位記授与日の前日までに医学系研究科長に提出するものとする。

(雑則)

第13条 この要項に定めるもののほか、修士論文審査の実施に関し必要な事項は、修士課程委員会の議を経て、別に定める。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

なお、福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施要項(平成28年4月1日学長裁定)は廃止する。

附 則

この要項は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、令和4年1月13日から施行し、令和4年1月1日から適用する。

専門看護師教育課程履修の手引き

本学の各専門看護師教育課程を修了することが、日本看護協会が行っている専門看護師認定審査の受験資格の一つとなっています。

- (認定審査) ・災害看護専門看護師
・がん看護専門看護師
・老年看護専門看護師

専門看護師教育課程を修了するには、

1. 各専門看護師教育課程で定めた科目のうち、38単位以上を修得する。
 - ① 共通科目Aは、次の7科目のうち8単位以上を修得する。
「看護研究2単位」，「看護倫理2単位」，「看護理論2単位」，
「看護教育論2単位」，「看護管理論2単位」，「看護政策論2単位」，
「コンサルテーション論2単位」
 - ② 共通科目Bは、次の3科目6単位を修得する。
「ヘルスアセスメント2単位」，「病態生理学2単位」，
「臨床薬理学2単位」
 - ③ 専攻教育課程科目の各教育課程で定める特論，演習，実習の全科目24単位を修得する。
2. 上記の単位修得に加え、「課題研究2単位（または特別研究12単位）」を修得することで、専門看護師教育課程を修了（修士学位の取得）となります。

福井大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻における
 専門看護師教育課程の履修規程

平成 28 年 7 月 20 日
 福大規程第 120 号

(趣旨)

第 1 条 この要項は、福井大学大学院医学系研究科規程（平成 16 年福大院医規程第 5 号）第 4 条第 2 項の規定に基づき、福井大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻における専門看護師教育課程（以下「専門看護師教育課程」という。）の履修科目、修得単位等に関し必要な事項を定める。

(教育課程の種類)

第 2 条 専門看護師教育課程は、次のとおり。

- (1) 災害看護専門看護師教育課程
- (2) がん看護専門看護師教育課程
- (3) 老年看護専門看護師教育課程

(授業科目等)

第 3 条 専門看護師教育課程の授業科目及び単位数は、次のとおり。

2 共通科目

区分	授業科目名	単位数
共通科目 A	看護研究	2 単位
	看護倫理	2 単位
	看護理論	2 単位
	看護教育論	2 単位
	看護管理論	2 単位
	看護政策論	2 単位
	コンサルテーション論	2 単位
共通科目 B	ヘルスアセスメント	2 単位
	病態生理学	2 単位
	臨床薬理学	2 単位

3 専攻教育課程科目

- (1) 災害看護専門看護師教育課程

授業科目名	単位数
災害看護学特論 I	2 単位
災害看護学特論 II	2 単位
災害看護学特論 III	2 単位
災害看護学特論 IV	2 単位
災害看護学演習 I	2 単位
災害看護学演習 II	2 単位
災害看護学演習 III	2 単位

災害看護学実習Ⅰ	2単位
災害看護学実習Ⅱ	3単位
災害看護学実習Ⅲ	2単位
災害看護学実習Ⅳ	3単位

(2) がん看護専門看護師教育課程

授業科目名	単位数
がん看護学特論Ⅰ	2単位
がん看護学特論Ⅱ	2単位
がん看護学特論Ⅲ	2単位
がん看護学特論Ⅳ	2単位
がん看護学特論Ⅴ	2単位
がん看護学演習Ⅰ	2単位
がん看護学演習Ⅱ	2単位
がん看護学実習Ⅰ	2単位
がん看護学実習Ⅱ	2単位
がん看護学実習Ⅲ	4単位
がん看護学実習Ⅳ	2単位

(3) 老年看護専門看護師教育課程

授業科目名	単位数
老年看護学特論Ⅰ	2単位
老年看護学特論Ⅱ	2単位
老年看護学特論Ⅲ	2単位
老年看護学特論Ⅳ	2単位
老年看護学特論Ⅴ	2単位
老年看護学演習Ⅰ	2単位
老年看護学演習Ⅱ	2単位
老年看護学実習Ⅰ	2単位
老年看護学実習Ⅱ	4単位
老年看護学実習Ⅲ	4単位

(修得単位)

第4条 各専門看護師教育課程の単位修得は、次の各号のとおりとする。

- (1) 前条第2項に掲げる共通科目Aから8単位以上かつ共通科目Bの6単位の合計14単位以上を修得すること。

- (2) 前条第3項に掲げる専攻教育課程科目から各号の課程ごとに指定するすべての科目を修得すること。
- (3) 修士の学位取得のため、必要な研究指導を受けた課題研究(または特別研究)を修得すること。

附 則

- 1 この規程は、平成28年7月20日から施行し、平成28年4月1日から適用する。
- 2 平成28年3月31日以前に入学した学生は、この規程の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 福井大学大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)における災害看護専門看護師資格取得のための履修に関する要項(平成25年3月14日 医学系研究科長裁定)は、廃止する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

専門看護師教育課程における「課題研究」の審査基準等に関する申合せ

令和4年1月13日
修士課程委員会決定

(趣旨)

第1条 この申合せは、福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施要項（平成30年1月23日医学系研究科長裁定。以下「要項」という。）第4条第2項の規定に基づき、課題研究の論文に係る審査基準等に関し必要な事項を定める。

(課題研究)

第2条 課題研究とは、臨床現場において実用可能性が高い研究論文のことを指し、以下の内容を含める。

- (1) 看護に関する特定の現象の探求
- (2) 援助技術や看護体制、システムの評価研究
- (3) プログラムの開発
- (4) 先駆的看護援助方法の検証
- (5) 事例研究（看護の働きかけによる明らかな変化や成果等が得られた事例であること）
- (6) 文献研究（研究成果、実践事例、看護や保健行動に関する概念や理論等によって系統的に組み立てられていること）

(審査基準)

第3条 課題研究の審査基準は、以下のとおりとする。

- (1) 研究目的は専門看護師分野の知識・技術の向上や開発を図るための意義があること。
- (2) 研究の方法は専門看護分野において妥当であること。
- (3) 実践の場における研究であること。
- (4) 研究の方法及び対象者に対して倫理的配慮がなされていること。
- (5) 考察と結論が妥当であること。

(審査教員の要件)

第4条 課題研究の審査は、専門看護師教育課程の課題研究担当教員が担当する。

2 課題研究担当教員は、当該教育課程の置かれている大学院に所属する教員とし、非常勤教員も可とする。

3 課題研究の審査に主査を置き、課題研究担当教員をもって充てる。

(報告会)

第5条 主査は、研究課題の審査の過程において、最終報告会を開催するものとする。

(最終試験)

第6条 要項第9条に規定する最終試験は、最終報告会により行う。

(審査等の結果の報告)

第7条 主査は、審査結果を修士課程委員会に報告するものとする。

2 報告書の様式は、要項第10条に規定する修士論文審査結果報告書(別紙様式第6号)に準ずる。

附 則

この申合せは、令和4年1月13日から施行し、令和4年1月1日から適用する。

授 業 科 目 に つ い て

【 共 通 科 目 】

注) 「担当教員名」の○印は、単位認定者を表す。

教育研究区分：		共通科目		科目番号：		62CSU101	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1年次前期					
授業科目名：				キーワード：			
看護研究				質的研究、量的研究、研究倫理、文献検討、アクションリサーチ			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○長谷川 智子		教授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp			
四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp			
米澤 洋美		准教授／コミュニティ看護学		hyone@u-fukui.ac.jp			
坂下 雅文		講師／医学研究支援センター		msaka@u-fukui.ac.jp			
渡邊 享平		講師／医学研究支援センター		kyohei@u-fukui.ac.jp			
江本 リナ		教授／日本赤十字看護大学		emoto@redcross.ac.jp			
学修目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床看護実践の質の向上に資する看護研究の意義と主要な研究方法を習得する。 2. 看護研究の知識と具体的なプロセスを学び、臨床の看護事象から研究主題を絞り込み、科学的探究と理論的説明ができる能力を養う。 3. 帰納法・演繹法を理解したうえで、研究課題に合った研究方法を選択し計画する能力を養う。 							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	看護実践と研究のプロセス (1)	(1) 臨床実践における研究活動の意義				長谷川智子	
2	看護実践と研究のプロセス (2)	(2) 研究主題の明確化と研究計画・方法・分析				長谷川智子	
3	研究における利益相反と倫理的配慮 (1)	(1) 利益相反への配慮				坂下雅文	
4	研究における利益相反と倫理的配慮 (2)	(2) 倫理的配慮と審査委員会の意義				渡邊享平	
5	文献検討の意義とエビデンス (1)	(1) 文献の重要性と成果の活用				四谷淳子	
6	文献検討の意義とエビデンス (2)	(2) 検索と吟味 (クリティーク)				四谷淳子	
7	質的研究 (1)	(1) 研究の特徴				米澤洋美	
8	質的研究 (2)	(2) データ収集方法				米澤洋美	
9	質的研究 (3)	(3) データの分析と考察				米澤洋美	
10	量的研究 (1)	(1) 研究の特徴				長谷川智子	
11	量的研究 (2)	(2) 調査研究法				長谷川智子	
12	量的研究 (3)	(3) 量的データの扱いと分析 (統計的処理)				長谷川智子	
13	量的研究 (4)	(4) 結果の検討と考察				長谷川智子	
14	アクションリサーチ (1)	(1) アクションリサーチの概念				江本リナ	
15	アクションリサーチ (2)	(2) 看護実践とアクションリサーチ				江本リナ	
授業の形式				授業形態			
講義 ・ 演習				対面・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム) 上記の中から併用 ()			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験／演習 ・ 実習 ・ 問題解決型学習 ・ ミニッツペーパー ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション 							

到達目標	
<p>研究プロセスが理解できる。 研究倫理が理解できる。 文献検討の意義が理解でき、クリティークができる。 質的研究のプロセスが理解できる。 量的研究のプロセスが理解できる。 アクションリサーチのプロセスが理解できる。</p>	
準備学習（予習・復習）	
<p>○予習 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第1～2回 看護研究のプロセスについて 第3～4回 研究倫理について 第5～6回 文献検討について 第7～9回 質的研究の特徴について 第10～13回 量的研究の特徴について 第14～15回 アクションリサーチについて</p> <p>○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>	
成績評価方法	
<p>学習態度（講義受講状況）、レポートにより総合的に評価する。 レポート課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 研究計画書をA4レポート2枚にまとめること。 ✓ テーマは何でも可 ✓ 調査内容を明記する必要があるが、調査票を作成する必要はない。 	
成績評価基準	
<p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。</p>	
教科書及び参考書	
<p>教科書：特に指定はない</p> <p>参考書：</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 松木光子、小笠原知枝編。(2012) これからの看護研究、基礎と応用. ヌーベルヒロカワ：東京、4861740355 (2) 石井京子、多尾清子。(2002) ナースのための質問紙調査とデータ分析. 医学書院：東京、4260332082 (3) 筒井真優美、江本リナ他。(2010) アクションリサーチ入門、看護研究の新たなステージへ. ライフサポート：東京、4904084209 (4) 大谷尚。(2019) 質的研究の考え方、研究方法論から SCAT による分析まで. 名古屋大学出版会：愛知、4815809445 	
その他履修上の注意点等	
<p> </p>	
代表者 (氏名・E-Mail)	長谷川智子 hasekatz@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：		62CSU102	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1年次後期					
授業科目名：				キーワード：			
看護倫理				倫理的調整、意思決定、生命操作、臓器移植、延命治療、専門看護師			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○ 長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp			
糟野 健司		准教授／腎臓病態内科学		kasuno@u-fukui.ac.jp			
西村 高宏		准教授／医学教育・倫理学		tanishi@u-fukui.ac.jp			
米田 誠		教授／福井県立大学		myoneda@fpu.ac.jp			
中野 妃佐恵		がん看護専門看護師・乳がん看護認定看護師／福井県立字病院		h-nakano-9e@pref.fukui.lg.jp			
富永 知恵子		がん看護専門看護師・がん化学療法看護認定看護師／福井赤十字病院		echemo.cn@gmail.com			
学修目標							
卓越した看護実践の基礎となる倫理的調整に必要な基礎的能力を獲得するため、臨床看護の実践における倫理的問題を明確化し、倫理的調整の土台となる諸理論の特徴および問題解決に必要な知識を教授する。また、それらを踏まえ、看護実践場面で経験する倫理的問題を検討することで、自己の考え方を見直し、倫理的感受性を高め、専門看護師としての倫理的調整に必要な基礎的能力を獲得する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	倫理的調整に必要な基礎知識 1)	倫理原則：倫理原則に基づくアプローチ				長谷川	
2	” 2)	看護実践上の倫理的概念：看護師の倫理的意思決定の基盤となる概念				”	
3	倫理的意思決定への支援 1)	価値形成と価値の対立				”	
4	” 2)	医療職とインフォームド・コンセント				西村	
5	” 3)	医療者、患者、家族の意思決定				”	
6	看護実践場面で直面する倫理的問題 1)	生命操作と倫理的問題 1)：生殖医療				”	
7	” 2)	生命操作と倫理的問題 2)：遺伝子医療				米田	
8	” 3)	生命操作と倫理的問題 3)：事例検討				”	
9	” 4)	臓器移植と倫理的問題：脳死・臓器移植				糟野	
10	” 5)	延命治療と倫理的問題：延命操作・薬害問題				西村	
11	看護実践における倫理調整 1)	専門看護師としての倫理的調整の実際 1)				中野	
12	” 2)	専門看護師としての倫理的調整の実際 2)				中野	
13	” 3)	専門看護師としての倫理的調整の実際 3)				富永	
14	看護倫理と研究 1)	倫理審査委員会				長谷川	
15	” 2)	CITI Japan PROGRAM				”	
授業の形式				授業形態			
講義 ・ 演習				対面 ・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム)			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・プレゼンテーション ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・ミニレポート ・ディスカッション							

到達目標	
<p>1) 看護実践場面での倫理的調整に必要な生命倫理、看護倫理に関する知識を獲得する。</p> <p>2) 看護実践場面で遭遇した倫理的問題を抱える事例を検討し、本人、家族、医療職等のそれぞれの立場・価値観の違いから生じる葛藤を明確化できる。</p> <p>3) 看護実践場面で直面する倫理的問題について、専門看護師として発言することができる。</p>	
準備学習（予習・復習）	
<p>○予習 本授業は、多様な視点から看護倫理について学ぶ講義内容となっています。授業では各テーマに応じて看護倫理について扱いますので、そのテーマに関連する内容を各自で事前に把握しておくこと。わからない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。</p> <p>○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>	
成績評価方法	
<p>修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。</p>	
成績評価基準	
<p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。</p>	
教科書及び参考書	
<p>【教科書】 指定なし</p> <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) サラ T. フライ著、片田範子・山本あい子訳：看護実践の倫理第3版、日本看護協会出版会、2010. 2) 宮坂道夫著、医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ（第3版）：医学書院、2016. 3) 岡崎寿美子、小島恭子編集；ケアの質を高める看護倫理 ジレンマを解決するために、医歯薬出版株式会社、2002 <p>その他、講義で適宜提示する。また、必要に応じて資料を配布する。</p>	
その他履修上の注意点等	
<ul style="list-style-type: none"> ・質問は担当回の教員にメールしてください。 ・質問・相談は随時受け付けます。 	
代表者 (氏名・E-Mail)	長谷川美香・mikah@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：		62CSU103	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1年次前期		キーワード：			
授業科目名：				看護理論			
担当教員名				職名／所属			
○上原 佳子				教授／基盤看護学			
月田 佳寿美				准教授／臨床看護学			
Eメールアドレス				uehara@u-fukui.ac.jp			
tsuki@u-fukui.ac.jp							
学修目標							
看護理論の変遷と諸理論の特徴について知識を深め、諸理論と看護現象との関係について理解し、各看護領域の実践、教育、研究に活用するための視点を探求する。また、その存在論的、認識論的、方法論的前提を分析し、看護の理論的基盤を模索する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	看護理論とは (1)	理論の定義、看護理論とは、看護理論の種類				上原	
2	看護理論とは (2)	看護理論の歴史、実践での理論の活用、中範囲理論				上原	
3	人間の心理行動に関連する理論 (1)	ストレス理論				上原	
4	人間の心理行動に関連する理論 (2)	コーピング理論				上原	
5	人間の心理行動に関連する理論 (3)	危機理論				上原	
6	看護介入に必要な理論 (1)	自己効力理論				上原	
7	看護介入に必要な理論 (2)	病みの軌跡				上原	
8	看護介入に必要な理論 (3)	健康行動モデル				上原	
9	看護理論：環境論	ナイチンゲールの理論と活用				上原	
10	看護理論：ニード論	ヘンダーソンの理論と活用				月田	
11	看護理論：セルフケア理論	オレムの理論と活用				月田	
12	看護理論：対人関係理論	ペプロウの理論と活用				上原	
13	看護理論：看護ケアの臨床知	ベナーの理論と活用				月田	
14	看護理論：演習 (1)	看護理論についてのプレゼンテーション (1)				上原	
15	看護理論：演習 (2)	看護理論についてのプレゼンテーション (2)				上原	
授業の形式				授業形態			
講義 ・ 演習				対面 ・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム) 上記の中から併用			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・ 実験／演習 ・ プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション							
到達目標							
1. 看護理論の変遷について理解できる。 2. 看護理論における人間、環境、健康の捉え方を理解できる。 2. 授業で紹介された理論について概要を説明できる。 3. 看護実践における理論の活用について考察できる。							
準備学習 (予習・復習)							
○予習 各授業の学修内容について、参考図書等を熟読し、概要を把握しておくこと。分からない用語やより深く知れた							

いことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。

○復習

授業資料の読み返し、参考図書での追加学修により理解に努めること。

成績評価方法

レポート、プレゼンテーション内容、授業への取り組み態度・ディスカッションへの参加度等の修学態度により総合的に評価する。

評価基準：課題レポート 40%、プレゼンテーション 40%、修学態度 20%、計 100%

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。

教科書及び参考書

教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。

[参考図書]

- (1) 筒井真優美 編：看護理論家の業績と理論評価（第 2 版）、医学書院、東京、2020。ISBN-13:978-4260039611
- (2) アン・マリナー・トメイ他編著；都留伸子監訳：看護理論家とその業績（第 3 版）、医学書院、東京、2004。
ISBN-13:978-4260333399
- (3) 城ヶ端初子 編著：実践に生かす看護理論 19（第 2 版）サイオ出版、東京、2018。ISBN-13:978-4907176716
- (4) 佐藤栄子 編著：中範囲理論入門-事例を通してやさしく学ぶ（第 2 版）、日総研出版、名古屋、2009。
ISBN-13:978-4776014140
- (5) 野川道子 編著：看護実践に活かす中範囲理論（第 2 版）、メヂカルフレンド社、東京、2016。
ISBN-13:978-4839216122
- (6) リチャード・S・ラザルス、スーザン・フォルクマン著；本明寛、春木豊、織田正美 監訳：ストレスの心理学－
認知的評価と対処の研究－、実務教育出版、東京、1991。ISBN-13:978-4788960701
- (7) リチャード・S・ラザルス著；本明寛 監訳：ストレスと情動の心理学－ナラティブ研究の視点から－、実務教育
出版、東京、2004。ISBN-13:978-4788960794
- (8) Woog P. 編：The Chronic Illness Trajectory Framework－The Corbin and Strauss Nursing Model－黒江ゆり子
他訳：慢性疾患の病みの軌跡 コービンとストラウスによる看護モデル、医学書院、東京、1995。ISBN-13:978-
4260341721
- (9) 松本千明：医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎 生活習慣病を中心に、医歯薬出版株式会社、東京、
2002。ISBN-13:978-4263233375
- (10) 坂野雄二、前田基成編著：セルフ・エフィカシーの臨床心理学、北大路書房、京都、2002。ISBN-13:978-4762822636
- (11) フロレンス・ナイチンゲール著；湯槇ます 他訳：看護覚え書-看護であること・看護でないこと-（改訳第 7 版）、
現代社、東京、2011。ISBN-13:978-4874741429
- (12) ヴァージニア・ヘンダーソン著；湯槇ます 他訳：看護の基本となるもの（再新装版）、日本看護協会出版会、
東京、2016。ISBN-13:978-4818019966
- (13) ドロセア・E. オレム著；小野寺杜紀 訳：オレム看護論 看護実践における基本概念（第 4 版）、医学書院、東
京、2005。ISBN-13:978-4260000604
- (14) ヒルデガート・E. ペプロウ著；稲田八重子 他訳：人間関係の看護論、医学書院、東京、1973。ISBN-13:978-
4260344784
- (15) パトリシア・ベナー著；井部俊子 他訳：ベナー看護論-初心者から達人へ（新訳版）、医学書院、東京、2005。
ISBN-13:978-4260001090

その他、講義で適宜提示する。

その他履修上の注意点等

質問は、授業内容に関することは担当回の教員、授業の評価や課題レポート、プレゼンテーション等科目全体に関することは代表教員にメール連絡すること。

代表者**(氏名・E-Mail)**

上原佳子・uehara@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：		62CSU104	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1年次後期					
授業科目名：				キーワード：			
看護教育論				教育 方略 評価 成人学習 教育機能 教育活動 生涯教育			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○ 繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp			
白鳥 さつき		教授／名古屋学芸大学		sshira@nuas.ac.jp			
富永 知恵子		がん看護専門看護師・がん化学療法看護認定看護師／福井赤十字病院		chemo.cn@gmail.com			
中野 妃佐恵		がん看護専門看護師・乳がん看護認定看護師／福井県立病院		h-nakano-9e@pref.fukui.lg.jp			
学修目標							
<p>1) 看護実践・教育における教育的機能を効果的に果たすために必要な教育学の基礎理論を理解し、看護の継続教育に必要な知識と技術を修得する。</p> <p>2) 看護実践力向上に必要な実践知・理論知に基づく教育力・判断力を養い、専門看護師としての看護教育実践活動が展開できる能力を養う。</p>							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1)	教育学の基礎理論(1)	看護実践における教育の重要性 学習活動に影響する要因				繁田	
2)	教育学の基礎理論(2)	実践知とは				〃	
3)	教育学の基礎理論(3)	教育方略と教育評価				〃	
4)	臨床看護実践における学習者の理解と成人学習(1)	成人学習論における学習過程				白鳥	
5)	臨床看護実践における学習者の理解と成人学習(2)	臨床看護実践における学習支援				〃	
6)	専門看護師教育と生涯教育(1)	キャリア形成と能力開発(1)				〃	
7)	専門看護師教育と生涯教育(2)	キャリア形成と能力開発(2)				〃	
8)	教育活動と継続教育(1)	専門看護師の教育的役割				富永	
9)	教育活動と継続教育(2)	看護ケア向上における教育的機能				〃	
10)	教育活動と継続教育(3)	看護教育活動の実際(1)				中野	
11)	看護実践における教育課題の検討	プレゼンテーション(1)				繁田	
12)	看護実践における教育課題の検討	討議(1)				〃	
13)	看護実践における教育活動の検討	プレゼンテーション(2)				〃	
14)	看護実践における教育活動の検討	討議(2)				〃	
15)	看護実践における教育活動の検討	討議とまとめ(3)				〃	
授業の形式				授業形態			
講義 ・ 演習				対面			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
<ul style="list-style-type: none"> ・演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク ・ミニレポート ・ディスカッション 							

到達目標	
1) 看護教育の重要性について説明できる。 2) 教育方略を用いた教育評価について説明できる。 3) 成人学習論を用いた学習支援について説明できる。 4) キャリア形成と能力開発について説明できる。 5) 看護ケア向上のための教育機能・教育的役割について説明できる。 6) 看護実践における教育活動・教育課題について説明できる。	
準備学習（予習・復習）	
予習:各単元に関連した文献、参考図書をレビューし、わからない用語やより深く知りたいことが生じた場合は、自分で調べたうえで授業に臨むこと。 復習:授業資料等を基に授業で学んだ内容を振り返り、理解を深めること。	
成績評価方法	
修学態度、プレゼンテーション、レポート、ディスカッション等について各教員が評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。無断での欠席は修学態度として減点対象とする。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
1) ドナルド・ショーン：専門家の知恵 ゆるみ出版。 2) ドナルド・A・ショーン：柳沢昌一他（監訳）省察的実践とは何か-プロフェッショナルの行為と思考- 鳳書房。 3) ジーン・レイヴ エティエンヌ・ウェンガー：佐伯 胖（訳）状況に埋め込まれた学習-正統的周辺参加 産業図書。 4) サラ・バーンズ編：田村由美他（監訳）看護における反省的実践-専門的プラクティショナーの成長- ゆるみ出版。 5) ユーリア・エングストローム：山住勝広他（訳）拡張による学習-活動理論からのアプローチ- 新曜社。 6) ジョン・デューイ：市村尚久（訳）学校と社会 子供とカリキュラム 講談社学術文庫。	
その他履修上の注意点等	
・質問・相談は随時受け付けます。	
代表者 (氏名・E-Mail)	繁田里美 (shigeta@u-fukui.ac.jp)

教育研究区分：		共通科目		科目番号：		62CSU105	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1年次前期		キーワード：			
授業科目名：				看護管理論			
キーワード：				看護管理、マネジメント			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○長谷川 智子		教授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp			
五十嵐 行江		副院長・看護部長／看護部		yukih@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
<p>1) 保健医療システムについて理解し、看護管理者として携わる看護職と協力して、専門看護師としての職務が遂行できるように専門的知識を学ぶ。</p> <p>2) 看護サービスの特徴とアウトカムとしての評価方法について説明できる。</p> <p>3) 医療政策、政策決定への影響力、社会の変化を裏づけ説明できる。</p> <p>4) 看護管理上の課題を理解する。</p>							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	看護とマネジメント (1章)	看護管理の概念、看護マネジメント、マネジメントの考え方の変遷				長谷川	
2	マネジメントの基礎地知識 (5章)	マネジメントの定義、組織マネジメント、リーダーシップ				長谷川	
3	キャリアマネジメント (3章)	看護職のキャリア形成				長谷川	
4	看護サービス論 (1)	サービスの概念と看護サービスにおける人材開発				五十嵐	
5	看護サービス論 (2)	看護サービスのマネジメントと評価				五十嵐	
6	看護サービス論 (3)	看護サービスと看護体制				五十嵐	
7	ヘルスケアシステムの構造と現状	社会保障制度、地域包括ケアシステム、社会保障制度改革				長谷川	
8	看護サービスの質保証	看護サービス管理の基本				長谷川	
9	看護サービスの質保証	組織改革とリーダーシップ				長谷川	
10	看護実践のアウトカム評価	組織の成り立ちと組織マネジメント、組織の分析方法				長谷川	
11	看護実践のアウトカム評価	実践のデータ化				長谷川	
12	看護実践のアウトカム評価	アウトカムの数値化				長谷川	
13	組織分析の実際	SWOT・クロス分析の実際：演習				長谷川	
14	組織分析の実際	SWOT・クロス分析の実際：演習				長谷川	
15	組織分析の実際	SWOT・クロス分析の実際：演習				長谷川	
授業の形式				授業形態			
講義 ・ 演習				対面・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム) 上記の中から併用			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・ 実験／演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション							

到達目標	
1. 看護におけるマネジメントの基礎が理解できる。 2. 看護サービスが理解できる。 3. 看護サービスの質管理が理解できる。 4. 看護実践のアウトカム評価ができる。 5. 組織分析の実際が理解できる。	
準備学習（予習・復習）	
○予習 各授業の学修内容について、参考図書等を読み、学修内容の概要を把握しておくこと。分からない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。	
○復習 授業資料の読み返しにより理解に努めること。	
○課題レポート 自らの施設について SWOT 分析を行い、A4 2 ページ程度にまとめる。	
成績評価方法	
課題レポート、学態度により評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
教科書及び参考書	
教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。	
<参考図書> (1) 上泉和子他：看護の統合と実践[1]看護管理、医学書院、2020、978-4260031820 (2) 深澤優子著：SWOT クロス分析第 1 版第 7 刷、日総研、2020、978-4776017745	
その他履修上の注意点等	
授業内容に関する質問は担当回の教員、授業の評価や課題レポートは代表教員にメール連絡すること。	
代表者 (氏名・E-Mail)	長谷川 智子・hasekatz@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：		62CSU106	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1年次後期		キーワード：		看護政策、医療政策、関係法規、医療福祉制度、保健医療システム	
授業科目名：				キーワード：			
看護政策論				看護政策、医療政策、関係法規、医療福祉制度、保健医療システム			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○長谷川 智子		教授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp			
五十嵐 行江		副院長・看護部長／看護部		yukih@u-fukui.ac.jp			
北出 順子		准教授／コミュニティ看護学		jkitade@u-fukui.ac.jp			
山村 修		教授／地域医療推進講座		kapi@u-fukui.ac.jp			
三嶋 一輝		主任医療ソーシャルワーカー／ 福井大学医学部附属病院					
学修目標							
1) 社会的な看護のあり方を政策として把握し、看護政策や変革を推進するための看護制度の運営に参加できる基礎的能力の向上のために、関連知識を得る。							
2) 保健医療システム、人的資源活用および組織論に関する基礎理論を理解するとともに、専門職としての能力基盤を高める。							
3) 医療政策、看護政策の形成過程と影響力について探究する。							
4) 政策が策定される過程の検討、政策の分析を通じ、看護実践に対する新しい視点を培う。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	医療施策と看護	多職種連携と看護の専門性				長谷川	
2	医療制度と看護の役割	看護政策形成過程 医療制度と看護との関係				長谷川	
3	医療政策と病院経営	国民の医療ニーズに基づく良質の医療提供体制				五十嵐	
4	医療事故と法的解釈	医療事故の対応と経営への影響				五十嵐	
5	専門看護師の組織への導入	専門看護師の活動の場				五十嵐	
6	制度と社会資源の活動	呼吸ケアに関する福祉制度				三嶋	
7	制度と社会資源の活用	福祉サービス活用				三嶋	
8	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムと地域呼吸ケアネットワーク				山村	
9	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムと地域呼吸ケアネットワーク				山村	
10	地域包括ケアシステムと看護	地域包括ケアシステムと地域呼吸ケアネットワーク				長谷川	
11	地域包括ケアシステムと看護	地域包括ケアシステムと地域呼吸ケアネットワーク				長谷川	
12	高齢者を支える諸制度と社会資源	認知症施策推進総合戦略				長谷川	
13	高齢者を支える社会資源	介護保険制度、感染症法				北出	
14	意思決定支援	運転免許に関する制度、意思決定支援				長谷川	
15	意思決定資源	成年後見制度、高齢者虐待防止法				長谷川	
授業の形式				授業形態			
講義 ・ 演習				対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用			

アクティブ・ラーニングの導入状況	
・実験／演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・授業外学習の推進 ・ディスカッション	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療制度と看護の役割が理解できる。 2. 医療制度と社会資源の活動が理解できる。 3. 地域包括ケアシステムが理解できる。 4. 高齢者を支える諸制度と社会資源が理解できる。 5. 意思決定支援が理解できる。 	
準備学習（予習・復習）	
○予習 各授業の学修内容について、参考図書等を読み、学修内容の概要を把握しておくこと。分からない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。	
○復習 授業資料の読み返しにより理解に努めること。	
○課題レポート 施策が変わったことにより看護に変革が起こった事例について、A4 用紙 2 枚程度にまとめる。	
成績評価方法	
課題レポート、学態度により評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
教科書及び参考書	
教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。	
＜参考図書＞	
(1) 野村陽子：看護制度と施策、法政大学出版局、2018、 978-4588675188	
(2) 見藤隆子ほか：看護職のための政策過程入門第 2 版、制度を変えると看護が変わる、日本看護協会出版会、2017、978-4818020511	
その他履修上の注意点等	
授業内容に関する質問は担当回の教員、授業の評価や課題レポートは代表教員にメール連絡すること。	
代表者 (氏名・E-Mail)	長谷川 智子・hasekatz@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：	共通科目		科目番号：	62CSU107	
単位数：	2単位	コマ数	15コマ	開講時期：	1年次前期
授業科目名：	コンサルテーション論			キーワード：	コンサルテーション、相談、援助関係
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス		
○長谷川 智子	教授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp		
上原 佳子	教授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp		
米澤 洋美	准教授／コミュニティ看護学		hyone@u-fukui.ac.jp		
北野 華奈恵	講師／基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp		
高森 巳早都	認知症看護認定看護師／福井大学 看護キャリアアップ部門		nmisato@u-fukui.ac.jp		
学修目標					
<p>専門看護師等の高度実践看護師が看護師や管理者などから臨床的な相談を受けた時、その相談内容を分析し、状況を改善するための知識や技術を助長するようなケアが提供できるように基礎的知識およびカウンセリングや問題解決技法を修得する。また、専門看護師等による高度な知識と技術を駆使した実践的なコンサルテーションのあり方を理解し、実践できる能力を修得する。</p>					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)	教員		
1	コンサルテーションの定義	コンサルテーションの概念と基本 [1-1]	長谷川		
2	コンサルテーションの定義	コンサルテーションの概念と基本 [1-1]	長谷川		
3	コンサルテーションの定義	コンサルテーションのプロセスと援助関係の構築 [1-2]	長谷川		
4	コンサルテーションの定義	コンサルテーションのプロセスと援助関係の構築 [1-2]	上原		
5	コンサルテーションの定義	コンサルテーションの方法 [2-1]	上原		
6	コンサルテーションの実際	1) 施設内におけるコンサルテーションの実際 (3-①)	北野		
7	コンサルテーションの実際	2) 施設内におけるコンサルテーションの実際 (3-②)	高森		
8	コンサルテーションの実際	1) 地域・在宅領域におけるコンサルテーションの実際 (3-①)	米澤		
9	コンサルテーションの実際	2) 地域・在宅領域におけるコンサルテーションの実際 (3-②)	米澤		
10	コンサルテーションの実際	【演習課題】 自らのコンサルタントあるいはコンサルティとしての経験についてまとめ、その時の自らの行動と考えについて客観的に評価する。	長谷川		
11	コンサルテーションの実際		長谷川		
12	コンサルテーションの実際	【演習課題】 コンサルテーションの意義とコンサルテーションのスキルにはどのようなものがあるのかについて事例を用いて述べる。	北野		
13	コンサルテーションの実際		北野		
14	コンサルテーションの実際	【演習課題】 コンサルテーションに関連する研究論文(原著論文・研究報告)を一つ選び、内容を要約し、学んだこと・考えたことをレポートにまとめる。	上原		
15	コンサルテーションの実際		上原		
授業の形式			授業形態		
講義 ・ 演習			対面 ・ 遠隔(オンデマンド) ・ 遠隔(リアルタイム) 上記の中から併用		

アクティブ・ラーニングの導入状況	
・実験／演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・授業外学習の推進 ・ディスカッション	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 高度実践看護師によるコンサルテーションの概念を述べることができる。 2) 臨床的な相談に対して、高度実践看護師として専門的な状況分析ができる。 3) 臨床的問題に対して、高度実践看護師として問題解決に向けた技術を提供できる。 	
準備学習（予習・復習）	
<p>○予習</p> <p>各授業の学修内容について、参考図書等を読み、学修内容の概要を把握しておくこと。分からない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。</p> <p>○復習</p> <p>授業資料の読み返しにより理解に努めること。</p> <p>○課題レポート</p> <p>演習課題に関するレポートをまとめる。</p>	
成績評価方法	
課題レポート、学態度により評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
<p>教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。</p> <p>参考図書</p> <p>エドガー・H・シャイン著、金井真弓訳、金井壽宏監訳：人を助けるとはどういうことか、本当の協力関係をつくる7つの原則第1版第5刷、英治出版、2010、ISBN978-4-86276-060-9</p> <p>エドガー・H・シャイン著、稲葉元吉、尾川丈一訳：プロセス・コンサルテーション、援助関係を築くこと第1版第4刷、白桃書房、2006、ISBN978-4-561-13140</p>	
その他履修上の注意点等	
授業内容に関する質問は担当回の教員、授業の評価や課題レポートは代表教員にメール連絡すること。	
代表者 (氏名・E-Mail)	長谷川 智子・hasekatz@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：		62CSU108	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：						1・2年次通年	
授業科目名：				キーワード：			
ヘルスアセスメント				フィジカルアセスメント、身体診察、 部位別身体診察、年齢の特徴、救急医療、 在宅医療			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○長谷川 智子		教授/基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp			
四谷 淳子		教授/コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp			
磯見 智恵		教授/臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp			
上原 佳子		教授/基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp			
北野 華奈恵		講師/基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
対象者の健康状態を包括的に判断するために必要なフィジカルアセスメントの知識と方法を学ぶ。高度な看護実践を行うために、必要な情報を収集する身体面の観察技術(面接、視診、触診、打診、聴診、測定)を習得し、経緯や自覚症状などと照らし合わせながら問診を行い、観察した結果から対象の健康状態を評価するまでの過程を学習する。また、小児・高齢者など身体診察の年齢により変化をとまなうフィジカルアセスメントの知識、救急及び在宅医療の状況に応じた身体診察技術を修得する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	身体診察基本手技 部位別身体診察手技(1)	身体診察基本手技の理論&演習 全身状態とバイタルサイン総論&各論 〔講義資料1-1(1)〕 頭頸部〔講義資料2-1(1)〕 演習1〔演習資料2-2(1)〕				長谷川智子	
2	部位別身体診察手技(2)	胸部〔講義資料2-1(2)〕 演習2〔演習資料2-2(2)〕				長谷川智子	
3	部位別身体診察手技(3)	腹部〔講義資料2-1(3)〕 演習3〔演習資料2-2(3)〕				上原佳子	
4	部位別身体診察手技(4)	四肢・脊柱、泌尿・生殖器リンパ節 〔講義資料2-1(4)〕 演習4〔演習資料2-2(4)〕				上原佳子	
5	部位別身体診察手技(5)	神経〔講義資料2-1(5)〕 演習5〔演習資料2-2(5)〕				北野華奈恵	
6	身体診察の年齢による変化(1)	小児(1)〔講義資料1-1(1)〕 演習〔演習資料1-1(3)〕				北野華奈恵	
7	身体診察の年齢による変化(2)	小児(2)〔講義資料1-1(2)〕 演習〔演習資料1-1(4)～(6)〕				北野華奈恵	
8	身体診察の年齢による変化(3)	高齢者(1)〔講義資料1-2(1)～(2)〕				四谷淳子	
9	身体診察の年齢による変化(4)	高齢者(2)〔講義資料1-2(3)〕				四谷淳子	
10	身体診察の年齢による変化(5)	高齢者(3)〔講義資料1-2(4)〕 演習〔資料1-2(5)～(6)〕				四谷淳子	
11	状況に応じた身体診察(1)	救急医療(1)〔講義資料2-1(1)〕				磯見智恵	
12	状況に応じた身体診察(2)	救急医療(2)				磯見智恵	
13	状況に応じた身体診察(3)	救急医療(3)				磯見智恵	

		演習〔演習資料2-1(2)～(7)〕	
14	状況に応じた身体診察(4)	在宅医療(1)〔講義資料2-2(1)〕	長谷川智子
15	状況に応じた身体診察(5)	在宅医療(2) 演習〔演習資料2-2(2)～(4)〕	上原佳子
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習 その他(授業は、e-learning 科目「フィジカルアセスメント:基礎&応用」を受講する。学習内容の各講義を聴講し、講義確認テストを受講する。順序通りに受講することを推奨するが、各自、学びやすい順番で受講してかまわない)		対面・遠隔(オンデマンド)	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・実験/演習 ・問題解決型学習 ・ミニッツペーパー ・ミニテスト			
到達目標			
ヘルスアセスメントの理論について理解できる。 部位別身体診察手技が習得できる。 年齢別変化を理解したうえで、年齢層に応じた身体診察手技が習得できる。 救急医療・在宅医療の特徴を理解する上で、状況に応じた身体診察手技が習得できる。			
準備学習(予習・復習)			
○予習 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第1回 身体基本手技の理論について 第2～5回 身体の各部位の解剖と機能について 第6～7回 小児の身体の特徴について 第8～10回 高齢者の身体の特徴について 第11～13回 救急医療の特徴的疾患について 第14～15回 在宅医療の特徴的疾患について ○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
学習態度(講義受講状況)、各回の確認テストの回答率、レポートにより総合的に評価する。 レポート課題「ヘルスアセスメントを学び、自らの課題について2ページ(A4)程度にまとめること」			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
教科書:特に指定はない。 参考書: ベイツ診察法第2版、メディカルサイエンスインターナショナル、2015、4895927989 ベイツ診察法ポケットガイド第3版、メディカルサイエンスインターナショナル、2015、4895927997			

その他履修上の注意点等

レポートは全ての講義を受講後、メールにて提出すること。

代表者**(氏名・E-Mail)**

長谷川智子 hasekatz@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：		62CSU109	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1・2年次通年		キーワード：			
授業科目名：				病態生理学			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○磯見 智恵		教授/ 臨床看護学		ichie @u-fukui.ac.jp			
四谷 淳子		教授/コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp			
長谷川 智子		教授/基盤看護学		hasekatz @u-fukui.ac.jp			
上原 佳子		教授/基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp			
北野 華奈恵		講師/基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
<p>高度な看護実践に向けて、臨床病態（症状とメカニズム）について理解を深め、患者の身体を統合的に把握するための基礎知識を修得し、患者に対する援助方法や正常な機能へ戻すための方法について自ら考え対策を立て対処できるように、人体の正常な構造、および全身の器官・臓器の機能とそのメカニズムを学ぶ。人体の生理学的な機能異常に基づく代表的な疾患を理解し、エビデンスに基づいた最善のケアを提供できるよう、生理機能評価の方法と実際を学ぶ。</p> <p>さらに、各器官・臓器ごとの疾病の定義と特徴及び顕微鏡所見、病因論などを学ぶ。</p>							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	病理学総論	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学				磯見	
2	循環器(1)	心臓、血管、リンパ管の構造と機能				長谷川智	
3	循環器(2)	循環器系の異常、主な循環器疾患の病態生理				長谷川智	
4	呼吸器	呼吸器系の構造と機能、呼吸器疾患の病態生理				長谷川智	
5	消化管	消化管の構造と機能 主な消化管疾患の病態生理				上原	
6	肝・胆・膵	主な消化器疾患の病態生理				上原	
7	自律神経・内分泌	自律神経の構造と機能、内分泌のしくみ 代表的な内分泌疾患の病態、診断、治療				磯見	
8	運動器	構造と機能、骨格筋の構造、神経筋伝達メカニズム				四谷	
9	生殖	生殖系の構造と機能				上原	
10	細胞・遺伝子	生物の遺伝情報の発現と伝達のしくみ				北野	
11	泌尿器	泌尿器系の構造と機能 水と電解質異常、主な症状のメカニズム				四谷	
12	免疫	免疫機構としくみ（自然免疫と獲得免疫）				北野	
13	感染	感染症の変貌、医療施設関連感染と市中感染 感染症の検査、抗菌薬、耐性菌の検出と耐性遺伝子				北野	
14	がん	がんの疫学、腫瘍の病態、発がん因子と予防				磯見	
15	皮膚・感覚器	視覚器、聴覚器、味覚器、皮膚感覚器の形態と機能				四谷	

授業の形式 講義 ・ 演習 その他（授業は、e-learning 科目「臨床病態生理学」を受講する。学習内容の各講義を聴講し、講義確認テストを受講する。順序通りに受講することを推奨するが、各自、学びやすい順番で受講してかまわない）	授業形態 対面・ 遠隔（オンデマンド）
アクティブ・ラーニングの導入状況 ・実験／演習 ・問題解決型学習 ・ミニッツペーパー ・ミニテスト	
到達目標 1. 正常な人体の構造と機能について説明できる。 2. 生体の恒常性の意義と一般的なメカニズムを理解し、恒常性が保たれる様々な調節機能と制御機構について説明できる。 3. 生体へ障害や疾病をもたらす侵襲因子・障害物質について理解し、それに対する免疫減少や炎症反応の過程、さらに内分泌系と生体防御のかかわりについて説明できる。 4. 疾患の病態・経過の把握のために必要な生理機能評価の方法と実際を理解する。	
準備学習（予習・復習） ○予習 各主題および学習内容を確認し、各系統の構造と機能および主要な疾患に関する病態と治療について大まかに理解した上で授業を受けること。 ○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。	
成績評価方法 学習態度（講義受講状況）、各回の確認テストの回答率、レポートにより総合的に評価する。 レポート課題「病態生理を学び、自らの課題について2 ページ（A4）程度にまとめること」	
成績評価基準 福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書 教科書：特に指定はない 参考図書 ・ 松尾理. カラー図解症状の基礎からわかる病態生理. 第 2 版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2011 ・ 中込さと子監修, 西垣昌和ほか編 . 基礎から学ぶ遺伝看護学～「継承性」と「多様性」の看護学 . 羊土社, 2019	
その他履修上の注意点等 レポートは全ての講義を受講後、メールにて提出すること。	
代表者 (氏名・E-Mail)	磯見智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		共通科目		科目番号：		62CSU110	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1・2年次通年					
授業科目名：				キーワード：			
臨床薬理学				薬物動態 (PK), 薬理学 (TD), 薬物相互作用, 抗菌薬, 抗がん剤, 服薬管理			
担当教員名		職名/所属		Eメールアドレス			
○四谷 淳子		教授/コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp			
長谷川 智子		教授/基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp			
磯見 智恵		教授/臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp			
上原 佳子		教授/基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp			
北野 華奈恵		講師/基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
薬理学・薬理学の基礎知識を深め、主要な疾患別の治療薬ならびに予防薬の薬効、作用機構、副作用、リスクマネジメント等、臨床における薬物の理論と実際について学習する。また、小児、女性、高齢者等、年齢による特性・個体差のある薬理作用と主要薬物の安全管理を学ぶ。臨床薬理学の知識を活用し、高度臨床判断に基づく高度な看護実践能力を修得する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	薬物動態の理論 (1)	薬物の投与経路・吸収・分布 薬物の代謝・排泄 [講義資料 1-2), 1-3)]				四谷淳子	
2	薬物動態の理論 (2)	薬物投与計画とその最適化 薬効の個人差に影響する因子 時間薬理学 [講義資料 1-4)]				四谷淳子	
3	薬物動態の理論 (3) 薬物動態演習	妊娠・授乳と薬物治療 演習 1		[講義資料 1-5)] [演習資料 1-5)]		四谷淳子	
4	主要薬物の薬理作用・副作用の理論 (1)	薬物の効果と副作用の理論, 時間薬理学と薬物 応答性の個人差 [講義資料 1-1) - (1), (2)]				四谷淳子	
5	主要薬物の薬理作用・副作用の理論 (2)	神経系に作用する薬物 [講義資料 1-1) - (3)]				四谷淳子	
6	主要薬物の薬理作用・副作用の理論 (3)	心血管系に作用する薬物 [講義資料 1-1) - (4)]				磯見智恵	
7	主要薬物の薬理作用・副作用の理論 (4)	呼吸器・消化器系に作用する薬物 [講義資料 1-1) - (5)]				長谷川智子	
8	主要薬物の薬理作用・副作用の理論 (5)	内分泌・代謝系に作用する薬物 [講義資料 1-1) - (6)]				磯見智恵	
9	主要薬物の薬理作用・副作用の理論 (6)	泌尿器に作用する薬物と抗炎症薬 [講義資料 1-1) - (7)]				四谷淳子	
10	主要薬物の薬理作用・副作用の理論 (7)	血液に作用する薬物 [講義資料 1-1) - (8)]				四谷淳子	
11	主要薬物の薬理作用・副作用の理論 (8)	抗菌薬・抗真菌薬・抗ウイルス薬・抗がん剤 [講義資料 1-1) - (9)]				上原佳子	
12	主要薬物の薬理作用・副作用の理論 (9)	小児・妊婦・高齢者の薬物治療 [講義資料 1-1) - (1)]				北野華奈恵	

		演習 2 [演習資料 1-2) - (1)]	
13	薬物相互作用と演習 (1)	肝機能障害 各疾患の治療に使用する主要薬物①	四谷淳子
14	薬物相互作用と演習 (2)	各疾患の治療に使用する主要薬物② 演習 3 [演習資料 1-2) - (2) ~1-2) - (4)]	四谷淳子
15	主要薬物の安全管理と処方の理論	薬物治療の安全管理 [講義資料 2-1) - (4)] 薬物治療に役立つ臨床薬理の基本 [講義資料 2-1) - (5)] 演習 4 [演習資料 2-2) - (1), (2)]	四谷淳子
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習 その他（授業は、e-learning 科目「臨床薬理学」を受講する。学習内容の各講義を聴講し、講義確認テストを受講する。順序通りに受講することを推奨するが、各自、学びやすい順番で受講してかまわない）		対面・ 遠隔（オンデマンド）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・ 実験／演習 ・ 問題解決型学習 ・ ミニッツペーパー ・ ミニテスト			
到達目標			
1. 臨床薬理の基礎知識を説明できる。 2. 薬物の動態・副作用・相互作用について説明できる。 3. 基礎的な疾患・病態における薬物治療の根拠を説明できる。 4. 代表的な薬剤についての投与方法、投与後のモニタリング、症状管理、服薬管理、服薬指導について説明できる。 5. 薬物療法を受ける患者への看護援助の意義および方法を考察できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第 1 回～第 3 回 薬物動態について 第 4 回～第 12 回 各疾患の治療に使用する主要薬物の薬理作用・副作用について 第 13 回～第 14 回 疾患の治療に使用する主要薬物の相互作用について 第 15 回 薬物治療の安全管理について			
○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
学習態度（講義受講状況）、各回の確認テストの回答率、レポートにより総合的に評価する。 レポート課題「臨床薬理学を学び、自らの課題について 2 ページ（A4）程度にまとめること」			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			
教科書及び参考書			
教科書：特に指定はない。 参考書 1) 医療情報科学研究所編：薬が見える Vol.1, メディックメディア, 2014. ISBN:9784896328318			

- 2) 医療情報科学研究所編：薬が見える Vol.2, メディックメディア, 2015. ISBN:9784896325850
- 3) 医療情報科学研究所編：薬が見える Vol.3, メディックメディア, 2016. ISBN:9784896326406
- 4) 医療情報科学研究所編：薬が見える Vol.4, メディックメディア, 2020. ISBN:9784896328004
- 5) 笹原俊之編, 宮田篤郎編：ベッドサイドの薬理学, 丸善出版, 2018. ISBN:9784621302743

その他履修上の注意点等

レポートは全ての講義を受講後、メールにて提出すること。

代表者

(氏名・E-Mail)

四谷淳子・jyotsuya@u-fukui.ac.jp

【専 門 科 目】

注)「担当教員名」の○印は，単位認定者を表す。

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62BAN101	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：						1年次前期	
授業科目名：				キーワード：			
基礎看護学特論				学術論文、人間理解、看護アセスメント、尺度開発			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○長谷川 智子		教授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp			
上原 佳子		教授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp			
北野 華奈恵		講師／基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp			
礪波 利圭		講師／基盤看護学		ritonami@u-fukui.ac.jp			
本田 育美		教授／名古屋大学大学院		ihonda@met.nagoya-u.ac.jp			
吉岡 さおり		准教授／京都府立医科大学		s-yoshi@koto.kpu-m.ac.jp			
学修目標							
<p>学術的な論文の特徴を理解し、学術論文を作成する上で必要な基礎知識を身につける。 加えて、看護の対象となる人間を統合的・多面的に理解し捉えるために必要な様々なアセスメント方法とその評価について学ぶ。</p>							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	学術論文の基礎	学術論文の構成と内容				長谷川	
2	看護診断と研究	看護過程の展開と看護診断能力				長谷川	
3	看護における国際的視点	海外における看護の動向				長谷川	
4	疫学的視点	看護学における疫学的視点				長谷川	
5	研究課題の検討(1)	基盤看護学分野における研究の実際				北野	
6	研究課題の検討(2)	測定用具の種類と選択				北野	
7	研究課題の検討(3)	基盤看護学分野における文献検討の実際				北野	
8	補完代替療法と看護(1)	補完代替療法と看護への応用				上原	
9	補完代替療法と看護(2)	補完代替療法に関する実験研究と評価				上原	
10	質的研究事例	質的研究の実際				礪波	
11	尺度開発の方法(1)	尺度開発と必要な知識				上原	
12	尺度開発の方法(2)	尺度開発の手順				上原	
13	尺度開発事例	尺度開発過程の実際				吉岡	
14	人間の行動と評価	健康行動理論の概説と実際・評価				本田	
15	情報伝達の実際	効果的プレゼンテーションの実際				長谷川・上原 北野・礪波	
授業の形式				授業形態			
講義 ・ 演習				対面 ・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム) 上記の中から併用			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・ 実験／演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション							

到達目標

1. 学術論文の構成と内容について理解できる。
2. 学術論文の文献検討の方法について理解できる。
3. 人間理解のための視点やアセスメント方法とその評価について理解できる。
4. 尺度開発方法の概要が理解できる。

準備学習（予習・復習）

○予習

各授業の学修内容について、参考図書等を読み、学修内容の概要を把握しておくこと。分からない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。

○復習

授業資料の読み返しにより理解に努めること。

○課題レポート

- ・自らでテーマを決め、それについて以下の項目を満たしたレポートを作成すること。テーマは自分の好きなもの（こと、本、人、動物等）、趣味、はまっているもの（こと等）、人に紹介したいもの（こと等）とする。
- ・好きな理由、はまっている理由等について客観的根拠を踏まえて述べること。
- ・引用文献を入れること。
- ・体裁はレポートの書き方あるいは American Psychology Association: APA フォーマットに従うこと。
- ・A4 レポート用紙 3 枚以内とすること。
- ・レポートの内容について、15 回「情報伝達の実際」授業で、パワーポイントにてプレゼンテーションを行う。

成績評価方法

課題レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、修学態度により評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。

教科書及び参考書

教科書は指定しない。適宜、資料を配付する。

<参考図書>

- (1) 浜田麻里他：大学生と留学生のための論文ワークブック、くろしお出版、東京、1997。ISBN-13:978-4874241271
- (2) 木下是雄：理科系の作文技術（改版）、中央公論社、東京、2002。ISBN-13:978-4121006240
- (3) 清水幾太郎：論文の書き方（改版）、岩波書店、東京、2015。ISBN-13:978-4004150923
- (4) 小笠原知枝、松木光子編集：これからの看護研究－基礎と応用－（第 3 版）、ヌーヴェルヒロカワ、東京、2012。ISBN-13:978-4861740350
- (5) 小塩真司他：質問紙調査の手順（心理学基礎演習；vol. 2）、ナカニシヤ出版、京都、2007。ISBN-13:978-4779502002
- (6) 堀洋道監修、山本真理子編：心理測定尺度集Ⅰ 人間の内面を探る「自己・個人内過程」、サイエンス社、東京、2001。ISBN-13:978-4781909875
- (7) 堀洋道監修、吉田富二雄編：心理測定尺度集Ⅱ 人間と社会のつながりをとらえる「対人関係・価値観」、サイエンス社、東京、2001。ISBN-13:978-4781909882
- (8) 堀洋道監修、松井豊編：心理測定尺度集Ⅲ 心の健康をはかる「適応・臨床」、サイエンス社、東京、2001。ISBN-13:978-4781909899
- (9) 堀洋道監修、松井豊編：心理測定尺度集Ⅳ 子どもの発達を支える「対人関係・適応」、サイエンス社、東京、2007。ISBN-13:978-4781911670
- (10) 鎌原雅彦他：心理学マニュアル 質問紙法、北大路書房、京都、1998。ISBN-13:978-4762821097

- (11)小塩真司：研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析（第 3 版）、東京図書、東京、2020.
ISBN-13:978-4489023354
- (11)今西二郎編：医療従事者のための補完・代替医療（改訂 2 版）、金芳堂、京都、2009. ISBN-13:978- 4765313759
その他、授業において適宜提示する。

その他履修上の注意点等

授業内容に関する質問は担当回の教員、授業の評価や課題レポート、プレゼンテーション等科目全体に関する質問は代表教員にメール連絡すること。

代表者

(氏名・E-Mail)

長谷川 智子・hasekatz@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62BAN102	
単位数：		4単位		コマ数		30コマ	
開講時期：				キーワード：		1年次後期	
授業科目名：				基礎看護学演習			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○長谷川 智子		教授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp			
上原 佳子		教授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp			
北野 華奈恵		講師／基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp			
礪波 利圭		講師／基盤看護学		ritonami@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
修士論文のテーマに関する文献講読を通して研究課題を明確にして、課題に応じた研究方法、研究計画の作成能力、遂行能力を養う。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1～3	看護実践を踏まえた研究的課題の検討	研究動機の明確化				長谷川・上原・北野・礪波	
4～6	研究の意義・視点の検討	リサーチクエッション				〃	
7～9	過去の研究背景の分析	文献クリティーク				〃	
10～12	過去の研究における課題	文献クリティーク				〃	
13～15	研究の概念枠組みの検討	理論的背景				〃	
16～18	研究方法の検討	帰納法的、演繹手法、研究デザイン				〃	
19～21	分析手法の検討	量的・質的な分析と相補関係				〃	
22～24	結果のまとめ方	結果の効果的な表示方法・書き方				〃	
25～27	考察と結論のまとめ方	考察と結論の効果的な表示方法・書き方				〃	
28～30	発表・プレゼンテーションの方法	効果的・説得力のあるプレゼンテーション				〃	
授業の形式				授業形態			
演習				対面・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・実験／演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・授業外学習の推進 ・ディスカッション							
到達目標							
1. 文献講読を通して、研究論文のまとめ方が理解できる 2. 文献クリティークができる 3. 研究課題を明確にできる 4. 研究課題に応じた研究方法や研究計画が説明できる							
準備学習（予習・復習）							
予習：各自の研究課題に関連した研究論文を文献検索し、熟読する。その中から、文献講読する文献を選択し、熟読し、文献クリティークする。文献講読の資料を作成する。 復習：文献講読でディスカッションした内容を整理する。							
成績評価方法							
プレゼンテーション、ディスカッション、修学態度、成果物により評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。							

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

教科書は指定しない。

<参考書>

(1) D.F. ポーリット、C. T. ベック；近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法（第2版）、医学書院、東京、2010。
ISBN-13:978-4260005265

(2) 小笠原知枝、松木光子編集：これからの看護研究－基礎と応用－（第3版）、ヌーヴェルヒロカワ、東京、2012。
ISBN-13:978-4861740350

その他、演習中で適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

質問は担当教員にメールしてください。

代表者

(氏名・E-Mail)

長谷川智子 hasekatz@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：	専門科目	科目番号：	62BAN203
単位数：	12単位	コマ数	90コマ
開講時期：	2年次通年		
授業科目名：	基礎看護学特別研究		
キーワード：			
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○長谷川 智子	教授／基盤看護学	hasekatz@u-fukui.ac.jp	
上原 佳子	教授／基盤看護学	uehara@u-fukui.ac.jp	
北野 華奈恵	講師／基盤看護学	kyoshi@u-fukui.ac.jp	
礪波 利圭	講師／基盤看護学	ritonami@u-fukui.ac.jp	
学修目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 修士論文のテーマに関する文献講読を通して研究課題を明確にし、研究の意義を見出す。 2. 研究課題に応じた研究方法を選択し、研究計画を作成・実施する。 3. 得られたデータを的確に分析・考察し、研究の臨床的応用を見出す。 			
各回の授業の内容			
(回)	(主題)	(学修内容)	(教員)
1～5	研究的課題の明確化	各自の研究課題、問題意識の明確化	長谷川・上原・北野・礪波
6～15	研究課題の現状と意義の検討	文献クリティーク	〃
16～25	研究方法の検討	研究の限界と研究デザインの検討	〃
26～35	研究計画の立案	研究デザインの作成	〃
36～50	研究計画の実施	計画の実施とデータ収集の実際	〃
51～60	データ分析	データ分析とその解析方法	〃
61～70	結果の評価	結果と考察の文章化	〃
71～80	研究の文章化	修士論文の作成	〃
81～90	研究内容の公開	効果的プレゼンテーション	〃
授業の形式		授業形態	
演習・実験		対面・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・実験／演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・授業外学習の推進 ・現地調査 ・ディスカッション 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題を明確化できる 2. 研究課題に応じた研究計画を立案できる 3. 的確な方法でデータ収集および分析ができる 4. 結果を的確に考察できる 5. 研究成果を論文にまとめることができる 6. 研究成果を効果的にプレゼンテーションできる 7. 研究成果の臨床的応用について述べるができる 			
準備学習（予習・復習）			
<p>常に、自己の研究課題に関する研究論文、研究に関連する参考図書を熟読し、研究計画や研究の実施に活用する。 適宜、担当教員の指導を受け、その内容を整理し、主体的に疑問や課題を解決しながら研究を実施する。</p>			

成績評価方法

プレゼンテーション、ディスカッション、修学態度、成果物により評価し、担当教員の合議により総合的に評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

教科書は指定しない。

参考書は、演習中に適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

質問は担当教員にメールしてください。

代表者

(氏名・E-Mail)

長谷川智子 hasekatz@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62ADU101	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：				開講時期：		1年次前期	
授業科目名：				キーワード：			
成人看護学特論				成人、ライフサイクル、健康、看護			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp			
繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp			
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
成人期にある人とその家族への看護の基盤となる概念や理論について探求し、看護を創造する基礎的能力を修得する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	成人の定義と成人期の特徴	成人とは、心身の変化と社会との相互作用、成人を取り巻く現状				繁田	
2-3	成長発達からみた成人の特徴	生涯発達理論・ライフサイクル論を活用したリフレクションでの事例検討				繁田	
4	健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護	ヘルスプロモーション、ヘルスプロテクション				磯見	
5-6	成人への看護アプローチの基本	行動変容モデル、実践における倫理的判断、家族支援、症状マネジメントにおける看護技術				磯見	
7	人生最期の時を支える看護	意思決定支援、ACP、エンドオブライフケア				繁田	
8	成人看護学での臨床研究の検討①	成人看護学分野における研究論文を読み解く				月田	
9-10	成人看護学での臨床研究の検討②	成人看護学分野における研究論文のクリティーク				磯見・繁田・月田	
11-13	成人看護学で用いる諸理論	対人関係・セルフケア、適応に関する理論、成人学習に関する理論を活用した実践現場での事例検討				磯見・繁田・月田	
14-15	成人看護学での臨床研究の検討③	研究論文のクリティークに基づく成人看護学分野の課題の検討				磯見・繁田・月田	
授業の形式				授業形態			
講義 ・ 演習				対面・遠隔(オンデマンド)・遠隔(リアルタイム) 上記の中から併用			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・演習 ・プレゼンテーション ・授業外学習の推進 ・ディスカッション							
到達目標							
1. ライフサイクルにおける成人期の特徴と健康課題について説明できる。 2. 成人看護学で重要な概念と理論について説明できる。また事例検討への理論の活用について説明できる。 3. 成人看護学における研究論文を収集し、クリティークすることができる。 4. 研究論文のクリティークを通して、成人看護学分野の看護の課題を説明できる。							
準備学習(予習・復習)							
予習：各授業の学修内容について、教科書や参考図書を熟読し、授業内容を把握しておくこと。分からない用語や深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。 復習：授業後は、授業内容の振り返りにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日まで							

に提出すること。	
成績評価方法	
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
適宜紹介する。	
その他履修上の注意点等	
代表者 (氏名・E-Mail)	磯見 智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62ADU102	
単位数：		4単位		コマ数		60 コマ	
開講時期：		1 年次後期					
授業科目名：				キーワード：			
成人看護学演習				成人、看護、文献クリティーク、研究計画			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp			
繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp			
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
成人期にある対象の健康及び健康障害における課題と看護に関する文献を分析・考察し、自らの研究課題とそれを明らかにするための研究計画を採求する基礎的能力を修得する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1～ 10	成人期の健康問題と看護に関する文献のクリティーク	成人期に生じやすい健康問題と看護実践に関する研究論文を多角的に検討し、体系的に知識を整理する。				磯見・繁田・月田	
11～ 40	関心のある領域の文献クリティーク	関心のある領域における研究の動向を検討し、知見を整理する。クリティークを通して多様な研究方法を学ぶ。英語論文を抄読する。				"	
41～ 60	研究課題の明確化と研究計画の立案	文献クリティークにより、自己の研究課題を明確にする。研究課題を明らかにするための研究方法について検討し、研究計画を立案する。				"	
授業の形式				授業形態			
演習				対面・ 遠隔 (リアルタイム) 上記の中から併用			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・実験／演習 ・プレゼンテーション ・授業外学習の推進 ・ディスカッション							
到達目標							
1. 必要な文献を収集し、文献クリティークを行い、レビューをまとめることができる。 2. 成人期に生じやすい健康問題と看護実践において、明らかになっている知見を説明できる。 3. 関心のある領域における研究の動向と、明らかになっている知見を説明できる。 4. 自己の研究課題とそれを明らかにするための研究方法について説明できる。							
準備学習 (予習・復習)							
予習：各授業の学修内容について、図書や研究論文等を熟読し、授業内容を把握しておくこと。分からない用語や深く知りたいことは、自分で調べたうえで授業を受けること。 復習：授業後は、授業内容の振り返りにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。							
成績評価方法							
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。							
成績評価基準							
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。							

教科書及び参考書

適宜紹介する。

その他履修上の注意点等**代表者****(氏名・E-Mail)**

磯見 智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62ADU203	
単位数：		12 単位		コマ数		180 コマ	
開講時期：		2 年次通年					
授業科目名：				キーワード：			
成人看護学特別研究				成人、健康、看護、研究論文			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp			
繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp			
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
自己の研究課題を明らかにするための一連の研究プロセスに取り組むことで、研究を展開する基礎的能力を修得する。また得られた研究結果の実践への活用について探求する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	研究課題の明確化と研究計画の立案	研究課題に基づいて、目的、意義、研究方法(対象、調査方法と内容、分析方法)を検討する。				磯見・繁田・月田	
2	実施のための準備・調整	倫理審査の申請を行い、承認を得る。調査施設や対象者と研究実施のための調整を行う。				"	
3	データ収集	研究計画に基づいて、データを収集する。				"	
4	データの分析、考察	研究結果について多面的に検討し、先行研究との比較検討を行う。				"	
5	研究論文の作成	研究論文を作成する。				"	
6	研究発表	作成した論文に基づいて、スライドならびに発表原稿を作成し、発表する。研究内容に対する意見を踏まえ、研究プロセスを振り返る。				"	
授業の形式				授業形態			
演習				対面・ 遠隔 (リアルタイム) 上記の中から併用			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験／演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ 現地調査 ・ ディスカッション 							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に基づいて、目的、意義、研究方法を説明できる。 2. 研究計画書を作成し、発表することができる。 3. 調査を実施し、結果について多面的に検討し、先行研究との比較検討を行い、新たな知見を説明できる。 4. 研究内容をプレゼンテーション資料にまとめ、分かりやすく発表することができる。 5. 研究プロセスを振り返り、今後の課題について説明できる。 							
準備学習 (予習・復習)							
<p>予習：各授業の学修内容について、図書や研究論文等を熟読し、授業内容を把握しておくこと。分からない用語や深く知りたいことは、自分で調べたうえで授業を受けること。</p> <p>復習：授業後は、授業内容の振り返りにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日まで提出すること。</p>							
成績評価方法							
修学態度、ゼミナール討論、研究内容により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。							

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

適宜紹介する。

その他履修上の注意点等**代表者**

(氏名・E-Mail)

磯見 智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62DIS101	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1年次前期					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学特論				災害看護、災害サイクル、被災者、援助者、要配慮者、防災、復興、専門職連携			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
酒井 彰久		災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihiisa@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
災害看護の基盤となる概念・理論を学び、災害種類や災害サイクル・被災者や援助者特性に応じた災害看護を展開する能力を修得する。また、災害看護に関する現状と課題について理解し、関連研究について理解を深める。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1-2)	災害看護の定義と特徴	災害看護の定義、災害と倫理				未定 清水	
3-4)	災害看護の理論と概念	ストレス反応，危機理論，セルフケア理論，災害関連死，生活不活発病などの理論や概念を活用した実践現場の事例検討				"	
5-6)	災害種類・災害サイクル別による生活上の諸問題	災害種類・災害サイクルにおける身体的・心理的・社会的課題に対する生活上の問題				未定 清水 酒井彰	
7-9)	被災者・援助者の特性	要配慮者の定義と対象の特徴を踏まえた生活援助，被災者と援助者の特性と支援の実際				"	
10-11)	地域防災，病院防災	住民や住民組織による地域防災と看護支援，災害時の初動体制，BCPや災害対応訓練				"	
12)	復興支援	復興支援時の諸問題と看護介入，災害対応政策における課題				未定 清水	
13)	専門職連携	災害支援活動におけるIPW				"	
14-15)	災害看護学領域における研究の検討	災害看護学領域における研究論文のクリティーク				未定 清水 酒井彰	
授業の形式				授業形態			
講義				対面・遠隔(オンデマンド)・遠隔(リアルタイム) 上記の中から併用(対面・遠隔(リアルタイム))			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・ディスカッション 							

到達目標	
<p>① 被災者や要配慮者、援助者の特徴を理解し、災害看護に適用できる主要な理論や概念を用いて災害時の現象を説明できる。</p> <p>② 災害種類・災害サイクルにおける生活上の諸問題および看護について説明できる。</p> <p>③ 地域や病院など、場所別での備えや訓練について説明できる。</p> <p>④ 災害支援活動における専門職連携について説明できる。</p> <p>⑤ 災害看護学領域におけるの研究の動向や既存の研究と自己の研究との関連や相違性について説明できる。</p>	
準備学習（予習・復習）	
<p>○予習</p> <p>第1～13回 各回の授業内容に沿い、学習した内容をプレゼンテーションできるように準備しておくこと。また、ディスカッション内容を明確にし授業を受けること。</p> <p>第14～15回 各自の研究テーマに関連した文献、参考図書をレビューし内容を整理する。さらに1文献を選びクリティークした上で講義に臨むこと。</p> <p>○復習</p> <p>授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>	
成績評価方法	
レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、討議(30%)を総合して評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
指定なし 適宜紹介する。	
その他履修上の注意点等	
質問は担当会の教員または代表教員にメールしてください。	
代表者 (氏名・E-Mail)	未定

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62DIS102	
単位数：		4単位		コマ数		60コマ	
開講時期：		1年次後期					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学演習				災害看護、文献クリティーク 研究課題の明確化			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
災害看護学に関する文献のクリティークを通して研究課題を明確にし、研究計画の作成に必要な基礎的能力を修得する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	文献のクリティーク I	国内外の災害看護学領域に関する研究を多角的視点で検討し、体系的に知識を整理し、関連文献のクリティークを行う				未定 清水	
2	文献のクリティーク II	文献レビューを作成する。 災害看護学領域や関心のある領域における研究の動向や新たな知研、研究方法を明らかにする。				〃	
3	研究課題の明確化	文献レビューより、災害発生時や備えの時期に応じた、個人・家族・地域・医療機関などにおける研究課題を明確にする。				〃	
授業の形式				授業形態			
演習				対面・遠隔(オンデマンド)・遠隔(リアルタイム) 上記の中から併用(対面・遠隔(リアルタイム))			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・演習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・ディスカッション							
到達目標							
① 国内外の災害看護学領域に関する研究を多角的視点で検討し、体系的に知識を整理することができる。 ② 災害看護学領域や関心のある領域における研究の動向や新たな知研、研究方法を明らかにすることができる。 ③ 自己の研究課題を明確にすることができる。							
準備学習(予習・復習)							
○予習 各自の研究テーマに関連した文献、参考図書等をレビューし、次の授業までに整理しておくこと。より深く知りたいことが生じた場合には、さらに自分で調べ、疑問点、ディスカッション内容等を明確にし授業を受けること。 ○復習 授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。							
成績評価方法							
レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、討議(30%)を総合して評価する。							

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

指定なし

適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

質問は担当会の教員または代表教員にメールしてください。

代表者**(氏名・E-Mail)**

未定

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62DIS203	
単位数：		12 単位		コマ数		180 コマ	
開講時期：		2 年次通年					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学特別研究				研究課題の明確化、研究計画立案、 研究の展開、先行研究との比較検討 論文作成、研究発表			
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス			
○未定							
磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp			
清水 誉子		講 師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
講義・演習による知識の活用および文献検討をふまえて、災害看護分野に関する研究課題を科学的に探究する。研究テーマの明確化、研究計画書の作成、データ収集と結果、論文作成までの過程を学ぶ。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1)	研究課題の明確化と研究計画の立案	研究課題に基づき研究計画の概要を明確にする				未定・磯見 清水	
2)	研究計画の調整	研究計画に基づき計画の実施について調整する				〃	
3)	データ収集	研究計画に基づき研究を展開する				〃	
4)	データの分析、考察	研究結果について多面的に検討し、先行研究と比較検討する				〃	
5)	研究論文の作成	研究論文を作成する				〃	
6)	発表	作成した論文に基づき発表する				〃	
授業の形式				授業形態			
演習・個別指導				対面・ 遠隔 (オンデマンド)・ 遠隔 (リアルタイム) 上記の中から併用(対面 ・ 遠隔(リアルタイム))			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・プレゼンテーション ・授業外学習の推進 ・ディスカッション							
到達目標							
① 研究課題に基づき研究計画の概要を明確にすることができる。 ② 研究計画に基づき計画の実施について調整することができる。 ③ 研究計画に基づき研究を展開することができる。 ④ 研究結果について多面的に検討し、先行研究と比較検討することができる。 ⑤ 研究論文を作成することができる。 ⑥ 作成した論文に基づき発表し、説明することができる。							
準備学習 (予習・復習)							
○予習 指導教員・副指導教員と相談し、研究を進める。 ○復習 追加学修が必要な項目について学修する。							

成績評価方法

研究過程における取り組み姿勢、プレゼンテーション状況、作成された修士論文及び論文発表状況を総合して評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

指定なし
適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

質問は担当会の教員または代表教員にメールしてください。

代表者**(氏名・E-Mail)**

未定

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62COM101	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1年次前期					
授業科目名：				キーワード： 家族、健康政策、地域包括ケアシステム、在宅看護			
地域看護学特論							
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp			
米澤 洋美		准教授／コミュニティ看護学		hyone@u-fukui.ac.jp			
北出 順子		准教授／コミュニティ看護学		jkitade@u-fukui.ac.jp			
川口 めぐみ		講師／コミュニティ看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp			
非常勤講師		未定		未定			
学修目標							
地域で生活している様々なライフステージの人々や地域を対象として、地域住民の健康管理、地域包括ケアシステムの構築およびQOLの向上を目指し、家族のアセスメント・介入、保健指導等の看護支援、統計の活用について学び、関連研究について理解を深める。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	ガイダンス	地域看護の定義				長谷川	
2	家族の理論 1)	家族の発達段階と課題 1)				川 口	
3	” 2)	家族の発達段階と課題 2)				川 口	
4	家族のアセスメント・介入モデル 1)	カルガリーモデル 1)				長谷川	
5	” 2)	カルガリーモデル 2)				長谷川	
6	” 3)	カルガリーモデル 3)				長谷川	
7	家族の中の暴力 (ドメスティック・バイオレンス)	暴力が健康に与える影響、看護職の役割				長谷川	
8	健康づくり政策 1)	政策立案の歴史と展開				北 出	
9	” 2)	健康日本 21				北 出	
10	地域包括ケアシステム 1)	定義および概念				米 澤	
11	” 2)	在宅医療推進のための多職種間連携				米 澤	
12	” 3)	システムの構築と推進				米 澤	
13	在宅看護の理論	ケアマネジメント				北 出	
14	地域看護学における量的研究の基礎 1)	研究概論				非常勤講師	
15	” 2)	研究デザイン				非常勤講師	
授業の形式				授業形態			
講義・演習				対面・遠隔(リアルタイム)			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・プレゼンテーション ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・ミニレポート ・ディスカッション							
到達目標							
1) 家族の発達段階と課題を説明できる。また、家族をアセスメントし、介入の方法を説明できる。							
2) 地域包括ケアシステムの基本理念と推進方策について説明できる。							
3) 保健福祉に関する政策形成過程と展開について説明できる。							

準備学習（予習・復習）

○予習

1～7回 講義の回は授業資料を Google Classroom に掲示するので、授業前に一読しておくこと。分からない用語については調べておくこと。プレゼンテーションの回は各自、発表資料を作成すること。

第8～9回 講義の回は授業資料を Google Classroom に掲示するので、授業前に一読しておくこと。分からない用語については調べておくこと。特に感染症法及び健康日本21に関して、厚生労働省のホームページ等により討論ができる準備をすること。

第10～12回 講義の回は授業資料を Google Classroom に掲示するので、授業前に一読しておくこと。分からない用語については調べておくこと。11回の演習を基に12回のプレゼンテーション資料を各自作成し発表すること。

第13回 講義の回は授業資料を Google Classroom に掲示するので、授業前に一読しておくこと。分からない用語については調べておくこと。

○復習

第1～7回 授業で学んだ内容を振り返り、要点を整理すること。

第8～13回 授業で学んだ内容を振り返り、要点を整理すること。

成績評価方法

修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

【教科書】 指定なし

【参考書】

- 1) 森山美知子編：ファミリーナーシングプラクティスー家族看護の理論と実践、医学書院、2001。
(ISBN:978-4-260-33140-1)
- 2) 鈴木和子、渡辺裕子、佐藤律子：家族看護学ー理論と実践第5版、日本看護協会出版会、2019。
(ISBN:978-4-8180-2208-9)
- 3) 小林奈美、グループワークで学ぶ家族看護論第2版 カルガリー式家族モデル実践へのファーストステップ、医歯薬出版株式会社、2011。(ISBN:978-4-263-23546-1)
- 4) ケヴィン・ブラウン／マーティン・ハーバート：藪本知二／甲原定房監訳：家族間暴力防止の基礎理論、明石書店：2004。(ISBN:978-4-7503-2009-0)
- 5) 平野かよ子、尾崎米厚編集：事例から学ぶ保健活動の評価、医学書院、2001。(ISBN:978-4-260-33167-8)
- 6) 二木立：地域包括ケアと地域医療連携、勁草書房、2015。(ISBN:978-4-326-70084-5)
- 7) Penelope Hawe, Deirdre Degeling, Jane Hall 著、鳩野 洋子訳：
ヘルスプロモーションの評価ー成果につながる5つのステップ、医学書院、2003。(ISBN:978-4-260-33284-2)
- 8) ドナルド・ショーン：省察的実践とは何か プロフェッショナルの行為と思考、鳳書房、2007。
(ISBN:978-4-902455-11-3)
- 9) 東京大学公共政策大学院 医療政策教育・研究ユニット：医療政策集中講義、医学書院、2015。
(ISBN:978-4-260-02164-7)
- 10) 森岡清美、望月嵩：新しい家族社会学4版、培風館、1997。(ISBN:978-4-563-05034-4)
- 11) 法橋尚宏：新しい家族看護学ー理論・実践・研究ー、メヂカルフレンド社、2010。(ISBN:978-4-839-21355-8)
- 12) 中野綾美、瓜生浩子：家族看護学ー家族のエンパワーメントを支えるケアー、メディカ出版、2020。
(ISBN:978-4-840-47214-2)

その他履修上の注意点等

- ・質問は担当回の教員にメールしてください。
- ・質問・相談は随時受け付けます。
- ・非常勤講師の講義日程は調整のうえ連絡する。

代表者**(氏名・E-Mail)**

長谷川美香・mikah@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62COM102	
単位数：		4単位		コマ数		60コマ	
開講時期：		1年次後期					
授業科目名： 地域看護学演習				キーワード： 文献クリティーク、 研究計画書、分析手法			
担当教員名				職名／所属		Eメールアドレス	
○長谷川 美香				教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
北出 順子				准教授／コミュニティ看護学		jkitade@u-fukui.ac.jp	
川口 めぐみ				講師／コミュニティ看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp	
学修目標							
地域看護学関連の理論・実践に関する文献のクリティークを通して、研究課題・研究方法について考察し、研究課題を明確にするための研究計画の立案に必要な基礎的能力を修得する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1～7	課題文献の輪読	地域看護・保健理論および自らの研究課題に関連したテーマの文献収集およびクリティークを行ない、プレゼンテーションに必要な資料を作成する。				長谷川・北出・川口	
8～17	課題の明確化	文献クリティークを通して、自らの研究課題を明確化する。クリティークを行なった文献は、基礎資料としてまとめておく。				〃	
18～57	研究計画立案	研究課題を明確にするために必要な研究計画書を作成する。その際、研究実施に不可欠な視点である倫理的問題についても考察する。				〃	
58～60	分析手法	分析手法に関する基礎知識を学ぶ。				〃	
授業の形式				授業形態			
演習				対面・遠隔（リアルタイム）			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・プレゼンテーション ・授業外学習の推進 ・ディスカッション							
到達目標							
1) 研究課題に関連した文献を収集・精選し、クリティークできる。 2) 文献のクリティークを踏まえ、研究目的、研究の独創性等を口頭・文章にて説明できる。 3) 研究方法、評価項目、統計解析方法、倫理的配慮、個人情報保護等、研究課題解決のための研究計画を立案できる。							
準備学習（予習・復習）							
○予習 各自の研究テーマに関連した文献、参考図書等をレビューし、次の授業までに内容を整理しておくこと。より深く知りたいことが生じた場合には、さらに自分で調べ、疑問点、ディスカッション内容等を明確にして授業を受けること。							

○復習

授業後はディスカッション内容を振り返り、次回の授業までに再度の文献レビュー、研究計画書の修正等に努めること。

成績評価方法

修学態度、研究計画書、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

【教科書】

指定なし

【参考図書】

- 1) D.F. ポーリット, C.T. ベック 近藤潤子監訳「看護研究 原理と方法 第2版」. 医学書院 2010.
(ISBN:978-4-260-00526-5)
- 2) 対馬栄輝著「SPSSで学ぶ医療系多変量データ解析」第2版. 東京図書 2018. (ISBN:978-4-489-02290-6)
- 3) 奥田千恵子著「医薬研究者のための評価スケールの使い方と統計処理」金芳堂 2007.
(ISBN:978-4-7653-1303-2)
- 4) 大谷信介ら編著「新 社会調査へのアプローチ」. ミネルヴァ書房 2013 (ISBN:978-4623066544)

その他履修上の注意点等

毎回の授業時にプレゼンテーション資料を準備すること。

代表者

(氏名・E-Mail)

長谷川美香・mikah@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62C0M203	
単位数：		12 単位		コマ数		180 コマ	
開講時期：		2 年次通年					
授業科目名：				キーワード：			
地域看護学特別研究				研究依頼、調査、統計的解析、論文、プレゼンテーション			
担当教員名				職名／所属		E メールアドレス	
○長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp			
北出 順子		准教授／コミュニティ看護学		jkitade@u-fukui.ac.jp			
川口 めぐみ		講師／コミュニティ看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
研究課題を探索し、調査、分析、考察の過程を通して、研究に必要な知識、技術等の基礎的能力を修得する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1～ 44	研究実施への準備	研究目的、意義を再確認し、研究計画に基づき調査項目の精選を行なう。また、研究フィールドを開拓し、研究実施への協力依頼を行なう。				長谷川・ 北出・川口	
45～ 59		研究フィールドへ出向き、対象者への調査を行なう。				"	
60～ 69	統計的解析	課題を明確にするために最も適切な分析手法を選択し、収集したデータを分析手法に基づき分析する。				"	
70～ 177	論文作成	論理性を考慮し、論文の構成を考える。また、分析結果から先行研究との比較、結果が意味するもの等を考察するとともに、研究結果を示す図表の作成を行なう。				"	
178 ～ 180	プレゼンテーション準備	プレゼンテーションに必要な抄録およびパワーポイント資料を作成する。プレゼンテーションについては、必ず発表前にリハーサルを行なう。				"	
授業の形式				授業形態			
演習 ・ 実技				対面・遠隔（リアルタイム）			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション							
到達目標							
1) 研究計画書に沿って研究を実践できる。 2) 収集したデータを統計的解析手法にて分析し、その結果を理解できる。 3) 論文を作成する上で、緒言、方法、結果、考察など論旨の展開と校正を考慮することができる。 4) 看護学の発展に寄与できるエビデンスに基づいた科学論文を作成できる。							
準備学習（予習・復習）							
○予習 研究計画書に沿って研究を実践できるよう、次の授業までに内容を整理しておくこと。より深く知りたいことが生じた場合には、さらに自分で調べ、疑問点、ディスカッション内容等を明確にして授業を受けること。							

○復習

授業後はディスカッション内容を振り返り、次回の授業までに研究実践、論文作成に向け再考、修正等に努める。

成績評価方法

修学態度、研究計画書、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。

教科書及び参考書

【教科書】

指定なし

【参考図書】

- 1) D.F. ポーリット, C.T. ベック 近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法 第 2 版. 医学書院 2010.
(ISBN:978-4-260-00526-5)
- 2) 対馬栄輝著：「SPSS で学ぶ医療系多変量データ解析」第 2 版. 東京図書 2018. (ISBN:978-4-489-02290-6)
- 3) 奥田千恵子著「医薬研究者のための評価スケールの使い方と統計処理」金芳堂 2007.
(ISBN:978-4-7653-1303-2)
- 4) 大谷信介ら編著 「新 社会調査へのアプローチ」. ミネルヴァ書房 2013 (ISBN:978-4623066544)

その他履修上の注意点等

毎回の授業時にプレゼンテーション資料を準備すること。

代表者

(氏名・E-Mail)

長谷川美香・mikah@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62GER101	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1年次前期					
授業科目名：				キーワード：			
老年看護学特論				老年看護，高齢者，意思決定，生活不活発病，コンフォート			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
老年看護の基本となる概念・理念を系統的に学び、あらゆる健康レベルにある高齢者とその家族への個別的看護を的確に展開する能力、老年看護を創造・開発する能力を養う。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	老年看護の定義と変遷	老年看護学の定義と老年看護学変遷，老年看護学の考え方				四谷淳子	
2	国際的な高齢社会の現状と動向	日本及び世界の高齢化の動向と，高齢化への取り組みや展望				四谷淳子	
3	加齢と老化に伴う変化 (1)	加齢に伴う身体的変化と高齢者の生活に及ぼす影響				四谷淳子	
4	加齢と老化に伴う変化 (2)	加齢に伴う心理・社会的変化と高齢者の生活に及ぼす影響				四谷淳子	
5	老年看護学の諸理論 (1)	生涯発達理論，ライフサイクル理論				四谷淳子	
6	老年看護学の諸理論 (2)	離脱理論，コンフォート理論，サクセスフルエイジング				四谷淳子	
7	高齢者に特有な症候と看護 (1)	褥瘡，スキンテア，IAD				四谷淳子	
8	高齢者に特有な症候と看護 (2)	サルコペニア，嚥下障害				四谷淳子	
9	高齢者に特有な症候と看護 (3)	排泄障害 (失禁・便秘)				四谷淳子	
10	高齢者の健康生活の評価と支援 (1)	ICF 生活機能評価，高齢者総合機能評価：CGA，認知機能アセスメント				四谷淳子	
11	高齢者の健康生活の評価と支援 (2)	主観的健康観，幸福感，家族機能				四谷淳子	
12	高齢者の健康生活の評価と支援 (3)	エンパワメントの概念とその適用				四谷淳子	
13	高齢者の倫理的課題	アドボカシー，エイジズム，高齢者虐待				四谷淳子	
14	高齢者とその家族への支援	意思決定，エンドオブライフケア，終末期ケア				四谷淳子	
15	老年看護学領域における研究の動向	老年看護学領域における臨床研究論文を読み、老年看護技術の新たな動向と課題を討議				四谷淳子	
授業の形式				授業形態			
講義 ・ 演習				対面 ・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム)			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・ 演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ ミニッツペーパー ・ グループワーク ・ 授業外学習の推進 ・ ミニレポート ・ ディスカッション							

到達目標	
<p>1. 老年看護学の変遷と高齢社会の現状について説明できる。</p> <p>2. 老年看護学における概念や諸理論を説明できる。</p> <p>3. 高齢者に多い疾患や症候を理解し、検査・治療を受ける高齢者への看護援助を説明できる。</p> <p>4. 高齢者の健康生活評価の特徴について説明できる。</p> <p>5. 高齢者に生じやすい倫理的課題とその対応について説明することができる。</p>	
準備学習（予習・復習）	
<p>○予習</p> <p>以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。</p> <p>第1回 老年看護学の定義と老年看護学変遷</p> <p>第2回 国際的な高齢社会の現状と動向</p> <p>第3回～第4回 加齢に伴う身体的・心理的・社会的特徴と生活への影響</p> <p>第5回～第6回 老年看護学に活用できる諸理論（エリクソン発達理論，コンフォート理論など）</p> <p>第7回～第9回 高齢者に特有な症候と看護（サルコペニア，褥瘡，排泄障害，嚥下障害など）</p> <p>第10回～第12回 高齢者の健康生活の評価（ICF，CGA）</p> <p>第13回 高齢者の倫理的課題（アドボカシー，エイジズム，高齢者虐待）</p> <p>第14回 高齢者とその家族への支援（意思決定）</p> <p>第15回 老年看護学領域における最新の臨床研究論文を一編読み，整理する</p> <p>○復習</p> <p>授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>	
成績評価方法	
<p>修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。</p>	
成績評価基準	
<p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。</p>	
教科書及び参考書	
<p>参考書</p> <p>1) E.H.エリクソン，J.M.エリクソン：ライフサイクル・その完結，みすず書房，2001. ISBN:9784622039679</p> <p>2) キャサリン・コルカバ：コルカバ コンフォート理論，医学書院，2008. ISBN:9784260005654</p> <p>3) 鳥羽研二編著：高齢者の生活機能の総合的評価，新興医学出版社，2010. ISBN:9784880027104</p> <p>4) 小木曾加奈子編著：高齢者ケアの質を高める ICF を活かしたケアプロセス，学文社，2015. ISBN: 9784762030673</p> <p>5) 日本老年医学会：高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン 2012年版，医学と看護社，2012. ISBN: 9784906829149</p>	
その他履修上の注意点等	
<p>質問・相談は随時受け付けます。</p>	
代表者 (氏名・E-Mail)	<p>四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp</p>

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62GER102	
単位数：		4単位		コマ数		60コマ	
開講時期：		1年次後期					
授業科目名：				キーワード：			
老年看護学演習				老年看護、高齢者、クリティーク、研究計画			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp			
青木 未来		助教／コミュニティ看護学		m-aoki@u-fukui.ac.jp			
平井 孝治		助教／コミュニティ看護学		hirai-t@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
老年看護学特論を踏まえて、老年期特有の健康問題をもつ高齢者とその家族の特性に応じた効果的な看護実践方法と研究方法について探究する。文献を購読し、文献クリティークの方法や論文の書き方を学修する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1-15	老年看護学文献のクリティーク I	国内外の老年看護学分野に関する文献を収集し、それらを適切に批評する。				四谷淳子 青木未来 平井孝治	
15-30	文献のクリティーク II	文献レビューを作成する。 老年看護学分野における研究の動向や最新の知見、研究方法を明らかにする。				四谷淳子 青木未来 平井孝治	
30-45	研究課題の明確化	文献レビューより、自身の研究課題を明確にする。				四谷淳子 青木未来 平井孝治	
45-60	研究計画の立案	文献レビューをもとに、適切な調査方法や看護実践方法を立案する。(実施可能な計画を立案する) 看護の実践・研究における倫理的課題を明確化し配慮に必要なことを抽出する。				四谷淳子 青木未来 平井孝治	
授業の形式				授業形態			
演習				対面・遠隔(リアルタイム)			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・演習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・ディスカッション							
到達目標							
1) 老年看護学における研究の動向と課題について、自己の見解を述べることができる。 2) 老年看護学に関する量的・質的研究の特徴についてレポートを作成し、プレゼンテーションすることができる。 3) 老年看護学に関する文献検討を行い、その結果をプレゼンテーションすることができる。 4) 老年看護学における研究方法の特徴をふまえて、自己の研究課題を明確化することができる。							
準備学習(予習・復習)							
○予習 老年看護に関する文献を検索・レビューし、クリティークの基準に沿ってプレゼンテーション資料にまとめる。							
○復習 討議の内容を整理し資料にまとめる。							

成績評価方法	
発表・討議への参加度	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
参考図書	
1) D. F.ポーリット, C. T.ベック, 近藤潤子 (翻訳) : 看護研究 第2版—原理と方法, 医学書院, 2010. ISBN:9784260005265	
2) Jennifer R. Gray, Susan K: Burns and Grove's The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, Elsevier, 2020. ISBN: 978-0323673174	
3) Denise Polit, Cheryl Beck : Nursing Research, LWW; Eleventh, North American, 2020. ISBN: 9781975110642	
4) Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb., et al : The Craft of Research, Univ of Chicago Pr; Reprint 版, 2016. ISBN: 9780226239736	
5) Marco Romanelli, Michael Clark, Amit Gefen, Guido Ciprandi : Science and Practice of Pressure Ulcer Management, Springer, 2018. ISBN: 978-1852338398	
その他履修上の注意点等	
質問・相談は随時受け付けます。	
学生の主体的な取り組みに期待する。学生相互に学び合う機会とする。アカデミックディスカッションの意味を考えながら、取り組む。	
代表者 (氏名・E-Mail)	四谷淳子・jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62GER203	
単位数：		12単位		コマ数		90コマ	
開講時期：		2年次通年					
授業科目名：				キーワード：			
老年看護学特別研究				老年看護、高齢者、			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp			
川口 めぐみ		講師／コミュニティ看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp			
青木 未来		助教／コミュニティ看護学		m-aoki@u-fukui.ac.jp			
平井 孝治		助教／コミュニティ看護学		hirai-t@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
老年看護学領域において自ら選んだ専門の研究課題について、一連の研究プロセスを展開し修士論文を作成する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	研究課題の明確化と研究計画立案	研究課題や意義を明確にし、研究目的・研究デザイン・研究対象・研究方法の選定、分析方法を検討する。				四谷淳子 川口めぐみ 青木未来 平井孝治	
2	研究計画の実施	研究計画に基づいて、研究を実施する。				〃	
3	データ分析	収集したデータを分析方法に基づき分析する。				〃	
4	研究論文の作成	分析結果について先行研究との比較を基に考察を深め、論理的に論文を作成する。				〃	
5	研究論文の発表	作成した論文の骨子から簡潔明瞭なプレゼンテーション資料を作成し、研究成果を発表する。				〃	
授業の形式				授業形態			
・ 演習 ・ 実験				※選択してください 対面・ 遠隔（リアルタイム）			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・ 実験／演習 ・ プレゼンテーション ・ ディスカッション							
到達目標							
1. 文献レビュー、計画書作成、倫理委員会資料作成、研究フィールドの開拓、中間報告、最終報告といった一連のステップを踏むことができる。							
2. 計画書に沿ってデータを収集し、分析、結果のまとめと考察を討議しつつ記述することができる。							
3. 研究に取り組んだ全過程をまとめ、論文を作成することができる。							
準備学習（予習・復習）							
○予習 老年看護に関する文献を検索・レビューし、クリティークの基準に沿ってプレゼンテーション資料にまとめる。 研究計画立案、実施及び論文記述に関して毎回、課題をまとめる。							
○復習 討議の内容を整理し資料にまとめる。							

成績評価方法	
研究プロセスを通して、その取り組む姿勢、最終修士論文内容と発表状況。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
参考図書	
1) Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb., et al : The Craft of Research, Univ of Chicago Pr; Reprint 版, 2016. ISBN: 9780226239736	
2) D. F.ポーリット, C. T.ベック, 近藤潤子 (翻訳): 看護研究 第 2 版—原理と方法, 医学書院, 2010. ISBN:9784260005265	
3) APA	
その他履修上の注意点等	
質問・相談は随時受け付けます。学生の主体的な取り組みに期待する。学生相互に学び合う機会とする。アカデミックディスカッションの意味を考えながら、取り組む。	
代表者 (氏名・E-Mail)	四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62MAC101
単位数：	2単位	コマ数	15コマ	開講時期：	1年次前期
授業科目名：				キーワード：	
母子看護学特論				母子・家族、女性、ライフサイクル、健康課題、課題探求力	
担当教員名	職名／所属			Eメールアドレス	
○波崎 由美子	教授／育成期看護学			yuminami@u-fukui.ac.jp	
友田 明美	教授／子どものこころの発達研究センター			atomoda@u-fukui.ac.jp	
吉川 利英	助教／小児科学			ytoshi@u-fukui.ac.jp	
嶋 雅代	准教授／育成期看護学			mashima@u-fukui.ac.jp	
内江 希	助教／育成期看護学			nozzomy@u-fukui.ac.jp	
高村 理絵子	助教／育成期看護学			rieko@u-fukui.ac.jp	
重松 陽介	客員教授／福井大学			yosuke@u-fukui.ac.jp	
上澤 悦子	教授／京都橘大学 助産学			kamisawa@tachibana-u.ac.jp	
真鍋 裕紀子	看護部長／太陽の門福祉医療センター			kangoka@kazamatsurinomori.or.jp	
犬山 知子	小児看護専門看護師／関西医科大学大学院			wankosobati@icloud.com	
学修目標					
母子や家族の心身の健全な育成、周産期における母子の看護支援、女性の健康に関連した課題について、母子看護学領域で用いられる概念や理論をふまえ、ライフサイクルの視点で学習する。また、胎児期からの小児の疾病について医学的側面から学び、小児期の健康問題を有する患児とその家族が直面する医療上の問題などについて検討し、地域保健の視点を含めた問題解決法について学習する。これらを通し、研究を展開する基礎的能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1	母子看護学領域の研究課題と取り組み方	母子を取り巻く社会と健康課題		波崎	
2	母子看護学領域で用いられる概念・理論(1)	母子看護学領域に関わる概念・諸理論の概説		嶋	
3	母子看護学領域で用いられる概念・理論(2)	関心ある概念、または理論と看護援助 プレゼンテーション①		嶋	
4	母子看護学領域で用いられる概念・理論(3)	関心ある概念、または理論と看護援助 プレゼンテーション②		嶋	
5	ライフサイクルにおける女性の健康課題(1)	ライフサイクル各期における女性の健康課題の概説		波崎	
6	ライフサイクルにおける女性の健康問題(2)	関心あるライフサイクル各期の健康課題と援助 プレゼンテーション		波崎	
7	ライフサイクルにおける女性の健康問題(3)	母性準備期の課題と看護介入		上澤	
8	マスキリーニングと医学管理・看護支援	新生児スクリーニングの実際		重松	
9	遺伝性疾患と遺伝看護	遺伝看護の実際		真鍋	
10	小児がん治療	小児がん治療と支援		吉川	
11	小児がん患者の晩期障害と対応	二次がん・生殖機能温存		吉川	
12	子どもの疼痛と看護支援	子どもの疼痛の捉え方と疼痛コントロール		犬山	
13	子どもへの虐待	児童虐待と子どもの脳		友田	
14	母子看護学領域の臨床看護研究の実際	研究のプロセスを具体的に学び、看護研究の意義や研究を展開するための基礎的能力について考える		波崎 内江 高村	

15	母子看護学領域の臨床看護研究の検討 母子看護の実践、教育・研究課題	関心あるテーマに関する新たな知見と課題 まとめのプレゼンテーション	波崎
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・演習 ・プレゼンテーション ・ディスカッション			
到達目標			
<p>①母子や家族の心身の健全な育成、周産期における母子の看護支援、女性の健康に関連した課題について、理解することができる。</p> <p>②母子への看護支援、健康課題について、母子看護学領域で用いられる概念や理論をふまえて、ライフサイクルの視点で考察することができる。</p> <p>③胎児期からの小児の疾病について医学的側面から理解することができる。</p> <p>④小児期の健康問題を有する患児とその家族が直面する医療上の問題などについて検討し、地域保健の視点を含めた問題解決法について理解することができる。</p> <p>⑤これらを通し、研究を展開する基礎的能力を修得することができる。</p>			
準備学習（予習・復習）			
<p>○予習</p> <p>各回のテーマに関連した文献、参考図書等をレビューし、内容を整理しておくこと。より深く知りたいことが生じた場合には、さらに自分で調べ、疑問点、ディスカッション内容等を明確にし、授業を受けること。</p> <p>○復習</p> <p>授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>			
成績評価方法			
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
指定の教科書はない。参考書については、授業で適宜紹介する。			
その他履修上の注意点等			
質問は担当回の教員または代表教員にメールしてください。			
代表者 (氏名・E-Mail)	波崎由美子・yuminami@u-fukui.ac.jp		

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62MAC102	
単位数：		4単位	コマ数	30コマ	開講時期：		1年次後期
授業科目名：				キーワード：			
母子看護学演習				母子看護学、論理的・批判的思考力、課題探求力、課題解決力、研究計画立案			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○波崎由美子		教授／育成期看護学		yuminami@u-fukui.ac.jp			
嶋 雅代		准教授／育成期看護学		mashima@u-fukui.ac.jp			
内江 希		助教／育成期看護学		nozzomy@u-fukui.ac.jp			
高村 理絵子		助教／育成期看護学		rieko@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
母子看護学特論で学んだ内容に関連して、母子の心身の健全な育成に関連する諸因子、女性や子ども、家族の健康課題及び看護支援方法について国内外の関連文献を用いて検討し、実践の場で活用できる看護支援および研究への活用法について探求する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	文献の収集とクリティーク①	ライフサイクル各期の女性の健康課題・問題の抽出、具体的な看護支援とその評価を行う。(5コマ)				波崎 嶋 内江 高村	
2	文献の収集とクリティーク②	マタニティサイクルにおける母子と家族(ハイリスクを含む)の課題・問題の抽出、具体的な看護支援とその評価を行う。(5コマ)				〃	
3	文献の収集とクリティーク③	小児期の健康課題・問題の抽出、具体的な看護支援とその評価を行う。(5コマ)				〃	
4	研究課題の明確化	文献クリティークを通じて、自己の研究課題を明確にする。(10コマ)				〃	
5	研究計画の立案	倫理的問題、分析方法を検討し、実施可能な研究計画書を作成する。(5コマ)				〃	
授業の形式				授業形態			
演習				対面・遠隔(リアルタイム)			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・プレゼンテーション ・ディスカッション							
到達目標							
1. 母子の心身の健全な育成に関連する諸因子、女性や子ども、家族の健康問題及び看護支援方法について国内外の関連文献を用いて検討することができる。 1) 関心のある看護現象や課題を説明できる。 2) 関心のあるテーマに関して現状を分析し、研究課題や研究方法を明確にできる。 3) 研究計画を作成することができる。 2. 実践の場で活用できる看護支援および研究への活用法について探求することができる。							
準備学習(予習・復習)							
○予習 関心がある研究テーマに関連した文献、参考図書等をレビューし、次の授業までに内容を整理・把握する。それらを資料として準備し、視聴覚機器を使用してプレゼンテーションに臨む。より深く知りたいことに関して疑問点、							

ディスカッション内容等を明確にした資料を作成すること。

○復習

授業後は、プレゼンテーションに対するディスカッション内容を振り返り、理解を深める。

成績評価方法

修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

教科書は特に使用しない。

参考図書

- ・ D.F. ポーリット&C.T. ベック著, 近藤潤子監訳: 看護研究 原理と方法第2版, 2010. ISBN: 978-4-260-00526-5
- ・ スー・ブロクター・メアリー・レンフルー編, 前原澄子監訳: 助産学研究入門 エビデンスにもとづく実践を目指して, 医学書院, 2003. ISBN: 978-4-260-33268-2
- ・ 福原俊一: シリーズ臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト③概念モデルをつくる～研究課題を目に見える形に～, 2008. ISBN: 978-4-903-80304-3
- ・ 大木秀一: 看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん, 医歯薬出版, 2013. ISBN: 978-4-263-23581-2
その他、適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

- ・ 質問は担当回の教員または代表教員にメールしてください。

代表者

(氏名・E-Mail)

波崎由美子、yuminami@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：	62MAC203
単位数：	12単位	コマ数	180コマ	開講時期：	2年次通年
授業科目名：				キーワード：	
母子看護学特別研究				母子看護学・助産学、論理的・批判的思考力 研究倫理、課題探求力、研究遂行能力、課題解決力	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○波崎 由美子		教授／育成期看護学		yuminami@u-fukui.ac.jp	
嶋 雅代		准教授／育成期看護学		mashima@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
母子看護・助産学領域において自ら選んだ専門の研究課題に沿って研究をデザインし、高い倫理観をもって研究プロセスを実際に展開する。また、研究の成果を論文にまとめ発表する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	研究準備	研究計画が研究目的に添っているかを確認し、調査項目を精選する。 研究計画書を作成し、研究倫理審査を受ける。 研究フィールドを調整する。(10コマ)			波崎 嶋
2	研究の実際	研究計画書に沿って研究を実施する。(50コマ)			〃
3	結果の分析	収集したデータを分析し、研究の方法、目的を満たすかを確認し、 必要時修正を行う。(30コマ)			〃
4	修士論文作成	分析結果に添い、研究で明らかになった事象を、先行研究からの比較、 結果の意味を考察し、論理的な論文とする。 必要な図表を作成する。(80コマ)			〃
5	修士論文発表	作成した論文をもとに、プレゼンに必要な抄録、パワーポイント、原稿 を作成し、成果を発表する。(10コマ)			〃
授業の形式			授業形態		
演習			対面・遠隔(リアルタイム)		
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・演習 ・プレゼンテーション ・ディスカッション					
到達目標					
1. 修士論文の作成過程を理解し、論文を完成させることができる。 1) 研究計画書を作成できる。 2) 文献検討により、研究の必要性と意義を説明できる。 3) 研究計画書に沿ってデータ収集、分析ができる。 4) データ分析を通して、研究目的に即した結果を導き出すことができる。 5) 分析結果を目的に沿って考察できる。 6) 看護実践への示唆を提示できる。 7) 論理性・整合性・一貫性をもった研究論文を作成できる。 2. 論文内容についてわかりやすくプレゼンテーションすることができる。					
準備学習(予習・復習)					
研究準備から修士論文発表までの全過程を通し、 ○予習 毎回のゼミナールでの指導内容を主体的に確認し、発表資料を準備してプレゼンテーションに臨む。					

○復習

研究計画、研究スケジュールを確認し、主体的に研究を進める。また、ゼミナールでの質疑応答、指導内容を振り返り、要点を整理しながら、主体的に研究の実施、論文作成を進める。

成績評価方法

修学態度、修士論文の作成過程、ゼミナール討論、プレゼンテーション、論文内容（研究テーマの前提となる文献検討、テーマと論旨の一貫性）

担当教員の合議により総合的に評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

教科書の指定はない。

参考図書

・ D. F. ポーリット&C. T. ベック 著, 近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法第2版, 2010. ISBN : 978-4-260-00526-5

・ バーンズ&グローブ, 黒田裕子, 中木高夫, 逸見功監訳：看護研究入門 原著第7版 一評価・統合・エビデンスの生成, 2015. ISBN : 978-4-860-34300-2

その他、適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

・ 質問は担当教員または代表教員にメールしてください。

代表者

(氏名・E-Mail)

波崎由美子、yuminami@u-fukui.ac.jp

【専門看護師教育課程（CNS）】

注)「担当教員名」の○印は、単位認定者を表す。

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62CAN101
単位数：	2単位	コマ数	15コマ	開講時期：	1年次前期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学特論 I				腫瘍の概念、発生機序、病態生理、がんの治療法、oncologic emergency、放射線被ばく	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
五井 孝憲		教授／外科学(1)		tgoi@u-fukui.ac.jp	
浦崎 芳正		教授／保健管理センター		urasakiy@u-fukui.ac.jp	
前田 浩幸		准教授／外科学(1)		maedah@u-fukui.ac.jp	
松本 英樹		シニア・フェロー/放射線基礎医学		hidekim@u-fukui.ac.jp	
塩浦 宏樹		准教授／放射線部		shioura@u-fukui.ac.jp	
福島 万奈		准教授／腫瘍病理学		manna@u-fukui.ac.jp	
村上 真		講師／外科学(1)		makoto@u-fukui.ac.jp	
呉林 秀崇		助教／外科学(1)		hkure@u-fukui.ac.jp	
小淵 岳恒		講師／救急部		kobuta@u-fukui.ac.jp	
根来 英樹		講師／血液・腫瘍内科		enegoro@u-fukui.ac.jp	
星野 瞳		助教／腫瘍病理学		hhoshino@u-fukui.ac.jp	
古俵 孝明		副薬剤部長／医学部附属病院薬剤部		kodawara@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍の概念、発生機序、病態生理、各種治療法など基礎と臨床を関連させて理解できる。 ・oncologic emergency の病態に対する診断と治療を理解できる。 ・放射線被ばく医療や災害時のがん医療について理解できる。 					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1	がんの病態生理 (1)	腫瘍概論、がんの形態・分類、がんの原因・誘因		星野	
2	がんの病態生理 (2)	がん遺伝子とがん抑制遺伝子		星野	
3	がんの病態生理 (3)	がん細胞の特性、発がん増殖、がんの進展と転移		福島	
4	がん免疫	がん免疫応答、サイトカイン、腫瘍マーカー		福島	
5	がんの疫学	がんの疫学的特性、がん医療の動向と課題 がん診療と検診のエビデンス		村上	
6	がんの診断	検診、画像診断、確定診断法		呉林	
7	oncologic emergency	代謝物による emergency (SIADH、DIC など)、 構造的要因による emergency (上大静脈症候群、脊髄圧迫など)		前田	
8	がんの内科的治療	最新の化学療法、分子標的治療、外来化学療法		根来	
9	がんの外科的治療	外科学の歴史と最新手術		五井	
10	がんの放射線治療 (1)	放射線物理学・放射線生物・放射線腫瘍学の基礎、放射線による生物影響—分子から個体へ、 がんの放射線治療における修飾因子、 がんの放射線／抗がん剤併用治療の原理		松本	
11	がんの放射線治療 (2)	放射線療法の照射方法、効果判定、有害事象と医療処置		塩浦	

12	造血幹細胞移植	骨髄供給源の確定、適応疾患、造血幹細胞移植合併症対策	浦崎
13	放射線被ばくと健康への影響	医療被曝、原発事故などによる放射線被ばくとその対応	小淵
14	がんの補助薬物療法	がんの症状緩和と薬物療法 抗癌薬の薬理作用・薬物動態・有害事象	古俵
15	がん看護と病態生理	がん看護に関連した専門知識を深める	磯見
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム)	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・ 実験/演習 ・ ディスカッション			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 腫瘍の概念、発生機序、病態生理について説明できる。 ・ がんの診断・治療について説明できる。 ・ oncologic emergency の病態と治療について説明できる。 ・ 放射線被ばくについて理解できる。 			
準備学習 (予習・復習)			
○予習			
以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。			
第1～4回 がんの病態生理と免疫について			
第5～7回 がんの疫学と診断について			
第8～12回 主ながん治療について			
第13回 放射線被ばくについて			
第14回 がんの補助薬物療法について			
○復習			
授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
授業での討論内容 (60%)、課題レポート (40%) を総合して評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。			
北信がんプロ e-learning を合わせて聴講することを推奨する。(分子腫瘍学特論、腫瘍放射線医学特論、分子生物学入門、がん外科学特論)			
その他履修上の注意点等			
事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨む。			
代表者 (氏名・E-Mail)		磯見智恵・ichie@u-fukui.ac.jp	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62CAN102
単位数：	2単位	コマ数	15コマ	開講時期：	1年次前期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学特論Ⅱ				がん看護、理論、概念	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
上原 佳子		教授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護領域の実践と研究に関連する理論や概念の活用について考え、理解を深めることができる。 ・研究結果や文献、個々の体験に基づいて、がん看護の現状の課題を分析し、今後の展望について洞察することができる。 					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1	がん看護に関連する理論と研究 (1)	がん看護に活用できる理論や概念の理解と実践への適用-がん看護介入モデルの探究		磯見	
2 3	がん患者・家族に関連する理論 (1) (2)	家族看護に関する理論 ・家族看護の基本理念 ・システム理論、カルガリーモデル (地域看護学特論と合同)		長谷川美	
4 5 6	がん看護に関連する理論と研究 (3) (4) (6)	ストレスフルな状況や危機的状況に活用できる理論の理解と実践への適用 ・ストレス・コーピング理論 ・アギュララとメズィックの問題解決型理論 ・フィンの危機理論		上原	
7	がん看護に関連する理論と研究 (7)	セルフケア理論の実践への適用 ・オレムのセルフケア理論		磯見	
8	がん看護に関連する理論と研究 (8)	自己効力理論の理解と実践への適用 セルフマネジメントの理解と実践への適用		磯見	
9	がん看護に関連する理論と研究 (9)	不確かさの理論の理解と実践への適用 ・ミシエルの不確か理論		繁田	
10	がん患者・家族に関連する理論 (3)	悲嘆の概念と研究 ・予期的悲嘆 ・家族の悲嘆の心理過程の理解と実践への適用		繁田	
11	がん看護に関連する理論と研究 (10)	ケアリング理論の理解と実践への適用		月田	
12	がん看護に関連する理論と研究 (11)	がん予防と健康に関する理論と研究 ・プロチェスカの変化ステージモデル ・禁煙支援		上原	
13 14	がん看護に関連する理論と研究 (12) (13)	がん看護に関連する倫理的諸問題と理論 ・既存の諸理論を用いた倫理的課題の分析 ・倫理的意思決定の理解		月田	
15	がん看護に関連する 研究結果の実践への導入	研究結果で得られた知識をがん看護の幅広い実践に導入して活用するアプローチ		磯見	

授業の形式	授業形態
講義 ・ 演習	対面 ・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用
アクティブ・ラーニングの導入状況	
・実験／演習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・ディスカッション	
到達目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護領域の実践と研究に関連する理論や概念の活用について説明できる。 ・研究結果や文献、個々の体験に基づいて、がん看護の現状と課題を洞察し、今後の展望について述べることができる。 	
準備学習（予習・復習）	
<p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に上げられている理論に関して、理論がまとめられたテキストで概要を把握したうえで授業を受けること。 ・事前学習について、担当教員に確認し、講義までに課題を行う。 <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了後には、キーポイントについてまとめる。 ・1つの理論を選んで深く学ぶ。 	
成績評価方法	
講義への取り組み状況(60%)とレポート(40%)	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
<p>参考書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドロセア E. オレム、小野寺 杜紀訳：オレム看護論—看護実践における基本概念 第4版、医学書院、2005. ・正木治恵他編：看護理論の活用 看護実践の問題解決のために、医歯薬出版、2012. ・城ヶ端初子：新訂版 実践に生かす看護理論 19 第2版、サイオ出版、2018. <p>その他、看護理論や中範囲理論の解説本など</p>	
その他履修上の注意点等	
代表者 (氏名・E-Mail)	磯見智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62CAN103
単位数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次前期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学特論Ⅲ				がん看護の動向 最新の治療 がんサバイバー 長期的支援 臨床 試験 がん看護専門看護師	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○ 繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
廣野 靖夫		准教授／がん診療推進センター		hirono@u-fukui.ac.jp	
上澤 悦子		教授／京都橘大学		kamisawa@tachibana-u.ac.jp	
我妻 孝則		がん看護専門看護師／金沢医科大学病院		wagataka@kanazawa-med.ac.jp	
高山 京子		准教授／順天堂大学医療看護学部		k.takayama.sv@juntendo.ac.jp	
酒井 明子		非常勤講師		sakaiaki@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・サバイバーシップの概念について説明できる。 ・4つの季節の特徴に応じた適切な看護援助方法を探求できる。 ・がん体験者の援助に活用可能な資源を説明できる。 ・がん看護専門看護師の役割を説明できる。 					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1)	がんサバイバーシップの概念	がんサバイバーシップの概念 国内外におけるがん看護の動向		繁田	
2)	治療に伴う看護 (1)	最新の手術療法と治療に伴う看護援助 喪失・悲嘆		〃	
3)	治療に伴う看護 (2)	最新のがん薬物療法と治療に伴う看護援助 がん薬物療法の有害事象と対症療法		〃	
4)	治療に伴う看護 (3)	最新の放射線療法と治療に伴う看護援助 放射線療法の有害事象と対症療法		磯見	
5)	緩和ケア	がんのトータルペインの理解 (事例) 症状マネジメントとチーム医療 (事例)		繁田	
6)	がん体験者の長期的支援 (1)	がん体験者の情報ニーズ がんサバイバーシップの季節に応じた情報		磯見	
7)	がん体験者の長期的支援 (2)	栄養測定・栄養管理方法の理解 がん体験者に特有な栄養問題		廣野	
8)	がん体験者の長期的支援 (3)	セクシャリティおよび生殖の問題		上澤	
9)	がん体験者の長期的支援 (4)	災害とがん体験者支援		酒井	
10)	がん体験者の長期的支援 (5)	サポートグループ、セルフヘルプ・グループ 活動の理解と支援方法		繁田	
11)	がん体験者の長期的支援 (6)	がん患者に活用できる社会資源		〃	
12)	がんの臨床試験と看護 (1)	臨床試験の過程とリサーチナースの役割		高山	
13)	がんの臨床試験と看護 (2)	がん臨床試験において生じやすい倫理的問題、被 験者保護の実際		〃	
14)	がん看護専門看護師の役割 (1)	がん看護専門看護師の歴史と役割 がん看護専門看護師の役割の実際		我妻	
15)	がん看護専門看護師の役割 (2)	事例検討：実践・相談・調整・倫理調整		〃	
授業の形式			授業形態		
講義 ・ 演習			・対面・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム)		

アクティブ・ラーニングの導入状況	
・演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・ディスカッション	
到達目標	
1) がん医療の動向について説明できる。 2) 最新のがん治療と治療に伴う看護援助について説明できる。 3) がん体験者への様々な長期的支援について説明できる。 4) 臨床試験の過程とリサーチナースの役割、生じやすい倫理的問題について説明できる。 5) がん専門看護師の歴史と役割の実際について説明できる。	
準備学習（予習・復習）	
予習:各単元に関連した文献、参考図書をレビューし、わからない用語やより深く知りたいことは、自分で調べる。 また提示された課題・資料は自己学習をして授業に臨むこと。 復習:授業資料等を基に授業で学んだ内容を振り返り、理解を深めること。	
成績評価方法	
課題レポート、事例の討論内容、修学態度を総合し、担当教員の合議により評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。 北陸がんプロ e-learning を合わせて聴講することを推奨する。（がん患者看護論）	
その他履修上の注意点等	
・質問・相談は随時受け付けます。	
代表者 (氏名・E-Mail)	繁田里美 (shigeta@u-fukui.ac.jp)

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62CAN104
単位数：	2単位	コマ数	15コマ	開講時期：	1年次後期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学特論IV				がん薬物療法看護、ケアとキュアの融合、チーム医療	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
古俵 孝明		副薬剤部長／医学部附属病院薬剤部		kodawara@u-fukui.ac.jp	
高野 智早		がん看護専門看護師／医学部附属病院看護部		tchihaya@u-fukui.ac.jp	
田墨 恵子		がん看護専門看護師・看護師長／大阪大学医学部附属病院		ktazumi@hp-nurse.med.osaka-u.ac.jp	
上埜 千春		がん看護専門看護師／金沢医科大学病院		chiharu@kanazawa-med.ac.jp	
中野 妃佐恵		がん看護専門看護師・乳がん看護認定看護師／福井県立病院		h-nakano-9e@pref.fukui.lg.jp	
富永 知恵子		がん看護専門看護師・がん化学療法看護認定看護師／福井赤十字病院		chemo.cn@gmail.com	
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・事例を通して、がん薬物療法の evidence based practice においてケアとキュアの融合ができる。 ・抗腫瘍薬の効果と有害事象への臨床判断ができる。 ・がん薬物療法における、がん看護専門看護師としての役割を説明できる。 ・チーム医療を促進できるアプローチを説明できる。 ・患者が疾患・治療に伴って生じる問題に自ら対処できるように支援する援助を理解する。 					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1 2 3	抗がん薬の臨床薬理の理解とケア (1) (2) (3)	抗がん薬の臨床薬理を理解し、フィジカルアセスメント、臨床判断、患者教育に結びつけて考える（抗がん薬、分子標的薬、ホルモン剤、予後因子、効果予測因子、薬物動態、Biochemical modulation、抗がん薬耐性獲得機序）		古俵	
4	薬物療法による有害事象の予防および症状マネジメント	主な有害事象に対する予防および症状緩和（チームへのアプローチ含む）		田墨	
5 6	消化器がん薬物療法と療養過程のマネジメント (1) (2)	事例分析：胃がん・大腸がん ・事例のアセスメント（現病歴、既往歴、病理診断、画像、看護情報などから） ・必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する		〃	
7 8	肺がん薬物療法と療養過程のマネジメント (1) (2)	事例分析：非小細胞肺癌 ・事例のアセスメント（現病歴、既往歴、病理診断、画像、看護情報などから） ・必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する		富永 磯見	
9 10	造血器腫瘍の薬物療法と療養過程のマネジメント	事例分析：白血病、悪性リンパ腫		上埜	

	ネジメント (1) (2)	<ul style="list-style-type: none"> 事例のアセスメント (現病歴、既往歴、病理診断、画像、看護情報などから) 必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する 	磯見
11 12	がんの集学的治療と療養過程のマネジメント (1) (2)	<p>事例分析：前立腺がん (手術、放射線、ホルモン、待機など)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例のアセスメント (現病歴、既往歴、病理診断、画像、看護情報などから) 必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する 	高野 磯見
13 14	がんの集学的治療と療養過程のマネジメント (3) (4)	<p>事例分析：乳がん (術前・術後補助化学療法、手術、放射線療法)</p> <ul style="list-style-type: none"> 事例のアセスメント (現病歴、既往歴、病理診断、画像、看護情報などから) 必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する 	中野 磯見
15	がん薬物療法に伴う患者・家族へのセルフケア支援	事例検討：有害事象に対する予防および症状緩和に関するセルフケア支援	田墨

授業の形式

講義 ・ 演習

授業形態

対面・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム)
上記の中から併用

アクティブ・ラーニングの導入状況

・ 実験/演習 ・ プレゼンテーション ・ グループワーク ・ ディスカッション

到達目標

- がん看護領域の実践と研究に関連する理論や概念の活用について説明できる。
- 研究結果や文献、個々の体験に基づいて、がん看護の現状と課題を洞察し、今後の展望について述べるができる。

準備学習 (予習・復習)

予習

以下の内容を大まかに理解して授業に臨む

- ・ 1-4 回 主な抗がん薬の作用と有害事象について
- ・ 5-14 回 事例のアセスメントに必要な病態生理・診断・治療などについて
- ・ 担当教員に事前課題を確認し、教員の指示に従って事前学習する

復習

- ・ 講義終了後には、キーポイントについてまとめる。

成績評価方法

講義への取り組み状況 (60%) とレポート (40%)

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。

教科書及び参考書

参考書

- ・必要に応じて資料配布・分権の紹介を行う
- ・各疾患の診断・治療ガイドライン

その他履修上の注意点等

代表者

(氏名・E-Mail)

磯見智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62CAN105
単位数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学特論 V				緩和ケア 症状マネジメント 倫理調整 家族看護 在宅ケア	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp	
長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp	
大森 一郎		准教授／精神医学		omoriim@u-fukui.ac.jp	
小島 ひで子		教授／北里大学看護学部・生涯発達看護学		hideko-k@nrs.kitasato-u.ac.jp	
佐久間 由美		がん看護専門看護師／聖隷三方原病院		ys1970@sis.seirei.or.jp	
山田 仁映		がん看護専門看護師／福井県済生会病院		yamada.hitoe4021@fukui.saiseikai.or.jp	
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・がん看護における palliative care や end of life care に関して既存の文献などに基づいて分析し、現状の課題と今後の展望を洞察できる。 ・生命を脅かす疾患に起因した様々な問題に苦慮する患者・家族への緩和ケアに関して、適用される概念および看護活動について理解し、実践できる。 ・多職種との連携・協働や地域連携について理解を深める。 ・倫理調整について理解できる。 ・看護の緩和ケア技術や援助体系を創造することができる。 					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1	緩和ケアの概念	緩和ケアの歴史と現状 ・緩和の歴史と理念 ・緩和ケアの現状と課題 ・生命を脅かす疾患に起因した諸問題に苦慮する患者・家族にかかわる看護師の責務			繁田
2	症状マネジメント (1)	トータルペインの緩和とケア 症状マネジメントモデル 心理・社会的側面へのケア			〃
3-5	症状マネジメント (2) (3) (4)	身体的側面へのケア 症状発現のメカニズムとケア ・痛み、倦怠感、呼吸困難感、悪心・嘔吐、腹部膨満感、浮腫 ・特殊な状況 (腎機能障害、肝機能障害など) における薬剤の使い			山田 繁田
6-7	症状マネジメント (5) (6)	精神面へのケア ・不眠、せん妄、抑うつ、不安、希死念慮等を呈する人へのケア			大森
8-9	症状マネジメント (7) (8)	スピリチュアルケア ・スピリチュアルケアの概念、ケア (事例)			佐久間
10	緩和ケアと倫理	看護師が遭遇する倫理的葛藤、倫理調整 ・セデーション、安楽死・尊厳死、輸液にかかわるケース			〃
11	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントと意思決定 ・緩和ケアにおけるコミュニケーション ・意思決定支援 ・パッドニュース後の患者・家族へのケア			〃
12-13	家族へのケア (1) (2)	家族看護学 ・グリーフケア、遺族ケア ・子どもへのケア			小島
14	在宅における緩和ケア	地域連携 ・在宅ケアの現状と課題 ・社会資源の活用とソーシャルワーク ・退院調整			長谷川

15	終末期のケア	・死期間近のケアと準備 ・看取りのケア	繁田
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習 ・ 文献購読		対面 ・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム) 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション			
到達目標			
1) 緩和ケアの歴史と現状・課題について説明できる。 2) トータルペインの緩和について説明できる。 3) 症状マネジメント(身体的側面・精神的側面・スピリチュアルな側面)について説明できる。 4) インフォームドコンセントと意思決定支援について説明できる。 5) 看護師が遭遇する倫理的葛藤、倫理調整について説明できる。 6) 家族へのケア 4 について説明できる。 7) 在宅における緩和ケアの現状と課題について説明できる。			
準備学習 (予習・復習)			
予習：各授業の学修内容について、関係する図書や文献を検索・熟読し、授業内容を把握しておくこと。分からない用語や深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。 復習：授業後は、授業内容の振り返りにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
修学態度、レポート、ゼミナール討論によりに総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			
教科書及び参考書			
必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。 北陸がんプロ e-learning を合わせて聴講することを推奨する。(分子腫瘍学特論、腫瘍放射線医学特論、分子生物学入門、がん外科学特論)			
その他履修上の注意点等			
・質問・相談は随時受け付けます。			
代表者 (氏名・E-Mail)		繁田里美・shigeta@u-fukui.ac.jp	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62CAN106
単位数：	2単位	コマ数	30コマ	開講時期：	1年次後期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学演習 I				がん薬物療法、エビデンス、支援計画、セルフマネジメント教育	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp	
上原 佳子		教授／基礎看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
田墨 恵子		がん看護専門看護師・看護師長／ 大阪大学医学部附属病院		ktazumi@hp-nurse.med.osaka-u.ac.jp	
長 光代		がん看護専門看護師／おれんじ訪 問看護ステーション		mitsuyo3843@gmail.com	
牧野 路子		がん看護専門看護師／医学部附属 病院看護部		ymicheko@u-fukui.ac.jp	
富永 知恵子		がん看護専門看護師・がん化学療法看 護認定看護師／福井赤十字病院		chemo.cn@gmail.com	
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・がん薬物療法を受ける患者の時期に応じて適用できる理論やエビデンスを調べ、事例を通して考えることができる。 ・課題解決に必要な文献・資料を準備し、エビデンスに基づく援助計画を立てることができる。 ・がん薬物療法に必要な患者・家族のセルフマネジメントに向けた支援と教育が理解できる。 ・がん薬物療法における専門看護師の活動の実際を理解できる。 					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1	外来がん化学療法看護ガイドラインの理解	外来がん化学療法看護ガイドラインの作成過程および内容の理解と討議		磯見 繁田	
2	がん薬物療法看護における研究の動向	文献検索のデータベースを活用して、国内外のがん薬物療法に関連した文献を検索する		磯見	
3	外来化学療法を受ける患者への看護	外来化学療法室におけるがん看護専門看護師の活動の実際		田墨	
4					
5	がん薬物療法にかかわる看護師への教育	薬物の安全な取り扱いと管理、リスクマネジメント		〃	
6					
7	外来化学療法における地域連携	外来化学療法を受ける患者を支援するための連携		長	
8					
9	がん薬物療法看護における研究の動向と課題の明確化	文献の内容を正確に読み取り、整理・分析してがん薬物療法に関する看護における研究の動向と看護の課題を明確にして、発表する		上原 磯見 繁田	
10					
11	がん薬物療法を受ける患者へのエビデンスに基づく援助計画の立案	がん薬物療法に関する知識を活用し、がん看護専門看護師の役割と機能を考えたうえで、事例にそって援助計画を立案する		磯見 繁田	
12					
13					
14	援助計画の発表および討議	援助計画の発表および討議		磯見 繁田 富永	

15 20	がん薬物療法に伴う患者・家族のセルフマネジメントに向けた支援・教育 (1) (2) (3)	教育技法などを用いて、患者・家族への健康教育のための模擬授業を行う	牧野 磯見 繁田 月田
21 27	フィールドワーク	がん薬物療法における看護の実際（福井大学医学部附属病院） ・外来化学療法室（病棟）の患者の特徴を理解し、活用されている資料などを把握する ・外来化学療法を受ける患者および入院患者（導入時）への援助の実際を観察、記述し、観察した場面をがん看護の視点で分析する（ガイドラインその他の資料の活用状況、観察場面の看護師への面接含む） ・演習で立案した援助計画を実現可能にするために、必要なことを臨床の指導者とともに検討する	磯見 繁田 牧野
28	フィールドワークのまとめ	・フィールドワークで得られた内容をまとめてOCNSと意見交換する	富永
29	発表および討議	・フィールドワークのまとめと討議をふまえて、薬物療法におけるがん看護の課題を明らかにし、課題解決に向けて検討する。	磯見 繁田
30	がん薬物療法における専門看護師の役割	・がん薬物療法におけるがん看護専門看護師の役割について明確にする	磯見 繁田

授業の形式

講義 ・ 演習 ・ 実習

授業形態

対面・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム）

アクティブ・ラーニングの導入状況

・実験／演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ 反転授業 ・ グループワーク ・ 現地調査

到達目標

・がん薬物療法を受ける患者の時期に応じて適用できる理論やエビデンスを調べ、事例に適用して考えることができる。
・課題解決に必要な文献・資料を準備し、エビデンスに基づく援助計画を立てることができる。
・がん薬物療法に必要な患者・家族のセルフマネジメントに向けた支援に関して、看護師への教育（模擬授業）が実施できる。
・フィールドワークを通して、がん薬物療法における専門看護師の活動の実際を説明できる。
・フィールドワークを通して、薬物療法におけるがん看護の課題を明らかにし、課題解決に向けて検討することができる。

準備学習（予習・復習）

予習

・ガイドラインについて
・共通科目の「看護教育論」で学習した内容を復習しておく（特に授業計画について）

復習

・授業でのポイントや討論の内容をまとめる

成績評価方法

事例検討の内容（40%）、課題レポート（40%）、参加態度（20%）を総合して評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

・外来がん化学療法看護ガイドライン

その他履修上の注意点等**代表者**

(氏名・E-Mail)

磯見智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62CAN107
単位数：	2 単位	コマ数	15 コマ	開講時期：	1 年次後期
授業科目名：				キーワード：	
がん看護学演習 II				OCNS の役割 補完代替療法 リンパ浮腫 栄養管理 地域連携 フィールドワーク	
担当教員名		職名／所属		E メールアドレス	
○繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp	
廣野 靖夫		准教授／がん診療推進センター		hirono@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵		教 授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp	
四谷 淳子		教 授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
浦井 真友美		乳がん看護認定看護師／医学部附属 病院看護部		urai@u-fukui.ac.jp	
高野 智早		がん看護専門看護師／医学部附属病院看護 部		tchihaya@u-fukui.ac.jp	
上原 佳子		教 授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp	
楠川 加津子		所長/永平寺町立在宅訪問診療所		eibou-clinic@orion.ocn.ne.jp	
上埜 千春		がん看護専門看護師／金沢医科大学 病 院		chiharu@kanazawa-med.ac.jp	
佐久間 由美		がん看護専門看護師／聖隷三方原病院		ys1970@sis.seirei.or.jp	
村上 真由美		がん看護専門看護師／富山赤十字病院		m-murakami@toyama-med.jrc.or.jp	
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・既習の理論・概念、既存の文献を活用し、診断期～終末期各期に生じるさまざまな苦痛症状や心理社会的・霊的苦痛および苦悩を理解し、緩和する方法を検討することができる。 ・終末期患者および家族の病状・状況に合わせたケアを考えることができる。 ・看護の緩和ケア技術や援助体系を創造する。 					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1	緩和ケアにおけるチーム医療と OCNS の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜチーム医療が必要なのか ・緩和ケアにおける OCNS の役割 		上埜 繁田	
2-3	補完代替療法 (1) (2)	事例検討 <ul style="list-style-type: none"> ・補完代替療法を求める人への看護支援 		上原	
4	緩和ケアと リハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・有酸素運動、エクササイズの生理的・医学的側面 ・ストレスとパフォーマンス ・体力低下と廃用症候群、生活関連動作へのアプローチ 		〃	
5-6	リンパ浮腫への援助	<ul style="list-style-type: none"> ・リンパ浮腫の援助の実際 (手技演習、予防とセルフケア) 		浦井	
7-8	栄養管理 (1) (2)	がん患者の栄養管理のポイント <ul style="list-style-type: none"> ・終末期癌患者に対する輸液治療のガイドライン ・がん患者の栄養管理の実際 		廣野	
9-11	終末期に起こる様々な問題と看護 (1) (2) (3)	事例検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ホスピスにおける看護支援、在宅ケア、エンド・オブ・ライフケア ・コミュニケーション (死にゆくことの言語化) 		佐久間 繁田 磯見	
12	終末期に起こる様々な問題と看護 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期のがん患者の皮膚の特徴とケア 		四谷	
13-14	地域連携 (1) (2)	事例検討 <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者が地域で安心して療養生活ができる環境を整える。 		村上 繁田	

15-17	緩和ケアに関連するがん患者教育・相談 (1) (2) (3)	事例検討 ・がん療養に関する相談、意思決定支援、ストレスマネジメント、セルフケア支援	〃
18-20	フィールドワーク (1) (2) (3)	在宅緩和ケアの実際 (永平寺町立在宅訪問診療所) ・在宅診療に参加し、在宅での緩和ケアの実際を観察し、がん看護の視点で考察する。	楠川 繁田
21-24	フィールドワーク (4) (5) (6) (7)	施設での緩和ケアの実際 (金沢医科大学病院) ・緩和ケア病棟における緩和ケアに関する援助の実際を観察、記述し、観察した場面をがん看護の視点で分析する。 ・緩和ケアチームおよび看護相談に参加し、チーム医療と症状緩和の実際を観察、記述し、観察した場面をがん看護の視点で分析する。	上埜 繁田
25	フィールドワーク (8)	・フィールドワークのリフレクション	繁田 磯見 月田
26-27	緩和ケアについての看護師への教育 (1) (2)	・緩和ケアについての看護師への教育計画を作成、看護職への教育を実施する。	高野 繁田
28	スタッフに対する精神的支援	・がん患者・家族を看護するスタッフへの精神的支援の必要性と実際、デスカンファレンス	〃
29-30	まとめ	フィールドワークでの分析結果をふまえ、がん看護における緩和ケアの課題を検討する。	繁田 磯見
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習 ・ 文献購読		対面 ・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム) 上記の中から併用	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・演習 ・ フィールドワーク ・ プレゼンテーション ・ 授業外学習の推進 ・ ディスカッション			
到達目標			
1) 緩和ケアにおけるチーム医療と OCNS の役割について説明できる。 2) 補完代替療法について説明できる。 3) リンパ浮腫への援助が実践できる。 4) がん患者の栄養管理について説明できる。 5) 終末期に起こる問題と看護について説明できる。 6) がん患者が地域で安心して生活できる環境について説明できる。 7) 緩和ケアに関連するがん患者の教育・相談について説明できる。 8) 緩和ケアについて看護師の教育と精神的支援が実践できる。			
準備学習 (予習・復習)			
予習:各単元に関連した文献、参考図書をレビューし、わからない用語やより深く知りたいことは、自分で調べる。 また提示された課題・資料は自己学習をして授業に臨むこと。 復習:授業資料等を基に授業で学んだ内容を振り返り、理解を深めること。			
成績評価方法			
課題レポート、プレゼンテーション、討論内容、修学態度を総合し、担当教員の合議により評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。			
教科書及び参考書			
必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。 e-learning を合わせて聴講すること。(在宅緩和医療特論、臨床栄養学特論)			
その他履修上の注意点等			
・質問・相談は随時受け付けます。			
代表者 (氏名・E-Mail)	繁田 里美・shigeta@u-fukui.ac.jp		

教育研究区分：	専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62CAN208	
単位数：	2 単位	コマ数	45 コマ	開講時期：	2 年次前期
授業科目名：	がん看護学実習 I			キーワード：	直接的ケア 包括的アセスメント CNS の役割 専門的な知識・技術・態度 看護実践能力
担当教員名	職名／所属		E メールアドレス		
○繁田 里美	准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp		
磯見 智恵	教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp		
我妻 孝則	がん看護専門看護師／金沢医科大学病院		wagataka@kanazawa-med.ac.jp		
上埜 千春	がん看護専門看護師／金沢医科大学病院		chiharuu@kanazawa-med.ac.jp		
学修目標					
様々な問題をもつがん患者を受け持ち、直接ケアを通して専門的な知識・技術を修得し、CNS としての態度や実践能力を養う。					
各回の授業の内容					
	(主題)	(学修内容)	(教員)		
1	専門的知識を活用し情報整理と問題の 焦点化	がん患者・家族と取り巻く社会環境などを、包 括的に理解、アセスメントし、問題の焦点化を する。	繁田, 上埜 磯見, 我妻		
2	諸理論を活用した高度な看護実践と評価	様々な問題をもつ事例を受け持ち、包括的アセ スメントに基づき、先行研究や諸理論を活用し た高度な看護を実践し、評価する。	"		
3	実践事例を通じた課題の明確化	受け持ち事例の分析を通して、がん看護専門看 護師としての自己の課題を明確にする。	"		
(方法)					
CNS の指導のもとに、患者を 1 例以上受け持ち、患者や家族の様々な問題をとらえて包括的にアセスメントし、問題を焦点化する。苦痛の緩和、日常生活の再構築を促進するために、看護や関連する理論・概念を適用し、個別性を重視した看護を展開する。					
患者のケアを通して、看護スタッフや他の職種とコミュニケーションを図る中で、CNS としての役割を探求する。					
プリセプターの CNS には、カンファレンスにおける事例検討を含めて指導を受ける。					
実習期間は原則 10 日以上で、カンファレンスは実習期間中に 2 回開催する。教員は 2 回以上実習場所に出向き、カンファレンスでの指導及び、学生や指導者との連絡・調整を図る。					
授業の形式		授業形態			
・ 実習		対面			
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・実習 ・プレゼンテーション ・討議					
到達目標					
1) 患者や家族の様々な問題を包括的にアセスメントし、問題を焦点化できる。					
2) 看護や関連する理論・概念を適用し、個別性を重視した看護が展開できる。					
3) 患者ケア、看護スタッフや他の職種とコミュニケーションを通して CNS としての役割を説明できる。					
4) 受け持ち事例の分析を通して、がん看護専門看護師としての自己の課題を明確にできる。					

準備学習（予習・復習）	
<p>予習:実習や受け持ち対象に関連した文献、参考図書をレビューし、より深く知りたいことは、自分で調べておく。 また主体的に実習を企画し実施・評価を行う。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるようにしておく。</p> <p>復習:実習で学んだ内容を振り返り、自己の課題を明確にする。</p>	
成績評価方法	
<p>目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。</p>	
成績評価基準	
<p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。</p>	
教科書及び参考書	
<p>必要に応じて文献の紹介を行う。</p>	
その他履修上の注意点等	
代表者 (氏名・E-Mail)	<p>繁田里美・shigeta@u-fukui.ac.jp</p>

教育研究区分：	専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62CAN209	
単位数：	2 単位	コマ数	45 コマ	開講時期：	2 年次前期
授業科目名：			キーワード：		
がん看護学実習Ⅱ			CNS の役割 CNS の活動 役割モデル		
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス		
○繁田 里美	准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp		
磯見 智恵	教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp		
遠藤 久美	がん看護専門看護師／静岡がんセンター		k.endo@scchr.jp		
萩谷 翔太	がん看護専門看護師／静岡がんセンター		s.hagiya@scchr.jp		
学修目標					
がん看護専門看護師としての高度なアセスメント能力、介入技術、職種間の調整及び連携、コンサルテーション、教育的機能を果たす能力、研究を通じた援助方法の開発推進、がん医療における地域連携の実際について、モデルを通して学ぶ。					
各回の授業の内容					
	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1	CNS としての役割を、役割モデルを通して学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・CNS が実際の場面でどのように実践的な役割を果たしているのか、実践の意図や役割について理解する。 ・CNS のコンサルテーションに同行し、コンサルテーションに必要な知識や技術を理解する。 ・CNS が行っている調整的な役割について理解する。 ・CNS が行っているケアの質向上を目指した教育活動を理解できる。 ・CNS が行っている臨床における研究活動の実際を理解できる。 ・倫理的問題の解決に向けた CNS の果たす役割を理解できる。 ・CNS の役割開発と課題について考え、言語化することができる。 ・がん看護の質の向上にむけた組織内の活動を理解する。 		繁田、遠藤 磯見、萩谷	
(方法)					
CNS の指導のもとにおいて、実際の CNS の活動を経験し、CNS としての実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究の役割を理解し、自己の適性を高める。					
プリセプターである CNS と CNS の役割、機能、実習の成果について、実習記録を活用して定期的に討議する。実習期間は原則 10 日以上で、カンファレンスは実習期間中に 2 回開催する。教員はカンファレンスでの指導及び、学生や指導者との連絡・調整を図る。					
授業の形式		授業形態			
・ 実習		対面			
アクティブ・ラーニングの導入状況					
・実習 ・プレゼンテーション ・討議					

到達目標	
<p>1) 実際の場面での CNS としてどのように実践的役割を果たしているのか説明できる。</p> <p>2) コンサルテーションに必要な知識や技術について説明できる。</p> <p>3) CNS が行っている調整的役割、教育活動、研究活動について意図を踏まえて説明できる。</p> <p>4) CNS の役割開発と課題について考え、言語化できる。</p> <p>5) がん看護の質の向上にむけた組織内の活動について説明できる。</p>	
準備学習（予習・復習）	
<p>予習:実習に関連した文献、参考図書をレビューし、より深く知りたいことは、自分で調べておく。また主体的に実習を企画し実施・評価を行う。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるようにしておく。</p> <p>復習:実習で学んだ内容を振り返り、自己の課題を明確にする。</p>	
成績評価方法	
目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。	
教科書及び参考書	
必要に応じて文献の紹介を行う。	
その他履修上の注意点等	
代表者 (氏名・E-Mail)	繁田里美・shigeta@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：	専門看護師教育課程 (CNS)		科目番号：	62CAN210		
単位数：	4単位	コマ数	90 コマ	開講時期：	2年次前期	
授業科目名：	がん看護学実習Ⅲ			キーワード：	直接的ケア 包括的アセスメント CNS の役割 専門的な知識・技術・態度 看護実践能力	
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス			
○磯見 智恵	教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp			
繁田 里美	准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp			
佐久間 由美	がん看護専門看護師／聖隷三方原病院		ys1970@sis.seirei.or.jp			
学修目標						
がん看護に関連する高度な専門知識・技術を用いて、がん患者とその家族、医療者が直面する問題状況を包括的にアセスメントし、問題解決に向けた総合的な実践能力を養う。専門看護師の6つの役割「実践」「教育」「相談」「調整」「研究」「倫理調整」を実践し、評価できる能力を養う。						
各回の授業の内容						
(主題)	(学習内容)			(教員)		
1	がん看護専門看護師としての役割を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 患者を包括的にアセスメントし、問題の焦点化および解決に向けた援助計画を立案し、実施・評価する。 ◆ コンサルテーション技法に基づいてコンサルテーション活動を実施する。 ◆ 関係職種・組織の連携機能の現状について把握し、患者のケアが円滑・効果的に行われるように調整する。 ◆ 看護スタッフを対象とした教育活動ができる。 ◆ 研究の成果を活用し、エビデンスに基づいた実践を行う。 ◆ 常に倫理的視点を持って活動する。 ◆ 実習を通して内省し、専門看護師としての役割開発と課題について言語化する。 			磯見 佐久間 繁田	
(方法)						
実習Ⅰ・Ⅱを発展させ、スーパービジョンを受けながら、がん看護専門看護師としての6つの役割を実践し、問題解決に向けた総合的な実践能力を養う。 組織の特徴を理解し、病棟や外来などの集団に必要なニーズを把握し、看護職への教育活動を実施・評価する。コンサルテーション活動を行う。病棟内、組織横断的な活動、チーム内、地域連携など組織内外での調整を実践し、がん看護専門看護師に必要な能力を養う。 プリセプターであるCNSの指導を受け、週2回以上面接にて実習の相談・調整およびフィードバックを受ける。教員から適宜スーパービジョンを受ける。教員は、CNSとともに必要な指導と調整を行う。実習期間は原則20日以上、カンファレンスは実習期間中2回以上開催する。自己の実習計画により実習期間が延長することもあるが、原則として9月下旬には終了する。						
授業の形式			授業形態			
・ 実習			対面			
アクティブ・ラーニングの導入状況						
・ 実習 ・ プレゼンテーション ・ 討議						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 複雑な看護ニーズを有する患者や家族の問題を包括的にアセスメントし、問題を焦点化できる。 ・ 看護や関連する理論・概念、先行研究の知見を活用し、個別性を重視した看護が展開できる。 						

- 受け持ち患者に生じている倫理的課題について明確にでき、倫理調整の方向性について説明できる
- コンサルテーション活動を行うことができる。
- 組織の特徴を理解し、病棟や外来などの集団に必要なニーズを把握し、看護職への教育活動を実施・評価できる。
- 病棟内、組織横断的な活動、チーム内、地域連携など組織内外での調整を実践できる。
- 患者ケア、看護スタッフや他の職種とコミュニケーションを通して CNS としての役割を説明できる。
- 受け持ち事例の分析を通して、がん看護専門看護師としての自己の課題を明確にできる。

準備学習（予習・復習）

予習: 実習や受け持ち対象に関連した文献、参考図書をレビューし、より深く知りたいことは、自分で調べておく。
また主体的に実習を企画し実施・評価を行う。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるようにしておく。

復習: 実習で学んだ内容を振り返り、自己の課題を明確にする。

成績評価方法

目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の 5 段階で評価する。

教科書及び参考書

必要に応じて文献の紹介を行う。

その他履修上の注意点等

代表者

(氏名・E-Mail)

磯見智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62CAN211	
単位数：		2単位		コマ数		30コマ	
開講時期：		2年次後期					
授業科目名：				キーワード：			
がん看護学実習Ⅳ				診断・治療、身体管理、臨床判断能力、ケアとキュアの融合			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp			
五井 孝憲		教授／外科学（1）		tgoi@u-fukui.ac.jp			
廣野 靖夫		がん診療推進センター長		hirono@u-fukui.ac.jp			
繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp			
高野 智早		がん看護専門看護師／医学部附属 病院看護部		tchihaya@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
<p>がんの診断・治療過程を理解し、身体管理と治療の遂行に必要な看護援助を行うために、アドバンストなアセスメント能力と臨床判断能力を修得し、ケアとキュアを融合し、卓越した臨床判断とケアを実践できる能力を養う。</p> <p>がん患者への長期的支援の観点から、がん医療における地域連携とがん専門看護師の役割と資源の活用について学ぶ。</p>							
各回の授業の内容							
	(主題)	(学習内容)				(教員)	
1	ケアとキュアを融合し、卓越した臨床判断と実践を行う。	<p>がんの診断・治療過程を理解し、身体管理と治療の遂行に必要な看護援助を行うために、アドバンストなアセスメント能力と臨床判断能力を修得し、ケアとキュアを融合し、卓越した臨床判断とケアを実践する。</p> <p>がん患者の苦痛緩和および薬物療法にかかわる身体管理と治療遂行を支援する。</p>				五井 磯見 繁田 廣野 高野	
2	がん医療における地域連携	<p>がん患者への長期的支援の観点から、がん医療における地域連携とがん専門看護師の役割と資源の活用について考察する。</p> <p>在宅療養への移行に必要な教育や支援、社会資源の活用や効果的な連携について考える。</p>				〃	
(方法)							
<p>緩和ケアチーム、緩和ケア外来、通院治療センター（外来化学療法室）、消化器外科外来、がん相談支援センターなどの実習を通して、フィジカルアセスメント、検査指示、必要な医療処置について判断した内容について、プリセプターである指導医からスーパーバイズを受けながら実習する。週に3～4日、病院にて実習し、週2回以上は指導医からフィードバックを受ける。がん看護における地域連携に関しては、地域連携室看護師とともに実習する。また、CNSに準ずる看護師から週1回以上フィードバックを受ける（実習時、OCNSコース修了者が勤務している予定）。教員は、臨床の指導者とともに必要な指導と調整を行う。実習期間は原則10日以上、カンファレンスは実習期間中2回以上開催する。</p>							
授業の形式				授業形態			
演習				対面・遠隔（リアルタイム）			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・演習 ・現地調査 ・ディスカッション							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> がん患者の治療過程を理解し、ケアとキュアを融合し、卓越した臨床判断とケアを実践できる。 がん患者の苦痛緩和および薬物療法にかかわる身体管理と治療遂行を支援できる。 長期的な視点に立って、がん医療における地域連携とがん専門看護師の役割と資源の活用について考察することができる。 在宅療養への移行に必要な教育や支援、社会資源の活用や効果的な連携について述べるることができる。 							

準備学習（予習・復習）	
予習 <p>実習や受け持ち対象に関連した文献、参考図書をレビューし、より深く知りたいことは、自分で調べておく。また主体的に実習を企画し実施・評価を行う。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるようにしておく。</p>	
復習 <p>実習で学んだ内容を振り返り、自己の課題を明確にする。</p>	
成績評価方法	
目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
必要に応じて文献の紹介を行う。	
その他履修上の注意点等	
代表者 (氏名・E-Mail)	磯見智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62CAN212	
単位数：		2単位		コマ数		30 コマ	
開講時期：		1・2年次通年					
授業科目名：				キーワード：			
がん看護学課題研究							
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp			
繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
がん看護学の学修並びに実践を通して見出された研究課題に沿って研究を行い、論文を作成することにより、看護実践に活用できる研究能力を養う。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題・学修内容)						(教員)
	研究課題に関連した文献検討をする						磯見・繁田
	研究課題に基づいて研究計画の概要を明確にする						〃
	研究計画に基づいて計画遂行に関する調整をする						〃
	研究計画に基づいて研究を展開することができる						〃
	研究結果について多面的に検討し、先行論文との比較検討をする						〃
	研究論文を作成する						〃
	作成した論文に基づいて、発表し、説明する						〃
授業の形式				授業形態			
演習				対面・遠隔（リアルタイム）			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・演習 ・現地調査 ・ディスカッション							
到達目標							
<ul style="list-style-type: none"> 研究課題に関連した文献検討ができる 研究課題に基づいて研究計画の概要を明確にすることができる。 研究計画に基づいて計画遂行に関する調整ができる。 研究計画に基づいて研究を展開することができる。 研究結果について多面的に検討し、先行論文との比較検討ができる。 研究論文を作成することができる。 作成した論文に基づいて、発表し、説明することができる。 							
準備学習（予習・復習）							
研究課題に関連する内容について自己学習する							
成績評価方法							
研究への取り組み、研究論文を総合して評価する。							
成績評価基準							
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。							

教科書及び参考書

・研究課題に沿った研究方法に関する文献・書籍を紹介する

その他履修上の注意点等**代表者****(氏名・E-Mail)**

磯見智恵・ichie@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62DIC101	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1年次後期					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学特論 I				災害看護、災害サイクル、生活上の問題、災害関連死、放射線災害、災害と法			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
木村 哲也		准教授／救急医		tkimu@u-fukui.ac.jp			
松本 英樹							
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
酒井 彰久		災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp			
酒井 明子				sakaiaki@u-fukui.ac.jp			
上田 耕蔵		病院長／神戸協同病院		ueda@kobe-iseikyo.or.jp			
永井 幸寿		弁護士／アンサー法律事務所		koju-answer@bell.ocn.ne.jp			
学修目標							
災害種類・災害サイクルにおける身体的・心理的・社会的課題を生活の側面や地域社会への影響の側面から理解する。災害発生時の生活の問題に関連した法律や制度を理解し、災害対応政策の現状と課題を検討し、考察する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	災害種類別による生活上の諸問題	災害種類における身体的・心理的・社会的課題に対する生活上の問題				未定・清水 酒井彰	
2	〃	〃				〃	
3	災害サイクル別による生活上の諸問題	災害サイクルにおける身体的・心理的・社会的課題に対する生活上の問題				〃	
4	〃	〃				〃	
5	災害時に発生する健康課題	災害に関連する疾患および災害関連死と発生要因				上田	
6	〃	災害関連死に関する災害対応政策の現状と課題				〃	
7	災害が人体に及ぼす影響と社会的課題	災害が人体に及ぼす影響 —放射線による人体影響に関する対策				松本	
8	〃	放射線による社会的課題				〃	
9	〃	緊急被ばくに対する災害対応政策				〃	
10	災害事例と災害対策	事例からみた各災害における災害対応政策の実際と課題				木村	
11	〃	〃				〃	
12	災害事例と看護の課題	事例からみた各災害における生活上の問題・地域社会への影響と看護				酒井明 清水・酒井彰	
13	〃	〃				〃	
14	災害に関連した法律や制度	災害時の諸問題と法				永井	
15	〃	法改正の背景と今後の課題				〃	

授業の形式	授業形態
講義	対面・遠隔(オンデマンド)・遠隔(リアルタイム) 上記の中から併用(対面・遠隔(リアルタイム))
アクティブ・ラーニングの導入状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・ディスカッション 	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> ① 災害時におけるおける身体的・心理的・社会的課題に対する生活上の問題と看護について説明できる。 ② 災害関連死の現状と課題について説明できる。 ③ 放射線の人体への影響と放射線災害の現状と課題について説明できる。 ④ 災害時の諸問題と法律の関連について説明できる。 ⑤ 災害対策と災害看護の実際について事例に基づき説明できる。 	
準備学習(予習・復習)	
<p>○予習</p> <p>第1～4回、12～13回 各回の授業内容に沿い、学習した内容をプレゼンテーションできるように準備しておくこと。また、ディスカッション内容を明確にし、授業を受けること。</p> <p>第5～11、14～15回 学修内容に沿って事前学修し、講師への質問内容を準備すること。</p> <p>○復習</p> <p>授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>	
成績評価方法	
レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、討議(30%)を総合して評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
指定なし 適宜紹介する。	
その他履修上の注意点等	
代表教員が、各単元の講義内容調整および講義サポートを行います。 質問は代表教員にメールしてください。	
代表者 (氏名・E-Mail)	未定

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62DIC102	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：						1年次後期	
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学特論Ⅱ				災害サイクル、被災者の特性、援助者の特性、要配慮者			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
長谷川 智子		教授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp			
磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp			
嶋 雅代		講師／育成期看護学		mashima@u-fukui.ac.jp			
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
酒井 彰久		災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp			
酒井 明子				sakaiaki@u-fukui.ac.jp			
上澤 悦子		教授／京都橘大学		kamisawa@tachibana-u.ac.jp			
山崎 加代子		教授／敦賀市立看護大学		k-yamazaki@tsuruga-nu.ac.jp			
学修目標							
1) 災害看護活動の対象となる被災者および援助者の特性および反応を理解し、災害サイクルに沿って援助方法を修得する。							
2) 要配慮者への支援の実際を通して援助方法を修得する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	急性期における災害看護	危機的状態にある被災者および援助者の特性				山崎 清水・酒井彰	
2	〃	危機的状態にある被災者および援助者への看護				〃	
3	慢性期における災害看護	災害時の慢性疾患患者の病状と生活に及ぼす影響				磯見	
4	〃	災害時の慢性疾患患者がセルフケアを維持していくための援助方法				〃	
5	生殖医療を受ける対象者への災害看護	生殖医療を受けている対象者の特性				上澤	
6	〃	災害時の生殖看護の実際				〃	
7	要配慮者・被災者・援助者	要配慮者の定義と対象の特徴を踏まえた生活への援助 被災者と援助者の特性と支援の実際				酒井明	
8	高齢者と災害看護	災害時の高齢者の反応				磯見	
9	〃	災害時における高齢者の看護の実際				〃	
10	母子と災害看護	災害時の母性看護の実際				嶋	
11	〃	災害時の小児看護の実際				〃	
12	ストレス・危機状態にある人への災害看護	災害サイクルにおける心理的変化のプロセスと 心理的支援				酒井明	
13	外国人と災害看護	外国人への看護の実際				長谷川智	
14	心身に障がいをもつ人への災害看護	心身に障がいをもつ人の災害時の諸問題				未定 清水・酒井彰	

15	〃	心身に障がいをもつ人の災害時の看護の実際	〃
授業の形式		授業形態	
講義		対面・ 遠隔 (オンデマンド)・ 遠隔 (リアルタイム) 上記の中から併用(対面 ・ 遠隔(リアルタイム))	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・ディスカッション 			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> ① 急性・慢性的な健康問題を有する被災者や援助者の特性および看護について説明できる。 ② 健康問題や障害を有する被災者の発達段階の特徴を踏まえた生活上の諸問題と看護について説明できる。 ③ 要配慮者の概念と援助について説明できる。 			
準備学習 (予習・復習)			
<p>○予習</p> <p>各回の授業内容および事前に提示される課題に沿い、学習した内容をプレゼンテーションできるように準備しておくこと。また、ディスカッション内容を明確にし授業を受けること。</p> <p>○復習</p> <p>授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>			
成績評価方法			
レポート(40%)、プレゼンテーション (30%)、討議 (30%) を総合して評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
指定なし 適宜紹介する。			
その他履修上の注意点等			
代表教員が、各単元の講義内容調整および講義サポートを行います。 質問は代表教員にメールしてください。			
代表者 (氏名・E-Mail)		未定	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62DIC103	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1年次後期					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学特論Ⅲ				開発途上国、地域防災、病院防災、災害と行政、原子力災害対応、復興、防災と減災			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp			
安田 仲宏		教授／附属国際原子力工学研究所		nyasuda@u-fukui.ac.jp			
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
酒井 彰久		災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp			
酒井 明子				sakaiaki@u-fukui.ac.jp			
渥美 公秀		教授／大阪大学		atsumi@hus.osaka-u.ac.jp			
小原 真理子		特任教授／清泉女学院大学		ohara@seisen-jc.ac.jp			
村井 雅清		顧問／被災地NGO協働センター		murai@code-jp.org			
学修目標							
災害発生に伴う急性期から復興期の人間の行動を理解し、国際的な視点・地域防災・病院防災の視点から防災・減災を理解し、備えに向けた看護援助方法を学ぶ。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	開発途上国への看護支援	開発途上国への災害支援の現状と課題				長谷川	
2	〃	災害時における異文化社会における看護援助方法				〃	
3	地域における災害対応政策	地域における災害対応政策の現状と課題				〃	
4	地域防災	個人・家族・地域・病院における防災体制				小原	
5	〃	住民や住民組織による地域防災と看護支援				〃	
6	病院防災	災害時の初動体制				未定・清水 酒井彰	
7	〃	病院における災害対応訓練の実際				〃	
8	防災行政・防災計画	災害時における災害応急対策				安田	
9	〃	災害時における行政対応と原子力災害対応				〃	
10	復興支援	復興とは 人間復興				酒井明	
11	〃	復興支援「復興支援時の諸問題と看護介入、災害対応政策における課題」				〃	
12	復興支援ボランティア	国内における復興支援ボランティアの実際と課題				村井	
13	復興支援ボランティア	海外における復興支援医療ボランティアの実際と課題				村井・未定 清水・酒井彰	
14	防災・減災	防災・減災の人間科学				渥美	
15	〃	看護の視点から捉えた防災・減災「防災・減災の人間科学」				渥美・未定 清水・酒井彰	

授業の形式	授業形態
講義	対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（対面・遠隔（リアルタイム））
アクティブ・ラーニングの導入状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・ディスカッション 	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> ① 発展途上国の災害の現状と課題について説明できる。 ② 地域防災・病院防災について説明できる。 ③ 災害時の行政対応と原子力防災について説明できる。 ④ 復興支援ボランティアの現状と課題について説明できる。 ⑤ 人間科学に基づいた防災と減災の概念が説明でき、看護の視点から防災・減災を捉えることができる。 	
準備学習（予習・復習）	
<p>○予習</p> <p>第6～7、10～11回 各回の授業内容に沿い、学習した内容をプレゼンテーションできるように準備しておくこと。 また、ディスカッション内容を明確にし授業を受けること。</p> <p>第1～5、8～9、12～15回 学修内容に沿って事前学修し、講師への質問内容を準備すること。</p> <p>○復習</p> <p>授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。 レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>	
成績評価方法	
レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、討議(30%)を総合して評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
指定なし 適宜紹介する。	
その他履修上の注意点等	
代表教員が、各単元の講義内容調整および講義サポートを行います。 質問は代表教員にメールしてください。	
代表者 (氏名・E-Mail)	未定

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62DIC204	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		2年次前期					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学特論Ⅳ				専門職連携、地域ネットワーク、 連携システム、倫理的判断、 災害対応訓練、			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
木村 哲也		准教授／救急医学		tkimu@u-fukui.ac.jp			
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
酒井 彰久		災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp			
酒井 明子		非常勤講師（予）		sakaiaki@u-fukui.ac.jp			
山田 覚		教授／高知県立大学		yamada@cc.u-kochi.ac.jp			
学修目標							
災害サイクルと被災者特性を踏まえ、災害救護活動の現場・病院・地域における専門職としての連携システム、地域ネットワーク、倫理判断を含む看護援助について理論的に理解する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	専門職連携	災害支援活動におけるIPW				未定・清水 酒井彰	
2	〃	災害サイクルと被災者の特性を考慮した他職種との連携による看護支援の実際				〃	
3	地域ネットワーク	災害時の広域な地域ネットワーク				山田	
4	〃	災害看護支援ネットワーク構築の実際				〃	
5	被災病院における倫理的判断と看護援助	被災病院における倫理的諸問題と看護援助				酒井彰	
6	〃	被災病院における倫理的諸問題と看護援助				〃	
7	専門職としての連携システム	専門職チームにおける連携システム				木村	
8	〃	緊急被ばく医療における連携の実際				〃	
9	被災地における連携の実際	災害サイクルと災害の場の特性および被災者特性を考慮した被災地における災害看護活動				酒井明	
10	被災地における倫理的判断と看護援助	被災地における倫理判断を含む看護援助				〃	
11	災害管理における看護の役割	災害対応訓練と連携システムにおける看護の役割				酒井彰	
12	〃	災害医療機関と地域との連携				〃	
13	課題検討と発表	1) 被災病院における専門職連携と看護援助に関するプレゼンテーションとディスカッション				未定・清水 酒井彰	
14	〃	2) 被災地域における専門職連携と看護援助に関するプレゼンテーションとディスカッション				〃	
15	〃	3) 専門職としての倫理判断と看護援助プレゼンテーションとディスカッション				〃	

授業の形式	授業形態
講義	対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（対面・遠隔（リアルタイム））
アクティブ・ラーニングの導入状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・ディスカッション 	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> ① 災害サイクルに沿った専門職連携と看護の実際について説明できる。 ② 地域・看護支援ネットワークについて説明できる。 ③ 緊急被ばく医療における専門職連携の実際について説明できる。 ④ 被災地域・被災病院における倫理的判断を含む看護援助について説明できる。 ⑤ 災害対応訓練や災害医療機関と地域との連携について説明できる。 	
準備学習（予習・復習）	
<p>○予習</p> <p>第3～4、7～8回 学修内容に沿って事前学修し、講師への質問内容を準備すること。</p> <p>上記以外の回 各回の授業内容に沿い、学習した内容をプレゼンテーションできるように準備しておくこと。また、ディスカッション内容を明確にし授業を受けること。</p> <p>○復習</p> <p>授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。</p> <p>レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>	
成績評価方法	
レポート(40%)，プレゼンテーション(30%)，討議(30%)を総合して評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
指定なし 適宜紹介する。	
その他履修上の注意点等	
代表教員が、各単元の講義内容調整および講義サポートを行います。 質問は代表教員にメールしてください。	
代表者 (氏名・E-Mail)	未定

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62DIC105	
単位数：		2単位		コマ数		30コマ	
開講時期：		2年次前期					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学演習 I				災害サイクル、被災者特性、 災害救護活動、健康管理、倫理的課題			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp			
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp			
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
酒井 明子		非常勤講師（予）		sakaiaki@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
災害発生から時間的な推移に伴い必要となる看護援助として、災害急性期に在宅や避難所や病院で被災者が抱える諸問題や対応策、中長期に仮設住宅で被災者が抱える倫理的問題含む健康や生活上の問題と対応策に関する看護援助方法を学び、災害看護専門看護師としての役割を探究する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1～2	災害急性期において被災者が抱える諸問題や対応策	災害急性期における救命救急時の高度な知識と技術（実践）				未定・月田 清水	
3～4	〃	在宅避難者への看護に必要な知識と技術（実践）				〃	
5～6	〃	避難所の看護に必要な知識と技術（実践）				〃	
7～8	〃	災害急性期における倫理的課題の明確化と問題解決（倫理）				〃	
9～10	災害慢性期において被災者が抱える諸問題や対応策	災害慢性期における健康管理に必要な知識と技術（実践）				未定・繁田	
11～12	〃	慢性疾患による生活上の問題解決方法の探究（実践）				〃	
13～14	〃	災害慢性期における倫理的課題の明確化と問題解決（倫理）				〃	
15～16	災害復旧復興期において被災者が抱える諸問題や対応策	災害復旧復興期における健康管理に必要な知識と技術（実践）				未定・酒井	
17～18	〃	災害復旧復興期における生活上の問題の査定、問題解決方法の探究（実践）				未定	
19～20	〃	仮設住宅における健康問題解決に必要な知識・技術（実践）				〃	
21～22	〃	災害復旧復興期における倫理的課題の明確化と問題解決（倫理）				〃	
23～24	病院災害において被災者が抱える諸問題や対応策	病院災害に対応する高度な知識・技術（実践）				未定	
25～26	〃	病院災害時の看護活動の問題の検討と解決方法の探究（実践）				〃	
27～28	〃	病院災害における倫理的課題の明確化と問題解決（倫理）				〃	

29～30	時間的推移に伴う看護援助	災害発生後の時間的経過における災害看護専門 看護師の役割の探求	”
授業の形式		授業形態	
講義		対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（対面・遠隔（リアルタイム））	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・現地調査 ・ディスカッション 			
到達目標			
<p>① 災害サイクルに沿って起こりやすい健康問題や被災者特性に合わせた看護援助に必要な知識と技術が修得できる。</p> <p>② 災害各期および場所別の倫理的課題を明確にし、解決に必要な知識と技術が修得できる。</p> <p>③ 災害発生後の時間的経過における災害看護専門看護師の役割が説明できる。</p>			
準備学習（予習・復習）			
<p>○予習 演習開始時に演習計画を立案すること。立案した計画に沿って各回に必要な準備を行うこと。</p> <p>○復習 授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。 レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>			
成績評価方法			
レポート(40%)，プレゼンテーション(30%)，討議(30%)を総合して評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
指定なし 適宜紹介する。			
その他履修上の注意点等			
災害看護のエキスパートと指導教員との連携のもと、演習及びプレゼンテーションとディスカッションを行います。 質問は代表教員にメールしてください。			
代表者 (氏名・E-Mail)		未定	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62DIC206	
単位数：		2単位		コマ数		30コマ	
開講時期：		2年次前期					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学演習Ⅱ				要配慮者、援助方法、防災・減災、 訓練企画、教育機能、調整機能			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp			
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
酒井 明子		非常勤講師（予）		sakaiaki@u-fukui.ac.jp			
山崎 加代子		教授／敦賀市立看護大学		k-yamazaki@tsuruga-nu.ac.jp			
学修目標							
要配慮者の特性を踏まえた援助方法を考慮した上で、個人・家族・地域・医療機関などにおける防災・減災・被害対応・備えに向けた教育・訓練などを企画・実施・評価をすることで、災害看護専門看護師としての教育機能・調整機能を修得する看護援助方法を修得する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1～2	専門看護師としての要配慮者への援助方法	要配慮者の特性を踏まえた様々な看護援助の必要性と根拠について検討し、実技とプレゼンテーションにより授業を展開する。 ①～⑦の援助方法について理論的学習を行う。				未定・月田 清水	
3～4	〃	①コミュニケーション				〃	
5～6	〃	②観察				〃	
7～8	〃	③身体ケア				〃	
9～10	〃	④こころのケア				〃	
11～12	〃	⑤情報伝達				〃	
13～14	〃	⑥避難方法				〃	
15～16	〃	⑦要配慮者への看護援助の評価				〃	
17～18	災害時における病院管理	災害時における病院管理の諸問題に対する看護援助方法の企画・実施・評価				酒井	
19～20	〃	〃				〃	
21～22	〃	〃				未定・清水	
23～24	〃	〃				〃	
25～26	災害時の被害対応と備え	災害時における被害対応・備えに対する教育・訓練の企画				山崎	
27～29	〃	特殊災害への対応：救護所レイアウト・養生実習・身体表面汚染検査・除染方法				〃	
30	〃	災害時における被害対応・備えに対する教育・訓練の評価				〃	
授業の形式				授業形態			
講義				対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（対面・遠隔（リアルタイム））			

アクティブ・ラーニングの導入状況	
<p>・演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク</p> <p>・授業外学習の推進 ・現地調査 ・ディスカッション</p>	
到達目標	
<p>① 要配慮者の特性を踏まえた援助に必要な知識と技術を修得する。</p> <p>② 防災教室や災害対応訓練を企画・実施し評価することができる。</p> <p>③ 災害看護専門看護師としての教育機能や調整機能について説明することができる。</p>	
準備学習（予習・復習）	
<p>○予習</p> <p>演習開始時に演習計画を立案すること。立案した計画に沿って各回に必要な準備を行うこと。</p> <p>○復習</p> <p>授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>	
成績評価方法	
レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、討議(30%)を総合して評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
<p>指定なし</p> <p>適宜紹介する。</p>	
その他履修上の注意点等	
質問は代表教員にメールしてください。	
代表者 (氏名・E-Mail)	未定

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62DIC207	
単位数：		2単位		コマ数		30 コマ	
開講時期：		2年次前期					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学演習Ⅲ				災害サイクル、専門職連携、訓練企画、実践能力、調整機能、連携機能			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp			
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
酒井 明子		非常勤講師（予）		sakaiaki@u-fukui.ac.jp			
北村 大樹		主幹／鯖江・丹生消防組合消防本部		d.kitamura@fd-sabaenyu.jp			
学修目標							
災害サイクル各期における専門職の連携と他職種との連携について、現状や問題点を分析的に検討する。講義で学んだ知識や理論をもとに、教育・訓練などの企画、実施、評価を行い、災害看護専門看護師としての実践・調整・連携機能を修得する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1～2	災害看護活動の場における他職種との連携活動	災害時における専門職と連携について現状や問題点を分析し、①②③の場における看護を展開する。				未定・月田・清水 酒井・北村	
3～6	〃	①現場救護所における演習				未定・月田・清水	
7～10	〃	②救護所における演習				〃	
11～14	〃	③病院災害における演習				〃	
15～16	災害サイクルにおける他職種との教育・訓練	災害サイクルにおける他職種との連携実践を通して専門看護師としての実践・調整・連携機能を学ぶ。				未定・月田・清水 酒井・北村	
17～20	〃	災害急性期における連携の演習				未定・月田・清水	
21～24	〃	災害慢性期における連携の演習				〃	
25～28	〃	災害復旧復興期における連携の演習				〃	
29～30	〃	災害看護専門看護師としての実践・調整・連携機能についてプレゼンテーション				未定・月田 清水 酒井・北村	
授業の形式				授業形態			
講義				対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（対面・遠隔（リアルタイム））			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・現地調査 ・ディスカッション							
到達目標							
① 災害時の連携について現状と課題を分析し、防災教室や災害対応訓練に活かすことができる。 ② 災害看護活動の場に応じた看護・専門職連携の知識や技術が修得できる。							

- ③ 災害サイクルにおける看護・専門職連携の知識や技術が修得できる。
- ④ 災害看護専門看護師としての実践・調整・連携機能について説明できる。

準備学習（予習・復習）

○予習

演習開始時に演習計画を立案すること。立案した計画に沿って各回に必要な準備を行うこと。

○復習

授業後は、授業資料を読み返し、追加で学習する必要がある項目の学習を行い、授業内容の要点を整理すること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。

成績評価方法

レポート(40%)、プレゼンテーション(30%)、討議(30%)を総合して評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

指定なし

適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

質問は代表教員にメールしてください。

代表者

(氏名・E-Mail)

未定

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62DIC208	
単位数：		2単位		コマ数		40 コマ	
開講時期：		2年次前期					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学実習 I				卓越した実践、災害サイクル、災害看護教育、コンサルテーション、研究			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
酒井 彰久		災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp			
長田 恵子		副院長／東京医療センター		osada.keiko.ut@mail.hosp.go.jp			
西田 美幸		看護部長／福井県立病院		m-nishita-ta@pref.fukui.lg.jp			
内田 智美		看護部長／福井赤十字病院		t.uchida@fukui-med.jrc.or.jp			
馬場 みゆき		看護部長／公立丹南病院		babam@jadecom.jp			
小堀 和美		看護部長／市立敦賀病院		ts222306@ton21.ne.jp			
学修目標							
災害看護学特論および演習での学習を統合しながら災害看護専門看護師に必要な高度な実践能力を高めるために、災害急性期から中長期、備えの時期（静穏期）における災害看護教育の実際を学び、卓越した災害看護の実践能力に必要なコンサルテーション、研究、教育が自律して行える能力の開発を目指す。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	災害看護教育における専門看護師の役割開発	実習施設の災害医療や災害看護システムの在り方の中で、災害看護専門看護師の果たす役割・機能の特徴を探究する。 (各部署での防災対策、災害発生時の災害対応マニュアル・院内災害対応、災害時に必要な知識・技術、現場救護所における医療活動)				長田・西田 内田・馬場 小堀 未定・清水酒 井彰	
2	病院における災害看護研修の企画・実施・評価のプロセスの探求	災害看護知識および実践能力向上のための集団教育および個人指導事例のアセスメント、実習計画、実施、評価のプロセスを通して災害看護専門看護師が果たすコンサルテーション、研究、教育の役割機能について探究する。				〃	
3	実践事例を通じた課題探求と評価	災害時に卓越した災害看護の実践能力を発揮するために必要なコンサルテーション、研究、教育について議論し、課題を探究し評価する。				〃	
授業の形式				授業形態			
実習				対面			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク ・ディスカッション							
到達目標							
① 災害看護教育における専門看護師の役割開発ができる。							
② 病院における災害看護研修の企画・実施・評価のプロセスを探究することができる。							
③ 実践事例を通して課題探求と評価ができる。							

準備学習（予習・復習）	
○予習 実習開始前に実習計画を立案すること。立案した計画に沿って実習に必要な準備や実習施設との調整を行ったうえで実習し、実習中は中間報告会、最終報告会の準備を行うこと。	
○復習 実習中は毎日実習記録を提出すること。実習終了後は実習を振り返り、指導教員と評価面談を実施すること。	
成績評価方法	
実習への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
指定なし 適宜紹介する。	
その他履修上の注意点等	
実習は学生が主体的に企画・実施・評価を行います。自立して自己の実習目標達成に向けて企画・調整し実習評価は具体的な評価になるようにしてください。 質問は代表教員にメールしてください。	
代表者 (氏名・E-Mail)	未定

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62DIC209	
単位数：		3単位		コマ数		60コマ	
開講時期：		2年次前期					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学実習Ⅱ				卓越した実践、災害サイクル、防災教育、病院災害、倫理調整、連携機能			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
酒井 彰久		災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihiisa@u-fukui.ac.jp			
長田 恵子		副院長／東京医療センター		osada.keiko.ut@mail.hosp.go.jp			
西田 美幸		看護部長／福井県立病院		m-nishita-ta@pref.fukui.lg.jp			
内田 智美		看護部長／福井赤十字病院		t.uchida@fukui-med.jrc.or.jp			
馬場 みゆき		看護部長／公立丹南病院		babam@jadecom.jp			
小堀 和美		看護部長／市立敦賀病院		ts222306@ton21.ne.jp			
学修目標							
災害看護学特論および演習での学習を統合しながら災害看護専門看護師に必要な実践能力を高めるために、災害急性期から中長期、備えの時期（静穏期）における災害看護教育・防災教育の実際を学び、災害時の複雑で解決困難な看護問題に対して必要なコンサルテーション、研究、教育、実践、各職種間・病棟などの部門間の倫理調整・連携機能が自律して行える能力の開発を目指す。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	災害急性期から中長期、備えの時期（静穏期）における災害看護教育・防災教育の企画・実施・評価のプロセスの探究	実習施設における防災訓練の企画・実施・評価の実際についてスーパービジョンを受けながら実践し、災害急性期から中長期、備えの時期（静穏期）における災害看護教育・防災教育の評価・課題を通して、災害看護専門看護師が修得すべき6つの能力を探究する。				長田・西田 内田・馬場 小堀 未定・清水酒 井彰	
2	病院災害における複雑で解決困難な看護問題に対する解決方法の検討	実習施設において病院災害における複雑で解決困難な看護問題を把握し、指導者から助言を受けながら解決方法を検討し、実践する。				〃	
3	実践事例を通じた課題探求と評価	災害看護専門看護師が修得すべき6つの能力について実践事例を通して探求し評価する。				〃	
授業の形式				授業形態			
実習				対面			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク ・ディスカッション							
到達目標							
① 災害急性期から中長期、備えの時期（静穏期）における災害看護教育・防災教育の企画・実施・評価のプロセスを探究することができる。							
② 病院災害における複雑で解決困難な看護問題に対する解決方法が実践できる。							
③ 実践事例を通じた課題探求と評価ができる。							

準備学習（予習・復習）	
○予習 実習開始前に実習計画を立案すること。立案した計画に沿って実習に必要な準備や実習施設との調整を行ったうえで実習し、実習中は中間報告会、最終報告会の準備を行うこと。	
○復習 実習中は毎日実習記録を提出すること。実習終了後は実習を振り返り、指導教員と評価面談を実施すること。	
成績評価方法	
実習への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
指定なし 適宜紹介する。	
その他履修上の注意点等	
実習は学生が主体的に企画・実施・評価を行います。自立して自己の実習目標達成に向けて企画・調整し実習評価は具体的な評価になるようにしてください。 質問は代表教員にメールしてください。	
代表者 (氏名・E-Mail)	未定

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62DIC210	
単位数：		2単位		コマ数		40コマ	
開講時期：		2年次後期					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学実習Ⅲ				卓越した実践、災害中長期、生活支援、相談、倫理的課題			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
酒井 彰久		災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
<p>災害看護学特論および演習での学習を統合しながら災害中長期における看護活動について、災害看護の専門看護師としての役割を認識した上で、看護職者と他職者に対する相談、実践する能力を養う。</p> <p>また、被災者の尊厳を守り、倫理的課題に取り組みながら、看護職者、他職種のケア提供者、地域で暮らす被災者と家族の生活を支援するための援助に必要な能力を開発する。</p>							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	災害中長期における専門看護師の役割の開発	災害中長期における被災地（避難所・仮設住宅・恒久住宅）で災害看護専門看護師の果たす役割・機能の特徴を探求する。				未定・清水・酒井彰	
2	災害中長期における複雑で解決困難な看護問題に対する解決方法の検討	災害中長期における複雑で困難な看護問題を把握し、指導者から助言を受けながら解決方法を検討し、災害看護専門看護師が果たす役割機能について探究する。				〃	
3	生活を支援するための保健—医療—福祉の連携における専門看護師の役割開発	災害中長期において保健—医療—福祉の連携のもと倫理的課題への対応、集団教育および個人指導の実践を行い、アセスメント、実施、評価のプロセスを通して専門看護師の役割を開発する。				〃	
4	実践事例を通じた倫理的課題探求と評価	災害中長期の生活を支援する卓越した災害看護の実践能力を発揮するために必要な能力について議論し、課題を探求し評価する。				〃	
授業の形式				授業形態			
実習				対面			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク ・ディスカッション							
到達目標							
<p>① 災害中長期における専門看護師の役割・機能の特徴が探求できる。</p> <p>② 災害中長期における複雑で解決困難な看護問題に対する解決方法が検討できる。</p> <p>③ 生活を支援するための保健—医療—福祉の連携における専門看護師の役割開発ができる。</p> <p>④ 実践事例を通じた倫理的課題探求と評価ができる。</p>							
準備学習（予習・復習）							
○予習							
実習開始前に実習計画を立案すること。立案した計画に沿って実習に必要な準備や実習施設との調整を行ったうえで実習し、実習中は中間報告会、最終報告会の準備を行うこと。							
○復習							
実習中は毎日実習記録を提出すること。実習終了後は実習を振り返り、指導教員と評価面談を実施すること。							

成績評価方法

実習への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

指定なし

適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

実習は学生が主体的に企画・実施・評価を行います。自立して自己の実習目標達成に向けて企画・調整し実習評価は具体的な評価になるようにしてください。

質問は代表教員にメールしてください。

代表者**(氏名・E-Mail)**

未定

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62DIC211
単位数：	3単位	コマ数	60コマ	開講時期：	2年次後期
授業科目名：				キーワード：	
災害看護学実習Ⅳ				卓越した実践、地域に根ざした看護活動、他職種ネットワーク、将来展望	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○未定					
木村 哲也		准教授／救急医学		tkimu@u-fukui.ac.jp	
繁田 里美		准教授／臨床看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp	
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp	
酒井 彰久		災害看護専門看護師／臨床看護学		sakihisa@u-fukui.ac.jp	
鈴木 勝博		救急救命士／永平寺町消防本部		katsukun900r2005@yahoo.co.jp	
北村 大樹		主幹／鯖江・丹生消防組合消防本部		d.kitamura@fd-sabaenyu.jp	
学修目標					
災害急性期から中長期、備えの時期（静穏期）における地域に根ざした看護活動の実際を学び、被災者を取り巻く他職種とのネットワークを活用した実践能力を養い、災害看護専門看護師の役割（実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整）を分析し、専門看護師としての将来展望をもつ。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1	地域における減災・防災に貢献する専門看護師の必要性和役割の開発	地域の歴史・文化・対象者の特性を把握し、地域全体の視点から、課題を探求し、減災・防災に貢献する災害看護専門看護師として、地域との連携を考慮した役割の必要性を分析する。		未定 繁田 月田 清水 酒井彰	
2	地域における減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法を探究	地域のネットワークを活用し地域に寄り添う企画を実践し、複雑で解決困難な問題に対して地域の資源を活用した解決方法を探究する。 (地元消防との連携実習として、大規模災害に備えて、応急救護所および避難所活動のシミュレーションを企画し、永平寺町住民と協働し、大規模災害を想定した訓練を行う。永平寺消防職員と協働し住民への救急救命講習を行う。また、地元の消防との連携により救急車同乗実習を行い、災害医療初動体制における実践能力を学ぶ。)		未定 酒井彰 鈴木 北村	
3	原子力施設が立地する地域において減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法を探究	原子力施設が立地する地域において地域のネットワークを活用した企画を実践し、減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法を探究する。 (原子力施設と共存・共栄できるまちづくりとして原子力関連団体と協働し、原発立地県住民へのスクリーニング指導、放射線の絵本作りと地元小学校へのエネルギー環境教育、放射線による健康被害、地域被ばくフォーラムを実施)		未定 酒井彰 木村	

4	実践事例を通じた課題探求と評価	地域に根ざした他職種とのネットワークにおける災害看護の実践能力を発揮するために必要な能力について議論し、課題を探求し評価する。	未定 酒井彰
授業の形式		授業形態	
実習		対面	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・プレゼンテーション ・反転授業 ・グループワーク ・ディスカッション			
到達目標			
① 地域における減災・防災に貢献する専門看護師の必要性と役割の開発ができる。			
② 地域における減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法が探究できる。			
③ 原子力施設が立地する地域において減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法が探究できる。			
④ 実践事例を通じた課題探求と評価ができる。			
⑤ 専門看護師としての将来展望を持つことができる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習 実習開始前に実習計画を立案すること。立案した計画に沿って実習に必要な準備や実習施設との調整を行ったうえで実習し、実習中は中間報告会、最終報告会の準備を行うこと。			
○復習 実習中は毎日実習記録を提出すること。実習終了後は実習を振り返り、指導教員と評価面談を実施すること。			
成績評価方法			
実習への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
指定なし 適宜紹介する。			
その他履修上の注意点等			
実習は学生が主体的に企画・実施・評価を行います。自立して自己の実習目標達成に向けて企画・調整し実習評価は具体的な評価になるようにしてください。 質問は代表教員にメールしてください。			
代表者 (氏名・E-Mail)		未定	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62DIC213	
単位数：		2単位		コマ数		30 コマ	
開講時期：		1・2年次通年					
授業科目名：				キーワード：			
災害看護学課題研究				研究課題の明確化、研究計画立案、 研究の展開、先行研究との比較検討 論文作成、研究発表			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○未定							
清水 誉子		講師／臨床看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
災害看護学の学修並びに実践を通して見出された研究課題に沿って研究を行い論文を作成することにより、看護実践に活用できる研究能力を養う。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)		
1)	研究課題の明確化と研究計画の立案	研究課題に基づき研究計画の概要を明確にする			未定・清水		
2)	研究計画の調整	研究計画に基づき計画の実施について調整する			〃		
3)	データ収集	研究計画に基づき研究を展開する			〃		
4)	データの分析、考察	研究結果について多面的に検討し、先行研究と比較検討する			〃		
5)	研究論文の作成	研究論文を作成する			〃		
6)	発表	作成した論文に基づき発表する			〃		
授業の形式				授業形態			
演習・個別指導				対面・遠隔（オンデマンド）・遠隔（リアルタイム） 上記の中から併用（対面・遠隔（リアルタイム））			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・プレゼンテーション ・授業外学習の推進 ・ディスカッション							
到達目標							
① 研究課題に基づき研究計画の概要を明確にすることができる。 ② 研究計画に基づき計画の実施について調整することができる。 ③ 研究計画に基づき研究を展開することができる。 ④ 研究結果について多面的に検討し、先行研究と比較検討することができる。 ⑤ 研究論文を作成することができる。 ⑥ 作成した論文に基づき発表し、説明することができる。							
準備学習（予習・復習）							
○予習 指導教員・副指導教員と相談し、研究を進める。 ○復習 追加学修が必要な項目について学修する。							
成績評価方法							
研究過程における取り組み姿勢、プレゼンテーション状況、作成された修士論文及び論文発表状況を総合して評価する。							

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

指定なし

適宜紹介する。

その他履修上の注意点等

質問は担当会の教員または代表教員にメールしてください。

代表者**(氏名・E-Mail)**

未定

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62GER104	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		1年次前期					
授業科目名：				キーワード：			
老年看護学特論Ⅰ				高齢者、生涯発達、サクセスフルエイジング、アドボカシー、意思決定			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp			
磯見 智恵		教授／臨床看護学		ichie@u-fukui.ac.jp			
月田 佳寿美		准教授／臨床看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp			
平松 知子		教授／金沢医科大学・老年看護学		hiramatu@kanazawa-med.ac.jp			
学修目標							
老年看護に関わる諸理論の学習とCNSの役割の理解を通して、専門的な老年看護実践を発展させるに必要な論理的思考と看護の見方、また、老年看護実践を探究するための基盤となる考え方を修得する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)			
1	老年看護の歴史と課題 高齢者の理解	老年看護学の歴史の変遷と課題 自己の高齢者観の探求		四谷淳子 月田佳寿美			
2	高齢者の心理・社会的面における諸理論①	生涯発達理論・活動理論・離脱理論・適応理論①		月田佳寿美			
3	高齢者の心理・社会的面における諸理論②	生涯発達理論・活動理論・離脱理論・適応理論②		月田佳寿美			
4	高齢者の心理・社会的面における諸理論③	サクセスフルエイジング・アクティブエイジング①		四谷淳子			
5	高齢者の心理・社会的面における諸理論④	サクセスフルエイジング・アクティブエイジング②		四谷淳子			
6	老年看護における倫理的課題と支援①	アドボカシー・エイジズム・高齢者虐待①		四谷淳子 平松知子			
7	老年看護における倫理的課題と支援②	アドボカシー・エイジズム・高齢者虐待② (事例検討)		四谷淳子 平松知子			
8	老年看護における倫理的課題と支援③	意思決定・尊厳死など①		四谷淳子 平松知子			
9	老年看護における倫理的課題と支援④	意思決定・尊厳死など(事例検討)②		四谷淳子 平松知子			
10	老年看護を实践する基盤となる理論①	セルフケア論・エンパワメント①		磯見智恵			
11	老年看護を实践する基盤となる理論②	セルフケア論・エンパワメント②		磯見智恵			
12	老年看護を实践する基盤となる理論③	コンフォート理論・ストレングス論①		四谷淳子 磯見智恵			
13	老年看護を实践する基盤となる理論④	コンフォート理論・ストレングス論②		四谷淳子 磯見智恵			
14	老年看護学実践・研究の課題	老年看護の实践・研究・教育の現状と課題		四谷淳子			

15	老人看護専門看護師としての機能と役割	老人看護専門看護師の活動の実際 老人看護専門看護師の役割・機能	四谷淳子
授業の形式		授業形態	
講義		対面・遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・問題解決型学習・プレゼンテーション・グループワーク・ミニレポート・ディスカッション			
到達目標			
1. 老年看護に関する諸理論や概念について説明できる。 2. 老年看護を实践するために有用な看護理論を理解できる。 3. 老年看護を实践するために必要な倫理的課題とその対応について説明できる。 4. 老人看護専門看護師として教育、相談、調整、倫理調整などの機能や役割について説明できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第1回 老年看護学の定義と老年看護学変遷 第2回～第3回 生涯発達理論・活動理論・離脱理論・適応理論 第4回～第5回 サクセスフルエイジング・アクティブエイジング 第6回 アドボカシー・エイジズム・高齢者虐待 第7回 エイジズムまたは高齢者虐待についての臨床での事例をレポートにまとめておく 第8回 高齢者の倫理について 第9回 高齢者とその家族への支援（意思決定）について臨床での事例をレポートにまとめておく 第10回～第11回 セルフケア論・エンパワメント 第12回～第13回 コンフォート理論・ストレングス論 第14回 老年看護学領域における最新の臨床研究論文を一編読み、整理する 第15回 老人看護専門看護師としての機能と役割についてレポートにまとめておく ○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
参考書 1) E.H.エリクソン, J.M.エリクソン: ライフサイクル・その完結, みすず書房, 2001. ISBN:9784622039679 2) キャサリン・コルカバ: コルカバ コンフォート理論, 医学書院, 2008. ISBN:9784260005654 3) ドロセア E オレム, 小野寺杜紀: オレム看護論 - 看護実践における基本概念 (第4版), 医学書院, 2005. ISBN: 9784260000604			

- 4) E. O. コックス (著)ほか：高齢者エンパワーメントの基礎—ソーシャルワーク実践の発展を目指して，相川書房，1997. ISBN:9784750102429
- 5) アイリーン・T.オグラディ (著)，メアリー・フラン・トレシー (著)：高度実践看護—統合的アプローチ，第2版，へるす出版，2021. ISBN:9784892699962
- 6) ベッキー ファースト (著)，ローズマリー チャピン (著)ほか：高齢者・ストレングスモデルケアマネジメント—ケアマネジャーのための研修マニュアル，筒井書房，2005. ISBN：9784887204676

その他履修上の注意点等

質問は担当回の教員または代表教員にメールしてください。

代表者 (氏名・E-Mail)	四谷淳子・jyotsuya@u-fukui.ac.jp
----------------------------------	-----------------------------

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62GER105	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：				キーワード：		1年次前期	
授業科目名：				キーワード：			
老年看護学特論Ⅱ（健康生活評価）				老年看護、高齢者、健康生活評価			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp			
西 依見子		Taste&See 代表 非常勤講師／ 大阪府立大学 看護学分類		emiko5222000@yahoo.co.jp			
濱田 敏彦		准教授／北陸大学 医療保健学部		t-hamada@hokuriku-u.ac.jp			
水上 喜美子		助教／金沢大学 医薬保健研究域 医学系		mizukamikimiko@gmail.com			
学修目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・老年期における健康について把握し、健康面や生活状況の評価方法の特徴を理解できる。 ・高齢者の健康状態を身体的・精神的・社会的および包括的にアセスメントすることができる。 ・専門看護師として高齢者の総合的評価に基づき、看護ニーズを整理し、QOL向上に向けた、高齢者と家族の看護実践への活用が説明できる。 							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	高齢者の健康生活機能評価	高齢者の健康生活評価の特徴について、高齢者総合機能評価（CGA）				四谷淳子	
2	高齢者の健康生活機能評価	国際生活機能分類（ICF）の考え方について				四谷淳子	
3	身体機能の評価（1）	日常生活自立度（ADL）と手段的生活動作（IADL）				四谷淳子	
4	身体機能の評価（2）	転倒転落リスク評価				四谷淳子	
5	身体機能の評価（3）	摂食・嚥下機能の変化と評価				西依見子	
6	身体機能の評価（4）	栄養評価と栄養管理				四谷淳子	
7	身体機能の評価（5）	排泄機能の変化と評価				四谷淳子	
8	身体機能の評価（6）	呼吸器・循環器機能の変化と評価				濱田敏彦	
9	認知・心理的機能および社会的機能の評価（1）	認知機能障害の評価				水上喜美子	
10	認知・心理的機能および社会的機能の評価（2）	精神心理機能の評価				水上喜美子	
11	認知・心理的機能および社会的機能の評価（3）	ソーシャルサポート、ネットワーク家族機能の評価				水上喜美子	
12	認知・心理的機能および社会的機能の評価（4）	介護負担、ストレス評価				水上喜美子	
13	認知・心理的機能および社会的機能の評価（5）	高齢者のQOL、生活満足度の評価				四谷淳子	
14	高齢者の健康生活評価の実際（1）	高齢者の包括的アプローチと看護展開の実際 ①				四谷淳子	

15	高齢者の健康生活評価の実際（2）	高齢者の包括的アプローチと看護展開の実際 ②	四谷淳子
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔（オンデマンド）・ 遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・演習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・ミニレポート ・ディスカッション			
到達目標			
1. 高齢者の加齢変化や健康生活に関連する基本的な概念に基づき、高齢者のアセスメントにおける課題を説明できる。 2. 高齢者の健康生活を把握するさまざまな評価方法を活用して高齢者の複雑な状況をアセスメントし、説明できる。 3. 高齢者の健康生活を包括的にとらえる評価方法を活用し、アセスメント結果を説明できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第1回～第2回 高齢者総合機能評価（CGA）、国際生活機能分類（ICF） 第3回 日常生活自立度（ADL、IADL） 第4回 転倒転落リスクアセスメント 第5回 嚥下機能評価 第6回 栄養アセスメントツール 第7回 排尿機能の評価 第8回 呼吸器・循環器の評価 第9回～第10回 認知・心理的機能および社会的機能の評価 第11回～第12回 ソーシャルサポート、ストレス評価 第13回 高齢者の満足度評価 第14回～第15回 看護実践での事例を第1回～第13回までの評価を用いてレポートにまとめる			
○復習 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
参考書 1) 小木曾加奈子編著：高齢者ケアの質を高める ICF を活かしたケアプロセス，学文社，2015。 ISBN: 9784762030673 2) 鈴木みずえ編著：転倒・転落予防のベストプラクティス—ベッドサイドですぐにできる，南江堂，2013。 ISBN:9784524263332 3) 谷口珠実，武田正之 著，編集：下部尿路機能障害の治療とケア：病態の理解と実践に役立つ，メディカ出版2017。 ISBN：9784840461368			

その他履修上の注意点等

質問・相談は随時受け付けます。

代表者

(氏名・E-Mail)

四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER106
単位数：	2単位	コマ数	15コマ	開講時期：	1年次前期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学特論Ⅲ（病態・治療学）				老年看護、高齢者、病態・診断・治療	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
一和多 俊男		教授／東京医科大学 八王子医療センター 呼吸器内科		ichiwata@tokyo-med.ac.jp	
近藤 康博		呼吸器・アレルギー疾患内科主任部長／公立陶 生病院		konyasu2003@yahoo.co.jp	
石塚 全		教授／福井大学医学系部門医学領域病態制 御医学講座 内科学（3）		tamotsui@u-fukui.ac.jp	
濱野 忠則		准教授／福井大学医学系部門医学領域 内科学 （2）		hamano@u-fukui.ac.jp	
有島 英孝		講師／福井大学医学系部門医学領域附属病 院部 脳脊髄神経外科		ari@u-fukui.ac.jp	
小久保 安朗		准教授／福井大学医学系部門医学領域 手術部		kokubo@u-fukui.ac.jp	
青木 芳隆		講師／福井大学医学系部門医学領域 泌尿器 科学		aokiyosh@u-fukui.ac.jp	
後藤 伸之		教授／福井大学医学系部門医学領域 薬剤部		ngoto@u-fukui.ac.jp	
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者に多く見られる疾患の病態や症状、診断・治療について説明ができる。 ・疾病や治療等が高齢者の生活に及ぼす影響をアセスメントし、予測的な対応につなげることができる。 ・高齢者特有の疾患の診断・治療に関する知識を活用し、ケアとキュアを統合した高度な看護実践を検討できる。 					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1	老化について	老化のメカニズム、老年期の疾患の特徴		四谷淳子	
2	呼吸器系疾患の病態・診断・治療（1）	COPD		一和多俊男	
3	呼吸器系疾患の病態・診断・治療（2）	間質性肺炎、肺線維症		近藤康博	
4	呼吸器系疾患の病態・診断・治療（3）	咳、気管支喘息、気管支拡張症		石塚全	
5	脳血管系および神経系疾患の病態・ 診断・治療（1）	脳梗塞・脳出血		有島英孝	
6	脳血管系および神経系疾患の病態・ 診断・治療（2）	慢性硬膜下出血・特発性正常圧水頭症		有島英孝	
7	認知・精神機能障害の病態・ 診断・治療（1）	せん妄への対応		濱野忠則	
8	認知・精神機能障害の病態・ 診断・治療（2）	老年期うつ病の評価と治療		濱野忠則	
9	認知・精神機能障害の病態・ 診断・治療（3）	パーキンソン症候群		濱野忠則	
10	運動器系の診断・治療	骨折・関節拘縮リウマチ		小久保安朗	

11	泌尿器系の診断・治療	排尿障害・尿路感染症・神経因性膀胱・前立腺肥大症	青木芳隆
12	高齢者の薬物療法 (1)	薬物動態・薬物力学・薬効評価	後藤伸之
13	高齢者の薬物療法 (2)	処方上の注意点・服薬指導	後藤伸之
14	診断・治療過程における 高齢者看護包括アセスメント (1)	複雑な疾患を抱えながら生活する高齢者の病態・診断・治療を踏まえ、リスクアセスメント知識を活用した看護展開 (事例検討)	四谷淳子
15	診断・治療過程における 高齢者看護包括アセスメント (2)	複雑な疾患を抱えながら生活する高齢者の病態・診断・治療を踏まえ、リスクアセスメント知識を活用した看護展開 (事例検討)	四谷淳子
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム)	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・問題解決型学習 ・クリッカー ・プレゼンテーション ・ミニッツペーパー ・グループワーク ・ミニレポート ・ディスカッション			
到達目標			
1. 高齢者に生じやすい主な疾患・障害について、病態生理と症候、診断・検査および治療法を説明できる。 2. 高齢者に生じやすい主な疾患・障害の病態生理学的知識を高度実践看護に活用する方法を説明できる。			
準備学習 (予習・復習)			
○予習 (毎週 (回) に分けた記載) 以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。 第1回 老化のメカニズム 第2回～第4回 COPD, 間質性肺炎, 肺線維症, 気管支拡張症 第5回～第6回 脳梗塞, 脳出血, 慢性硬膜下出血, 特発性正常圧水頭症 第7回～第9回 せん妄, 老年期うつ病, パーキンソン症候群 第10回 骨折・関節拘縮リウマチ 第11回 排尿障害・尿路感染症・神経因性膀胱・前立腺肥大症 第12回～第13回 高齢者の薬物療法 第14回～第15回 高齢者の病態・診断・治療を踏まえ、リスクアセスメント知識を活用した事例をレポートにまとめる ○復習 (全体をとおした記載) 授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
参考図書 1) 大内尉義 編：新老年学 第3版, 東京大学出版会, 2010. ISBN: 9784130664066			

2) 日本老年医学会 (著, 編集), 日本医療研究開発機構 (著): 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン 2015, メジカルビュー社, 2015. ISBN:9784758304900

その他履修上の注意点等

質問・相談は随時受け付けます。

代表者

(氏名・E-Mail)

四谷 淳子・jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER107
単位数：	2単位	コマ数	15コマ	開講時期：	1年次後期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学特論Ⅳ（看護援助論）				老年看護、高齢者、看護援助	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.jp	
平松 知子		教授／金沢医科大学・老年看護学		hiramatu@kanazawa-med.ac.jp	
古谷 和紀		老人看護専門看護師／京都大学医学部附属病院		fururu_to0515@yahoo.co.jp	
花房 由美子		老人看護専門看護師／神戸市立医療センター中央市民病院		hanafusa@kcho.jp	
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の自立的・自律的生活を保持・推進するために、高齢者に生じやすい健康問題と、そこから派生する高齢者と家族の問題について予防的および発生時の看護援助の方法を追究できる。 ・高齢者の権利擁護の観点から、療養支援上生じやすい倫理的課題に対する看護職の役割と対応策について追究できる。 					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1	家族看護論に基づく看護援助方法(1)	家族理論にもとづき、高齢者とその家族への看護支援方法を理解する。		長谷川美香	
2	家族看護論に基づく看護援助方法(2)	"		"	
3	家族看護論に基づく看護援助方法(3)	"		"	
4	転倒を起こしやすい高齢者と家族の看護(1)	転倒のアセスメント、介入、評価について最近の研究から理解する。		平松知子	
5	転倒を起こしやすい高齢者と家族の看護(2)	"		"	
6	せん妄を起こしやすい高齢者と家族の看護(1)	せん妄を生じる高齢者への看護に関する理論と実際、アセスメント方法について学ぶ。		花房由美子	
7	せん妄を起こしやすい高齢者と家族の看護(2)	せん妄を発生した高齢者および家族へのケアについて学ぶ		"	
8	終末期にある高齢者および家族への看護(1)	終末期の身体的特徴と緩和ケア、高齢者の意思決定と家族を支える看護について学ぶ。		"	
9	終末期にある高齢者および家族への看護(2)	"		"	
10	排泄障害を起こしやすい高齢者と家族の看護(1)	排泄についてのアセスメント、介入、評価について最近の研究から理解する。		四谷淳子	
11	排泄障害を起こしやすい高齢者と家族の看護(2)	"		"	
12	排泄障害を起こしやすい高齢者と家族の看護(3)	"		"	
13	複雑な健康問題をもつ高齢者と	複雑な健康問題をもつ高齢者と家族の入院から		四谷淳子	

	家族への看護 (1)	在宅復帰までの経過における看護:最新の文献と既習した知識・技術を活用した看護実践を検討する(事例検討)。	古谷和紀
14	複雑な健康問題をもつ高齢者と家族への看護 (2)	”	”
15	まとめ	高齢者と家族への援助における老人専門看護師としてのあり方、自己の課題を討議する。	四谷淳子
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔 (オンデマンド) ・ 遠隔 (リアルタイム)	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 演習 ・ 問題解決型学習 ・ プレゼンテーション ・ グループワーク ・ ミニレポート ・ ディスカッション 			
到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者に起こりやすい健康問題とそこから派生する、高齢者と家族の問題を説明することができる。 ・ 高齢者と家族が抱える倫理的課題および支援方法を説明できる。 ・ 終末期における高齢者と家族への支援方法を具体的に説明できる。 ・ 複雑な健康問題をもつ高齢者と家族の入院から在宅復帰までの経過における質の高い看護を検討できる。 			
準備学習 (予習・復習)			
<p>○予習</p> <p>以下について事前に調べ、大まかに理解した上で授業を受けること。</p> <p>第1回～第3回 家族看護理論</p> <p>第4回～第5回 転倒転落リスクアセスメント</p> <p>第6回～第7回 せん妄に対するアセスメントとケア</p> <p>第8回～第9回 高齢者の意思決定</p> <p>第10回～第12回 排泄機能の評価</p> <p>第13回～第14回 看護実践での事例をレポートにまとめる</p> <p>第15回 老人看護専門看護師としての自己の課題をレポートにまとめる</p> <p>○復習</p> <p>授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。</p>			
成績評価方法			
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
指定なし。			
その他履修上の注意点等			
質問・相談は随時受け付けます。			
代表者 (氏名・E-Mail)		四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62GER108	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
授業科目名：		老年看護学特論V		キーワード：		保健医療福祉制度、システムケア、チーム医療、多職種連携、専門看護師	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○ 長谷川 美香		教授／コミュニティ看護学		mikah@u-fukui.ac.jp			
米澤 洋美		准教授／コミュニティ看護学		hyone@u-fukui.ac.jp			
北出 順子		准教授／コミュニティ看護学		jkitade@u-fukui.ac.jp			
山村 修		教授／地域医療推進講座		kapi@u-fukui.ac.jp			
天谷 早苗		主任介護支援専門員／福井県看護協会訪問看護支援室		s-amaya@mx4.fctv.ne.jp			
古川 直美		管理者・訪問看護師／新田塚訪問看護ステーション		huru0837@yahoo.co.jp			
角地 孝洋		保健師・主幹／小松市長寿介護課		t-kaku@city.komatsu.lg.jp			
未定							
学修目標							
国内外の高齢者保健医療福祉制度・政策およびチーム医療での多職種連携・協働を理解し、グローバルな視点から高齢者と家族のサポートシステムを探求することができる。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状(1)	日本の高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状				長谷川美	
2	高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状(2)	地域包括ケアシステム構築の歴史の変遷と現状①				米澤 北出	
3	高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状(3)	地域包括ケアシステム構築の歴史の変遷と現状②				米澤 北出	
4	高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状(4)	諸外国にみる介護施策(ドイツ、イギリス、オランダ、スウェーデン)				米澤 北出	
5	今後の高齢者へのサポートシステムのあり方(1)	地域で高齢者と家族を支えるために必要な制度、サポートシステム：地域包括ケアシステムにおけるCNSの役割				角地	
6	高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状(5)	地域包括ケアシステムの構築と地域マネジメント(演習)				米澤 北出	
7	高齢者と家族のためのサポートシステム(1)	地域における保健医療福祉の現状と課題① 高齢者に対する虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律(高齢者虐待防止法)の成立過程と課題；介護殺人、ダブルケア他				米澤 北出	
8	高齢者と家族のためのサポートシステム(2)	地域における保健医療福祉の現状と課題② 諸外国の安楽死法(オランダ)				米澤 北出	
9	高齢者と家族のためのサポートシステム(3)	(学生発表・討議)				米澤 北出	
10	高齢者と家族のためのサポートシステム(4)	地域における保健医療福祉の現状と課題② 健康の社会的決定要因(Social Determinants of Health; SDH)、 変わる高齢者像；アクティブシニア				米澤 北出	
11	多様な場で生活する高齢者と家族のためのサポートシステム(1)	医療施設でのチーム医療と保健医療福祉専門職の役割と看護職との連携				山村	

12	多様な場で生活する高齢者と家族のためのサポートシステム（2）	大学附属病院地域連携室における現状と課題	未定
13	多様な場で生活する高齢者と家族のためのサポートシステム（3）	施設でのケアシステムの構築とその実際①	天谷 古川 長谷川
14	多様な場で生活する高齢者と家族のためのサポートシステム（4）	施設でのケアシステムの構築とその実際②	天谷 古川 長谷川
15	今後の高齢者へのサポートシステムのあり方（2）	地域ケアシステムの構築（学生発表・討議）	米澤 北出
授業の形式		授業形態	
講義 ・ 演習		対面 ・ 遠隔（オンデマンド） ・ 遠隔（リアルタイム）	
アクティブ・ラーニングの導入状況			
・プレゼンテーション ・グループワーク ・授業外学習の推進 ・ミニレポート ・ディスカッション			
到達目標			
1) 国内外の高齢者保健医療福祉制度・政策、変遷、相違について説明できる。 2) 病院・施設・在宅・地域のケア場面で必要な知識および保健医療福祉との連携・協働のあり方を理解し、チーム医療における老人看護専門看護師の役割について説明できる。 3) 高齢者と家族のサポートシステムの組織化と活用方法について国際的な視点から探求できる。			
準備学習（予習・復習）			
○予習 授業では、高齢者保健医療福祉制度、高齢者と家族のサポートシステムについて扱うため、そのテーマに関連する内容を各自で事前に把握しておくこと。わからない用語やより深く知りたいことが生じた場合には、自分で調べたうえで授業を受けること。			
○復習 授業後は、授業資料の読み返しやディスカッション内容等から授業テーマの理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。			
成績評価方法			
修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。			
成績評価基準			
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。			
教科書及び参考書			
指定なし			
その他履修上の注意点等			
・事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨んでください。 ・質問は担当回の教員にメールしてください。 ・質問・相談は随時受け付けます。			
代表者 （氏名・E-Mail）		長谷川美香・mikah@u-fukui.ac.jp	

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：		62GER109	
単位数：		2単位		コマ数		30コマ	
開講時期：		1年次後期					
授業科目名：				キーワード：			
老年看護学演習Ⅰ（急性期看護）				高齢者、急性期治療、せん妄、症状緩和、身体拘束、リスクマネジメント、多職種連携、家族看護			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○長谷川 智子		教授／基盤看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp			
四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp			
上原 佳子		教授／基盤看護学		uehara@u-fukui.ac.jp			
北野 華奈恵		講師／基盤看護学		kyoshi@u-fukui.ac.jp			
梅田 尚子		講師／福井医療大学保健医療学部看護学科		umeda@fukui-hsu.ac.jp			
栞原 勇治		副看護部長／福井大学医学部附属病院		kuwabara@u-fukui.ac.jp			
古谷 和紀		老人看護専門看護師／京都大学医学部附属病院		fururu_to0515@yahoo.co.jp			
上田 真弓		慢性呼吸器疾患認定看護師／加賀市医療センター		m.ueda@kagacityhp.jp			
小淵 岳恒		講師／福井大学医学系部門医学領域 救急部・総合診療部		kobuta@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
急性期医療を受ける複雑な健康障害をもつ高齢者とその家族について理解を深め、複雑な看護問題を分析する視点と看護介入や、倫理上の課題や急性期治療に伴う看護上の問題を解決するための方法を学ぶ。また、高齢者を QOL の視点から捉え、治療におけるキュアとケアの統合を図る、老年看護実践について探求する。							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1-3	オリエンテーション 急性期にある高齢者の特徴	急性期にある高齢者看護の特徴などについて文献を活用し検討				長谷川智子 上原佳子	
4	急性期にある高齢者の生体反応①	入院治療を受ける高齢者の特徴と周手術期の術前～術後の生体反応や回復過程および心理的变化の理解				栞原勇治 北野華奈恵	
5	急性期にある高齢者の生体反応②	急性期にある高齢者の侵襲性の高い高度医療・検査を受ける医療環境下における影響～呼吸・循環・代謝水分管理を中心に～				栞原勇治 北野華奈恵	
6	急性期にある高齢者の生体反応③	治療に伴う高齢者の安楽と緩和ケアに寄り添う QOL の維持向上へのアプローチ～鎮痛管理と鎮静管理の調整とその方法～				栞原勇治 北野華奈恵	
7-8	急性期にある高齢者の生体反応④	危機的状況における高齢者の予期的予測と終末期医療の困難と課題～急性期医療現場が抱える医療者と患者・家族のジレンマと倫理的課題～				栞原勇治 北野華奈恵	

9	急性期治療をうける高齢者に活用できる看護理論①	危機理論（事例展開）	梅田尚子
10	急性期治療をうける高齢者に活用できる看護理論②	自己効力理論（事例展開）	梅田尚子
11	急性期治療をうける高齢者に活用できる看護理論③	障害受容（事例展開）	上田真弓
12-14	急性期治療をうける高齢者の看護	認知機能の低下した高齢者への看護 廃用性症候群予防の看護 術後せん妄・うつ・認知症の要因と鑑別方法と 予防的介入・治療的介入	四谷淳子 古谷和紀
15-17	急性期治療をうける高齢者と家族への看護	急性期における倫理的課題と高齢者の尊厳を守る看護、家族の意思決定支援	古谷和紀
18-20	急性期治療をうける高齢者の退院支援計画	入院初期から退院・在宅移行への計画立案（家族機能アセスメントを含め）、他職種連携・協働と社会資源の活用とサポート体制の構築プロセス	古谷和紀
21-28	急性期治療をうける高齢者のフィジカルアセスメント	呼吸器系・循環器系・消化器系・脳神経系・筋・骨格系のアセスメントとその看護	長谷川智子 北野華奈恵 小淵岳恒
29-30	演習の統括	これまでの演習を通して、急性期治療をうける高齢者とその家族への看護実践の課題と解決方法を検討する。 認知症看護実践における CNS の役割の考察と自己の課題を明確にする。	四谷淳子 古谷和紀 葉原勇治

授業の形式

講義 ・ 演習

授業形態

対面・遠隔（リアルタイム）

アクティブ・ラーニングの導入状況

・演習 ・実習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・ミニレポート
・ディスカッション

到達目標

- 1.生命の危機状態にある高齢者を包括的にアセスメントするために身体的・心理的反応について理解し、急性期医療上の課題を明らかにし説明できる。
- 2.急性期にある高齢者の生命の維持・回復をはかるとともに、安全で安楽な環境と高齢者の強みを引き出す、ケアとキュアを統合した高齢者の急性期看護を探究できる。
- 3.急性期にある高齢者に発生しやすい、せん妄や廃用性症候群などの要因と評価、予防的看護と発生時の看護について説明できる。
- 4.急性期医療下で高齢者を看護するための、医療専門職者の連携や協働、意思決定支援や入院初期から退院・在宅移行への支援を理解し、CNS の実践上の課題と自己の課題を明確化し説明できる。

準備学習（予習・復習）

○予習

各主題および学習内容を確認し、急性期治療を受ける高齢者の特徴や看護、活用できる理論について大まかに理解した上で授業を受けること。

○復習

授業後は、授業資料の読み返しにより理解に努めること。レポートを課された場合は、指定された期日までに提出すること。

成績評価方法

修学態度、レポート、ゼミナール討論により各教員が評価の上、担当教員の合議により総合的に評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

教科書:特に指定はない

老年看護学特論 I～V の配布資料を活用する。また必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。

参考書

- 1) E.O. コックス (著)ほか: 高齢者エンパワーメントの基礎—ソーシャルワーク実践の発展を目指して, 相川書房, 1997. ISBN:9784750102429
- 2) アイリーン・T.オグラディ (著), メアリー・フラン・トレーシー (著): 高度実践看護—統合的アプローチ, 第2版, へるす出版, 2021. ISBN:9784892699962

その他履修上の注意点等

質問は担当回の教員または代表教員にメールしてください。

代表者

(氏名・E-Mail)

長谷川智子・hasekatz@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：	専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER110	
単位数：	2単位	コマ数	30コマ	開講時期：	1年次後期
授業科目名：	老年看護学演習Ⅱ（認知症看護）			キーワード：	老年看護、高齢者、認知症、BPSD
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス		
○四谷 淳子	教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp		
濱野 忠則	准教授／福井大学医学系部門医学領域 内科学（2）		hamano@u-fukui.ac.jp		
直井 千津子	講師／金沢医科大学 看護学部		c-naoi@kanazawa-med.ac.jp		
森垣 こずえ	老人看護専門看護師／金沢医科大学病院		morigaki@kanazawa-med.ac.jp		
学修目標					
認知症の機序と治療方法、診断技術を理解し、重症度とBPSDのアセスメント能力を身につけて、認知症高齢者と家族の生活障害と心理的苦悩の理解に基づいた、高度で、専門的な生活への看護実践ができる。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1	認知症高齢者の理解（1）	認知症高齢者の看護の基本、認知症者の体験世界の理解		四谷淳子	
2	認知症高齢者の理解（2）	パーソンセンタードケアと看護、認知症高齢者とその家族の理解		四谷淳子	
3	認知症の病態・診断・治療（1）	認知症の病態生理、検査と診断		濱野忠則	
4	認知症の病態・診断・治療（2）	アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体病、前頭側頭型認知症の診断基準と症状・治療①		濱野忠則	
5	認知症の病態・診断・治療（3）	アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体病、前頭側頭型認知症の診断基準と症状・治療②		濱野忠則	
6	認知症の病態・診断・治療（4）	中核症状と周辺症状（BPSD）の治療		濱野忠則	
7	認知症ケアの実際 （フィールドワーク1）	認知症をもつ高齢者のケアの実際とスタッフ行動を通して考える。 地域で暮らす認知症高齢者ケアの実際を知る。 【施設：福井北中央地域包括支援センター】		四谷淳子	
8	〃	〃		四谷淳子	
9	〃	〃		四谷淳子	
10	〃	〃		四谷淳子	
11	認知症の看護（事例検討）（1）	フィールドワークで学んだ認知症ケアをもとに、認知症高齢者看護を考える。		四谷淳子	
12	認知症の看護（事例検討）（2）	〃		四谷淳子	
13	認知症の予防的介入と効果（1）	アクティビティケア、回想法など認知症の予防的介入とその効果について 文献から効果について検証し、討議する。		四谷淳子	
14	認知症の予防的介入と効果（2）	〃		四谷淳子	

15	認知症高齢者と家族への支援 (1)	認知症をもつ方とのコミュニケーション	直井千津子 森垣こずえ
16	認知症高齢者と家族への支援 (2)	中核症状と周辺症状 (BPSD) への対応、生活行動への援助	直井千津子 森垣こずえ
17	認知症高齢者と家族への支援 (3)	認知症高齢者と家族へのアセスメント・看護計画立案	直井千津子 森垣こずえ
18	認知症看護における連携と協働 (1)	認知症高齢者と家族の課題について	直井千津子 森垣こずえ
19	認知症看護における連携と協働 (2)	地域におけるサポートシステム、CNS の役割	
20	認知症高齢者の倫理的課題 (1)	認知症高齢者における倫理的課題の理解	
21	認知症高齢者の倫理的課題 (2)	認知症高齢者とその家族にかかわる倫理的課題と支援、および倫理調整について	直井千津子 森垣こずえ
22	認知症ケアの実際 (フィールドワーク 2)	認知症をもつ高齢者のアセスメントおよび看護計画を立案する。フィールドワーク 1 との視点の変化を考察し、専門看護師の認知症高齢者への看護の役割を明確にする。 【施設：極ほっと 認知症グループホーム】	四谷淳子
23	〃	〃	四谷淳子
24	〃	〃	四谷淳子
25	〃	〃	四谷淳子
26	〃	〃	四谷淳子
27	〃	〃	四谷淳子
28	演習の統括 (1)	フィールドワークで体験した、認知症高齢者とその家族への看護実践の課題と解決方法を検討する。	四谷淳子 直井千津子 森垣こずえ
29	演習の統括 (2)	〃	四谷淳子 直井千津子 森垣こずえ
30	演習の統括 (3)	認知症看護実践における CNS の役割の考察と自己の課題を明確にする。	四谷淳子 直井千津子 森垣こずえ

授業の形式

講義 ・ 演習 ・ 実習

授業形態

対面・遠隔 (リアルタイム)

アクティブ・ラーニングの導入状況

・演習 ・実習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・現地調査 ・ミニレポート ・ディスカッション

到達目標

1. 認知症の病態・症状・診断・治療を最新の研究に基づき理解し説明できる。
2. 認知症高齢者を取り巻く環境を理解し、包括的にアセスメントできる。
3. 認知症高齢者および家族を取り巻く倫理的課題を分析・考察し、その支援方法を説明できる。
4. 認知症の周辺症状 (BPSD) とその支援方法を説明できる。
5. 認知症高齢者および家族への支援における他職種との連携・協働の意義を理解し述べることができる。
6. 認知症高齢者および家族の現状を踏まえ、キュアとケアを統合した専門的で高度なケア実践を考えることができる。

できる。	
準備学習（予習・復習）	
○予習・復習	
<ul style="list-style-type: none"> ・第1回～第6回、第13～21回までは関連図書を読み、授業に臨むこと。 ・事前に認知症をもつ高齢者のケアを学習の上フィールドワーク1に臨み、終了後に課題レポートを提出すること。 ・第1回～第22回、フィールドワーク1で学習したことを復習し、フィールドワーク2に臨み、終了後に課題レポートを提出すること。 	
成績評価方法	
事例検討の内容（40%）、課題レポート（40%）、参加態度（20%）を総合して評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
教科書	
1) 日本看護協会編集：認知症ケアガイドブック，照林社，2018。ISBN：9784796523851	
・老年看護学特論Ⅰ～Ⅴの配布資料を活用する。また必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。	
参考書	
1) 寛 裕介（著），樋口直美（監修），認知症未来共創ハブほか（監修）：認知症世界の歩き方，ライツ社，2021。 ISBN：978 4909044327	
2) 日本神経学会監修：認知症疾患診療ガイドライン2017，医学書院，2017。ISBN：9784260028585	
3) 大庭輝（著），佐藤眞一（著）：認知症 plus コミュニケーション 怒らない・否定しない・共感する，日本看護協会出版会，2021。ISBN: 9784818023413	
4) 安武綾（著）：認知症 plus 家族支援：地域で安心して暮らすために，日本看護協会出版会，2020。 ISBN: 9784818022744	
5) 鈴木正典（編集）：認知症 plus 回想法 別冊写真集で振り返るあの頃の暮らし，日本看護協会出版会，2019。 ISBN: 9784818022096	
6) 鈴木みずえ（編集）：認知症 plus 転倒予防 せん妄・排泄障害を含めた包括的ケア，日本看護協会出版会，2019。 ISBN: 9784818021808	
その他履修上の注意点等	
質問は担当回の教員または代表教員にメールしてください。	
フィールドワークの内容や方法については、別途提示する。	
代表者 (氏名・E-Mail)	四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER111
単位数：	2単位	コマ数	30コマ	開講時期：	1年次後期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学実習Ⅰ（CNS役割）				老年看護、高齢者、CNS役割	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
花房 由美子		老人看護専門看護師／神戸市立医療センター中央市民病院		hanafusa@kcho.jp	
古谷 和紀		老人看護専門看護師／京都大学医学部附属病院		fururu_to0515@yahoo.co.jp	
学修目標					
・老人看護専門看護師が果たしている6つの役割（実践、教育、相談、調整、倫理、研究）を理解し、専門看護師として取り組むべき自己の課題を明確にすることができる。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)			(教員)
1-	老人看護専門看護師役割実習 【実習病院】 ・神戸市立医療センター中央市民病院 ・京都大学医学部附属病院	<ul style="list-style-type: none"> ・老人看護専門看護師が実際の場面でどのように実践的な役割を果たしているのか、実践の意図や役割について理解する。 ・老人看護専門看護師のコンサルテーションに同行し、コンサルテーションに必要な知識や技術を理解する。 ・老人看護専門看護師が行っている調整的な役割について理解する。 ・老人看護専門看護師が行っているケアの質向上を目指した教育活動を理解できる。 ・老人看護専門看護師が行っている臨床における研究活動の実際を理解できる。 ・倫理的問題の解決に向けた老人看護専門看護師の果たす役割を理解できる。 ・老人看護専門看護師の役割開発と課題について考え、言語化することができる。 ・老年看護の質の向上にむけた組織内の活動を理解する。 ・自己の専門看護師像を描き、取り組むべき課題を明らかにする。 			四谷淳子 花房由美子 古谷和紀
(方法)					
<p>実習目標を踏まえ、実習指導者と相談及びスーパービジョンを受けながら、自立して実習計画を立案し、それにそって実習を行う。日々の実習の学びを記録し、振り返りを行う。カンファレンス等では、実習目標到達に向けた取り組んだ実習内容を実習指導者や教員より助言をもらいながら統合させる。最終的に実習目標到達に向けての学びをレポートにまとめる。</p> <p>実習施設の就業時間を参考に、実習開始・終了時間を決定する。教員は、実習全体の企画ならびスーパービジョンを行う。また、実習上での即決を必要とする調整がある場合、その任にあたる。さらに、教員は、最終日の</p>					

カンファレンスに参加し、学生の学びを深められるように適切なアドバイザーとしての役割を担う。

(実習スケジュール)

	月	火	水	木	金
1週目	オリエンテーション 老人CNSIに同行し参加観察				中間カンファレンス CNSとしての役割と機能の学びを整理し、自習からの看護計画を立案する。 受け持ち対象者の理解と看護計画の立案。 指導者・教員からの指導をうける。
	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	
2週目	老人CNSIに同行し看護実践する 受け持ち対象者への看護実践	スーパービジョンを受けながら看護実践に活かす			最終カンファレンス CNSの活動、看護実践からの学びを発表。 今後の活動に向けた展望と課題についてディスカッションする。
	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	

授業の形式

実習

授業形態

対面

アクティブ・ラーニングの導入状況

- ・実習
- ・プレゼンテーション
- ・授業外学習の推進
- ・ミニレポート
- ・ディスカッション
- ・その他 ()

到達目標

1. 個人・家族または集団に対する専門看護師の卓越した看護実践について説明できる。
2. 看護職者を含むケア提供者に対する専門看護師のコンサルテーション機能について説明できる。
3. 専門看護師が必要なケアを円滑に提供するために行う、保健医療福祉に携わる人々の間の調整機能について説明できる。
4. 看護職者のケアを向上させるために専門看護師が果たすべき教育的機能について説明できる。
5. 専門看護師が行う倫理的な問題・葛藤についての関係者間の倫理的調整機能について説明できる。
6. 専門看護師が実践の場で行う、専門知識・技術の向上や開発を図るための研究活動について説明できる

準備学習（予習・復習）

- 1) 実習課題を明確にして実習計画を立て、実習施設を教員との調整のもと決定すること。
- 2) 実習に際しては、毎日、実習を振り返ると共に、翌日の行動計画を立案して実習に臨むこと。
- 3) 高度実践看護を提供するために、根拠となる知識を事前に調べたうえで実習に臨むこと。

成績評価方法

目標達成度、実践状況（看護実践能力を重視する）、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。レポートは、課題に即した倫理性・内容性・表現性を重視する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

指定なし。老年看護学特論Ⅰ～Ⅴ、老年看護学演習Ⅰ～Ⅱの配布資料を活用する。必要時参考文献を紹介する。

その他履修上の注意点等

質問・相談は随時受け付けます。

学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。

代表者

(氏名・E-Mail)

四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER212
単位数：	4単位	コマ数	90コマ	開講時期：	2年次前期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学実習Ⅱ（急性期看護）				老年看護、高齢者、急性期治療、教育、コンサルテーション、多職種連携、継続看護、家族看護	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
古谷 和紀		老人看護専門看護師／京都大学医学部附属病院		fururu_to0515@yahoo.co.jp	
花房 由美子		老人看護専門看護師／神戸市立医療センター中央市民病院		hanafusa@kcho.jp	
学修目標					
<ul style="list-style-type: none"> 急性期の複雑な看護ニーズをもつ高齢者とその家族について、身体・精神・生活等を総合的に評価する能力を高め、ケアとキュアを統合した質の高い看護が実践できる。 急性期の臨床状況において高齢者とその家族に遭遇する倫理的課題を解決するために、適切な意思決定ができるように倫理的調整を行うことができる。 急性期にある高齢者とその家族が希望する生活の場で生活ができるよう、家族・施設内外の保健医療福祉関係者に対し、調整を実施できる。 					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1-	急性期における高齢者看護実習 【実習病院】 ・神戸市立医療センター中央市民病院 ・京都大学医学部附属病院	<ul style="list-style-type: none"> 高度先進かつ総合的診療機能をもち診療ならびに看護を提供している病院で実習する。 急性期疾患によって入院加療中の複雑な健康問題を抱え、高度な看護実践能力を必要とする高齢者を、入院から退院まで受け持ち、フィジカルエクザミネーション、看護理論を基に幅広い視野で収集した情報、アセスメントを基に質の高い看護を展開する。 高齢者の持っている力を発揮できるように、医療チームの一員として連携して援助する。 受け持ち高齢者の看護計画を立案し、病棟指導者の指導を受け、自己の看護実践を病棟指導者や指導教員と共に検討する。 急性期にある高齢者とその家族に生じやすい倫理的問題を解決するために適切な意思決定ができるように支援することができる。 急性期にある高齢者の療養場所の移行に際し、高齢者と家族が希望する生活の場を把握し、最良の選択を行うための社会資源の把握、施設内外との調整をする。 		四谷淳子 古谷和紀 花房由美子	

(方法)

実習目標を踏まえ、実習指導者と相談及びスーパービジョンを受けながら、自立して実習計画を立案し、それにそって実習を行う。日々の実習の学びを記録し、振り返りを行う。カンファレンス等では、実習目標到達に向けた取り組んだ実習内容を実習指導者や教員より助言をもらいながら統合させる。最終的に実習目標到達に向けての学びをレポートにまとめる。

実習施設の就業時間を参考に、実習開始・終了時間を決定する。教員は、実習全体の企画ならびスーパービジョンを行う。また、実習上での即決を必要とする調整がある場合、その任にあたる。さらに、教員は、最終日のカンファレンスに参加し、学生の学びを深められるように適切なアドバイザーとしての役割を担う。

(実習計画)

実習は4週間とし、急性期治療をうける高齢者を2例受け持ち、高度な看護実践をする。

(実習スケジュール)

	月	火	水	木	金
1週目	病院の概要および実習関連部署のオリエンテーション 受け持ち対象者紹介 ケアとキュアの側面から情報収集・アセスメントを行う	受け持ち対象者の看護実践に参加しながら、ケアとキュアにもとづき看護計画・立案・実践を行う			第1回 中間面接 ・教員と面接を行い、看護問題、看護の方向性、自己の課題について検討する ・指導者からスーパービジョンを受ける
	施設の教育プログラムに参加する				
2週目	看護計画提出 スーパービジョンを受けながら、看護計画にもとづき看護を実践する				中間カンファレンス ・実習指導者、教員とカンファレンスを行い、看護問題、目標、看護計画の適切性、必要な調整、倫理調整について、アドバイスを受ける ・看護計画の修正
	施設の教育プログラムに参加し、教育を実施する。	意図的に看護チームメンバーからコンサルテーションを受ける機会をもち、分析した内容および看護ケアについてフィードバックし、その後の反応や経過を観察する。			
3週目	修正した看護計画提出 修正した看護計画にもとづき看護を実践する	受け持ち対象者の看護実践に参加しながら、ケアとキュアにもとづき看護計画・立案・実践を行う。			第2回 中間面接 ・教員と面接を行い、自己の課題について検討する
	施設の教育プログラムに参加する				高齢者とその家族に適切な退院支援を実践するために、包括的なアセスメントを進める。 実習施設の教育ニーズを把握し、教育プログラムを企画する。
4週目	スーパービジョンを受けながら看護実践に活かす 退院支援、高齢者とその家族に生じた倫理的問題の調整、教育・相談活動・ケア調整について実践する。				最終カンファレンス 実践した高度な看護実践・評価ならびに退院支援など実践した看護活動・評価、今後の課題を明確にする。 コンサルテーションの一連のプロセスについて、指導者・教員よりスーパービジョンを受け、看護実践能力を高めるための課題と解決策を見出す。
	施設の教育プログラムに参加し、教育を実施する。				CNSとしての教育活動のあり方について意見交換を行う。

授業の形式

- ・ 実習

授業形態

対面・ 遠隔（リアルタイム）

アクティブ・ラーニングの導入状況	
・実習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・ディスカッション	
到達目標	
<p>1) 身体疾患・治療により危機的状況にある高齢者と家族に対する看護ならびアプローチを実践、評価できる。</p> <p>2) 急性期治療の場における看護の質向上に必要な課題を見出すことができる。</p> <p>3) 急性期治療の場における看護の質向上のためのアプローチ方法を実習施設のスタッフと共に検討し、実践できる。</p> <p>1). 慢性期（急性増悪期を含む）～回復期を見すえた老人看護実践に必要な心身のアセスメント方法と回復期への移行を促進する看護実践方法を身につける。</p> <p>2). 老人看護専門看護師の指導を受けることを通し、医療機関で治療を受ける高齢者への包括的アセスメントの方法と高齢者の生活を整えるために必要な看護支援（家族の協力、サービスの利用を含む）を提供できる。</p> <p>3). ハイリスク要因の見極めや日常生活を送る上で起こり得る問題を予測し、高齢者のセルフケア能力（心身の整え方）を引き出す看護実践を考えることができる。</p>	
準備学習（予習・復習）	
<ul style="list-style-type: none"> ・実習要項を確認し、実習の目的・目標を理解しておく。また、実習施設の場所・理念や方針・組織・看護提供体制をホームページ等活用して情報を入手し確認しておく。 ・実習の目的・目標達成のための、具体的な実習計画（課題、受け持つ対象者像、日程と具体的な活動など）作成し、教員・臨地実習指導者と調整する。 ・実習に際しては、毎日、実習を振り返ると共に、翌日の行動計画を立案して実習に臨むこと。 ・高度実践看護を提供するために、根拠となる知識を事前に調べたうえで実習に臨むこと。 ・ケースカンファレンスを通して、資料を作成すること。 ・チームに必要と判断された教育課題に関する教育実施計画および学習会資料は事前に作成し、指導者と相談・調整すること。 	
成績評価方法	
目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。	
成績評価基準	
福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。	
教科書及び参考書	
指定なし。老年看護学特論Ⅰ～Ⅴ、老年看護学演習Ⅰ～Ⅱの配布資料を活用する。必要時参考文献を紹介する。	
その他履修上の注意点等	
<p>質問・相談は随時受け付けます。</p> <p>学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。</p>	
代表者 (氏名・E-Mail)	四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門看護師教育課程（CNS）		科目番号：	62GER213
単位数：	4単位	コマ数	90コマ	開講時期：	2年次前期
授業科目名：				キーワード：	
老年看護学実習Ⅲ（認知症看護）				老年看護、高齢者、認知症看護、教育、 コンサルテーション、多職種連携、継続 看護、家族看護	
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス	
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp	
直井 千津子		講師／金沢医科大学 看護学部		c-naoi@kanazawa-med.ac.jp	
森垣 こずえ		老人看護専門看護師／金沢医科大学 大学病院		morigaki@kanazawa-med.ac.jp	
菓子尾 美保		認知症看護認定看護師／福井勝山 総合病院		Kashio-miho@fukui.jcho.go.jp	
学修目標					
病院や施設で生活する認知症高齢者に対し、最先端の認知症の診断・検査・治療を学びながら、認知症の状態と心身の状態を包括的にアセスメントし、倫理的判断に基づいて、その人らしさを発揮した、認知症の症状・経過に応じた高度な専門的看護実践能力を修得する。また、多職種・他機関と連携・協働ができる能力を修得する。					
各回の授業の内容					
(回)	(主題)	(学修内容)		(教員)	
1-	認知症高齢者看護実習 【病院実習（2単位）】 【実習病院】 ・金沢医科大学病院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症センター（もの忘れ外来） 検査・診断・治療の見学を通して、各職種の先駆的な取り組みや、集団家族指導・相談、地域連携を学ぶ。 認知症高齢者のその家族の生活とニーズを理解し、在宅生活継続のための生活の再構築に向けた認知症治療と看護の役割を学ぶ。 ・ 病棟実習 認知症をもつ高齢者を2名受け持ち（うち1名は BPSD をもつ高齢者、高齢者や家族に生じている課題を、専門知識を用いて包括的にアセスメントし、生活の質、尊厳を尊重し、認知症の症状・経過に応じた看護実践を行う。 ・ 看護スタッフおよび多職種と連携して高度なダイレクトケアを実践する。 ・ 多職種と情報を共有し、看護の専門的ケアを考察する。 ・ スーパービジョンを受けながら、自己の専門性を発展させ、専門看護師としての自己の課題を明確にする。 		四谷淳子 直井千津子 森垣こずえ 菓子尾美保	

	<p>【施設実習（2単位）】</p> <p>【実習施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福井勝山総合病院附属 介護老人保健施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑で困難な課題を抱える認知症をもつ高齢者を1～2名受け持ち、専門的な知識や理論を活用してアセスメント、プラン立案、実践、評価の看護過程を実践する。教員や臨床指導者のスーパービジョンを受け、安全性も考慮する。 ・看護師だけでなく、介護職員、介護支援専門員等の他職種に対しても意見交換を行い、老人看護専門看護師としての役割を自覚し、チームケアの質を向上するための取り組みについて考える。 ・受け持ち対象者だけでなく、他の対象者にも目をむけ、積極的に認知症看護の実践を行う。 ・認知症高齢者の倫理的判断を必要とされる看護場面で、倫理基準等にもとづいて適切な倫理判断と関係者間の倫理的調整と意思決定の支援を行う。 ・介護保険制度のなかでの施設の役割や機能を考慮し、場のニーズを踏まえたケアの質向上をもたらすスタッフ教育計画を企画・実践する。 	
--	---	--	--

(方法)

実習目標を踏まえ、実習指導者と相談及びスーパービジョンを受けながら、自立して実習計画を立案し、それにそって実習を行う。日々の実習の学びを記録し、振り返りを行う。カンファレンス等では、実習目標到達に向けた取り組んだ実習内容を実習指導者や教員より助言をもらいながら統合させる。最終的に実習目標到達に向けての学びをレポートにまとめる。

教員は、最終日のカンファレンスに参加し、学生の学びを深められるように適切なアドバイザーとしての役割を担う。

(実習スケジュール)

【病院実習】		月	火	水	木	金
1週目	病院及び実習関連部署のオリエンテーション		認知症センター見学実習 集団指導・相談、地域連携の場に参画し、生活の再構築に必要な環境調整と家族支援の実際を学ぶ	受け持ち対象者の看護実践に参加しながら、ケアとキュアにもとづき看護計画・立案・実践を行う。		中間カンファレンス ONSとしての役割と機能の学びを整理し、自習からの看護計画を立案する。 受け持ち対象者の理解と看護計画の立案。 指導者・教員からの指導をうける。
	認知症センター見学実習 認知症高齢者への検査・診断・治療の見学を通して、各職種の先駆的な取り組みを学ぶ		受け持ち対象者紹介 ケアとキュアの側面から情報収集・アセスメントを行う。	高齢者とその家族に適切な退院支援を実践するために、包括的なアセスメントを進める。		
2週目			カンファレンス 病院内の教育プログラムに参加する	カンファレンス	カンファレンス	
	老人ONSに同行し看護実践する受け持ち対象者への看護実践		スーパービジョンを受けながら看護実践に活かす			最終カンファレンス ONSの活動、看護実践からの学びを発表。 今後の活動に向けた展望と課題についてディスカッションする。
	退院支援、高齢者とその家族に生じた倫理的問題の調整、教育・相談活動・ケア調整について実践する。					
	施設の教育プログラムに参加し、教育を実施する。		カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	

【施設実習】					
	月	火	水	木	金
1週目	介護老人保健施設及び実習に関連する部署・施設のオリエンテーション	受け持ち対象者の生活の質、尊厳を尊重し、認知症の症状・経過に応じた看護計画・立案・実践を行う。			中間カンファレンス GNSとしての役割と機能の学びを整理し、自習からの看護計画を立案する。
	受け持ち対象者紹介 専門知識を用いて包括的にアセスメントする。			施設内でのアクティビティケアを実践	受け持ち対象者の理解と看護計画の立案 指導者・教員からの指導をうける。
		カンファレンス 施設の教育プログラムに参加する	カンファレンス	カンファレンス	
2週目	看護師・介護スタッフに同行し看護実践する	スーパービジョンを受けながら看護実践に活かす 施設内での担当者サービス担当者会議の参加			最終カンファレンス GNSの活動、看護実践からの学びを発表。 今後の活動に向けた展望と課題についてディスカッションする。
	受け持ち対象者への看護実践				
	施設の教育プログラムを企画し実施する。(看護師、介護スタッフへの教育)	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	

授業の形式

・実習 ・実技

授業形態

対面 ・ 遠隔 (リアルタイム)

アクティブ・ラーニングの導入状況

・実習 ・問題解決型学習 ・プレゼンテーション ・グループワーク ・ディスカッション

到達目標

1. 受け持ち高齢者とその家族の状況と診断や病態、治療方針から包括的にアセスメントし、受け持ち高齢者とその家族の健康課題を説明できる。
2. 認知症高齢者と家族へのケア内容やケア提供システムについて現状を把握し、病棟または施設ケアチームと共により良い方向に向けたケア提供について検討できる。
3. 認知症高齢者が入院・入所や施設利用している医療機関または施設の実態、看護部と病棟が目指す看護理念を理解し、実習計画を立案できる。
4. 受け持ち高齢者とその家族の担当看護師と共に、治療処置と生活支援を統合した看護目標を設定し、共有する。
5. 研究的視点を持って、担当看護師と共に、老人看護専門看護師にコンサルテーションしながら、病棟・施設のケアチームの意見を取り入れ、認知症高齢者とその家族が尊厳をもち生活が送れるよう看護実践できる。
6. 担当看護師と受け持ち高齢者とその家族と共に、在宅・病院・施設への移行を視野に入れて、倫理的な意思決定を含む具体的な援助方法に関して合意形成できる。担当看護師と協働して、実践した看護を振り返り、評価できる。
7. 受け持ち高齢者とその家族に関連した老人看護専門看護師の5つの役割(コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究)において、老人看護専門看護師のサポートを受けながら、参加する。
8. スタッフ教育の役割については、老人看護専門看護師のサポートにより一部実施する。
9. サブスペシャリティとしての認知症高齢者看護としての直接ケアを実践すると共に、専門看護師の6つの役割遂行時、状況に応じて、タイムマネジメントしながら動くことができる。

準備学習(予習・復習)

- ・実習要項を確認し、実習の目的・目標を理解しておく。また、実習施設の場所・理念や方針・組織・看護提供体制をホームページ等活用して情報を入手し確認しておく。
- ・実習の目的・目標達成のための、具体的な実習計画(課題、受け持つ対象者像、日程と具体的な活動など)作成し、教員・臨地実習指導者と調整する。
- ・実習に際しては、毎日、実習を振り返ると共に、翌日の行動計画を立案して実習に臨むこと。
- ・高度実践看護を提供するために、根拠となる知識を事前に調べたうえで実習に臨むこと。
- ・ケースカンファレンスを通して、資料を作成すること。
- ・チームに必要と判断された教育課題に関する教育実施計画および学習会資料は事前に作成し、指導者と相談・調整すること。

成績評価方法

目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。

成績評価基準

福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60 点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。

教科書及び参考書

指定なし。老年看護学特論 I～V、老年看護学演習 I～II の配布資料を活用する。必要時参考文献を紹介する。

その他履修上の注意点等

質問・相談は随時受け付けます。

学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。

代表者

(氏名・E-Mail)

四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp

教育研究区分：		専門科目		科目番号：		62GER214	
単位数：		2単位		コマ数		15コマ	
開講時期：		2年次通年					
授業科目名：				キーワード：			
老年看護学課題研究				老年看護、高齢者			
担当教員名		職名／所属		Eメールアドレス			
○四谷 淳子		教授／コミュニティ看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp			
青木 未来		助教／コミュニティ看護学		m-aoki@u-fukui.ac.jp			
学修目標							
<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学における研究課題を設定し、研究を実施し、論文を完成し公表することを通して専門看護師としての実践上の課題を解決するための研究能力を養う。 ・まだ解決されていない看護上の課題に対する、科学的手法を用いた解決方法を修得する。 ・看護現象を科学的に分析・評価し、創造的な看護を開発するための基礎的研究能力を修得する。 							
各回の授業の内容							
(回)	(主題)	(学修内容)				(教員)	
1	研究課題とテーマの設定	フィールドワークおよび実習において見つけた看護実践の疑問や課題を研究課題として絞り込み、研究意義を明確化する。 研究課題に関する系統的レビューから、研究テーマと目的を設定する。				四谷淳子 青木未来	
2	研究計画書の作成 (倫理審査含む)	研究目的に適切な研究デザインを検討する。 研究目的・研究デザインを踏まえて研究計画を立案する。 計画した研究実施に際しての倫理的配慮を検討する。				//	
3	データ収集および分析	研究計画に基づき、データ収集し分析する。				//	
4	研究論文の作成	分析結果について先行研究との比較を基に考察を深め、論理的に論文を作成する。				//	
5	研究論文の発表	作成した論文の骨子から簡潔明瞭なプレゼンテーション資料を作成し、研究成果を発表する。				//	
授業の形式				授業形態			
演習 ・ 実験				対面 ・ 遠隔 (リアルタイム)			
アクティブ・ラーニングの導入状況							
・実験／演習 ・プレゼンテーション ・ディスカッション							
到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 先行研究を踏まえて、老年看護実践の質向上に寄与する研究課題について論述できる 2. 「人を対象とする医学系研究における倫理指針」を踏まえた研究計画書が作成できる 3. データ収集及びデータ分析ができる 4. 結果から新たな知見を説明できる 5. 先行研究を踏まえて結果を適切に考察できる 							
準備学習 (予習・復習)							
○予習 老年看護に関する文献を検索・レビューし、クリティークの基準に沿ってプレゼンテーション資料にまとめる。							

<p>研究計画立案、実施及び論文記述に関して毎回、課題をまとめる</p> <p>○復習</p> <p>討議の内容を整理し資料にまとめる。</p>	
<p>成績評価方法</p> <p>研究プロセスを通して、その取り組む姿勢、最終修士論文内容と発表状況により教員が評価の上、総合的に評価する。</p>	
<p>成績評価基準</p> <p>福井大学大学院学則、及び福井大学における成績評価基準等に関する規程の成績評価基準に従い、60点以上を合格として、秀・優・良・可・不可の5段階で評価する。</p>	
<p>教科書及び参考書</p> <p>参考図書</p> <p>1) Wayne C. Booth, Gregory G. Colomb., et al : The Craft of Research, Univ of Chicago Pr; Reprint 版, 2016. ISBN: 9780226239736</p> <p>2) D. F.ポーリット, C. T.ベック, 近藤潤子 (翻訳): 看護研究 第2版—原理と方法, 医学書院, 2010. ISBN:9784260005265</p> <p>3) アメリカ心理学会 (APA), 前田樹海, 江藤裕之, 田中建彦 (翻訳): APA 論文作成マニュアル第2版, 医学書院, 2011. ISBN: 9784260012201</p>	
<p>その他履修上の注意点等</p> <p>質問・相談は随時受け付けます。学生の主体的な取り組みに期待する。学生相互に学び合う機会とする。アカデミックディスカッションの意味を考えながら、取り組む。</p>	
<p>代表者 (氏名・E-Mail)</p>	<p>四谷 淳子、jyotsuya@u-fukui.ac.jp</p>